Kodak

Scan Station 700 シリーズ

管理者ガイド

A-61796_ja

サードパーティライセンス

This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group

Copyright (C)2009-2013 D. R. Commander. All Rights Reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the libjpeg-turbo Project nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS", AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

安全性について

- *Kodak* Scan Station 700 シリーズは、9.97 kg の重量を充分に支える平坦な場所に設置します。
- Scan Station を設置する際は、電源コンセントが Scan Station の 1.52 m 以内にあり、簡単にコンセントに接続できることを確認してください。
- Scan Station を移動する場合、2 名で持ち上げて、安全な方法で運んでください。
- ほこりの多い場所や、湿気や蒸気の当たる場所に設置しないでください。感電または出火の危険があります。室内の湿気のない場所でのみ使用してください。
- 機器の電源ソケットを外すときは、コードではなくプラグを持ってください。
- 危険なので、AC アダプタの分解または改造は絶対にしないでください。
- Scan Station に同梱されている AC アダプタ以外の AC アダプタを使用しないでください。Scan Station に同梱されている AC アダプタを Scan Station 以外の製品に使用しないでください。
- 電源コードがコンセントにしっかり接続されていることを確認してください。接続がゆるいと、感電または出火の危険があります。
- 電源コードを破損しないよう注意してください（結ぶ、切る、改造するなどの行為を含む）。また、破損した電源コードは使用しないでください。感電または出火の危険があります。
- Scan Station は壁のコンセントに直接接続し、電気を正しく供給してください。Scan Station に延長ケーブルを使用しないでください。
- 電源コンセントの周辺には十分なスペースを設け、緊急時にすぐにプラグを外せるようにしてください。
- Scan Station が異常に熱い、異臭がする、煙が出る、異音がする場合は、使用を停止してください。Scan Station を即座に停止して、電源コードをコンセントから外してください。Kodak Alaris サービスセンターにご連絡ください。
- 『管理者ガイド』に記載された場合を除き、Scan Station を解体、修理、改造しないでください。
- 電源コードとインターフェースケーブルを接続したまま Scan Station を移動しないでください。電源コードとインターフェースケーブルが破損します。Scan Station を移動する前に、電源コードをコンセントから抜いてください。
- Kodak が推奨する清掃手順に従ってください。エアー、液体、ガススプレークリーナを使用しないでください。これらのクリーナは、ほこり、汚れ、ゴミを Scan Station 内の別の場所に移動させ、スキャナーの故障の原因となる可能性があります。
- 化学製品の化学物質安全データシート (MSDS) は、次の KodakWeb サイトで入手できます。www.kodakalaris.com/go/msds ウェブサイトから MSDS にアクセスする場合、消耗品のカタログ番号を提示する必要があります。

環境に関する情報

- *Kodak* Scan Station 700 シリーズは、環境に対する世界中の要件に対応できるよう設計されています。
- メンテナンスまたはサービス時に交換した消耗品の廃棄についてはガイドラインを参照してください。詳細については、地域の規定に従うか最寄の Kodak 代理店にお問い合わせください。
- *Kodak* Scan Station 700 シリーズは国際エネルギースタープログラムに準拠しており、出荷時にはスリープモードへの移行時間が 15 分に設定されています。
- リサイクルや再利用については、地域の自治体にお問い合わせください（米国の場合は以下を参照してください）。 www.kodakalaris.com/go/scannerrecycling
- 製品パッケージはリサイクル可能です。
- 部品は再利用またはリサイクルを行うように設計されています。

ヨーロッパ連合

このマークは、この製品を廃棄する際に、回収とリサイクルを行う適切な施設への送付が義務付けられていることを表します。本製品で利用できる収集、回収プログラムについては、お近くの Kodak の担当者までご連絡いただくか、www.kodakalaris.com/go/recycle を参照してください。

REACH 規則 ((EC) No. 1907/2006) 第 59(1) 条の対照リストに含まれる物質に関する情報については、 www.kodakalaris.com/go/REACH を参照してください。

電池に関する情報

本製品にはリチウムイオンボタン電池が使用されています。資格を持ったサービス担当の技術者のみが、この電池の取り外しや交換を行うことができます。

注意：

- 電池の種類を間違えて交換すると、破裂する危険性があります。
- 使用済み電池は指示どおりに廃棄してください。

騒音

Maschinenlärminformationsverordnung — 3, GSGV
Der arbeitsplatzbezogene Emissionswert beträgt <70 db(A).

[Machine Noise Information Ordinance — 3, GSGV
操作者位置の騒音量 <70 dB (A) 以下。]

phase est de 230 V.

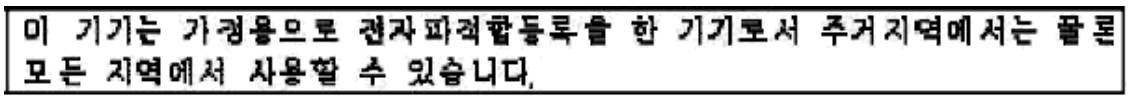
EMC 声明

米国：この装置は、FCC 規則の Part 15 に従った Class A デジタル装置に対する制限に適合していることが検査され、証明されています。これらの制限は、個人の住宅に取り付けた場合に、有害な干渉から適切に保護することをその目的としています。本製品は高周波エネルギーを発生させ、使用し、また放射することもあります。取扱説明書に従って設置およびご使用されない場合は、無線通信に有害な障害をもたらす可能性があります。ただし、特定の設置条件で、干渉が起こらないという保証はありません。この装置が無線通信またはテレビ受信の障害となる場合には（装置をオン／オフすることで判定できます）、次の方法で障害を改善されることをお勧めします。

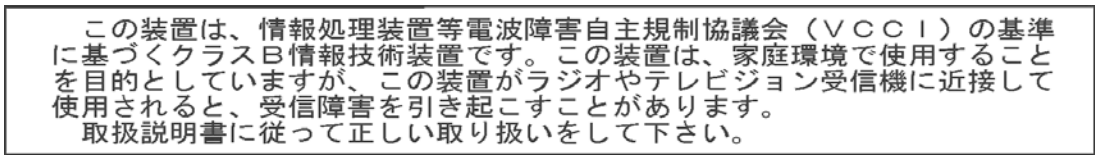
- 受信アンテナの方向や位置を変える。
- 装置と受信機との距離を広げる。
- 受信機を接続している回路とは別の回路のコンセントに装置を接続する。
- 取扱店または信頼できるラジオ / テレビ関係の技術者に問い合わせる。

法令遵守に責任のある当事者により明白に承認されていない変更または修正を行うと、装置を操作する権限が無効になる場合があります。製品に被覆インターフェースケーブルが同梱されている場合、または製品を設置する際に被覆インターフェースケーブルを追加コンポーネント / アクセサリとして使用するように指定されている場合は、FCC 規制に準拠するためにそれらのケーブルを使用する必要があります。

韓国：この機器は家庭で使用するための EMC 登録を取得しており、住宅でご利用いただけます。



日本：この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境でラジオやテレビ受信機の近くで使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい設置と運用を実施してください。



目次

概要 1-1

インストール前のチェックリスト 2-1

インストールと使用 3-1

デバイス設定の定義 4-1

スキャン設定の定義 5-1

インデックステンプレート 6-1

出力先の作成 7-1

グループの追加と管理 8-1

ジョブの作成 9-1

Scan Station の監視と管理 10-1

メンテナンス 11-1

トラブルシューティング 12-1

用語集 13-1

付録 A-C
- 仕様
- ネットワークプロトコル
- 保証

1 概要

目次

同梱品一覧 1-1
Scan Station のセットアップ 1-2
設定 1-3
Scan Station の構成 1-5

Kodak Scan Station 710/730EX は、ホスト PC やアプリケーションソフトウェアを必要としないウォークアップデバイスとして設計されています。既存のネットワークで動作し、既存のネットワークやネットワーク共有サービスを利用して他のネットワークデバイスまたは宛先と通信します。*Kodak* Scan Station 710/730EX は、E メール、ネットワーク、ネットワークプリンタ、USB メモリ、FAX、FTP、SharePoint、Kofax Front Office Server にワンタッチ操作で素早く文書を送信できるスキャンソリューションです。

この管理者ガイドでは、*Kodak* Scan Station 710 と *Kodak* Scan Station 730EX のセットアップおよび管理に必要な情報を説明します。これらのモデルを *Kodak* Scan Station 700 シリーズと呼びます。これらのモデル間に差異がある場合は、注釈を加えています。

同梱品一覧

梱包品内容の確認

- *Kodak* Scan Station 710/730EX
- 電源コード
- 次の物品が入ったフォルダ
  - インストール CD
  - ユーザ登録シート
  - ユーザリファレンスガイド（英語版）
  - メンテナンスリファレンスガイド（英語版）
  - インストール ガイド
  - 連絡先シート（国別）
  - その他のパンフレット（「国内連絡先詳細」や「製品保障の登録は使用しません）

Scan Station のセットアップ

Scan Station 710/730EX を慎重に開梱し、清潔で乾燥している水平な場所に置きます。ポートの場所については、『インストールガイド』またはこの章の後半にある「後部」の説明図を参照してください。

1. 適切な AC 電源コードを選択します。日本国内で使用する場合は必ず 2 ピンの端子側に PSE マークが刻印された電源コードを使用してください。電源アダプタを Scan Station の電源ポートに接続します。電源コードの片端を電源アダプタに接続し、もう一方の端部をコンセントに接続します。
2. 10/100/1000 ベース T ネットワークケーブル（別途ご用意ください）の片端を Scan Station のイーサネットポートに接続し、ネットワークケーブルのもう一方をネットワークポートに接続します。
3. Scan Station 730EX の場合は、電話回線を RJ-11 モデムポートに接続します。
4. Scan Station を正しく接続したら、電源ボタンを押します。起動してアプリケーションが表示されるまでしばらく待ちます。
5. 第 2 章、「*インストール前のチェックリスト*」に進み、*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションのインストールと設定の作成前に、予め必要な設定情報を確認します。
6. 「インストール前のチェックリスト」を確認後、構成を設定できます。詳細については、第 3-9 章を参照してください。

設定

使用する前に *Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションを使用して Scan Station を設定する必要があります。アプリケーションによって Scan Station の設定と管理ができます。

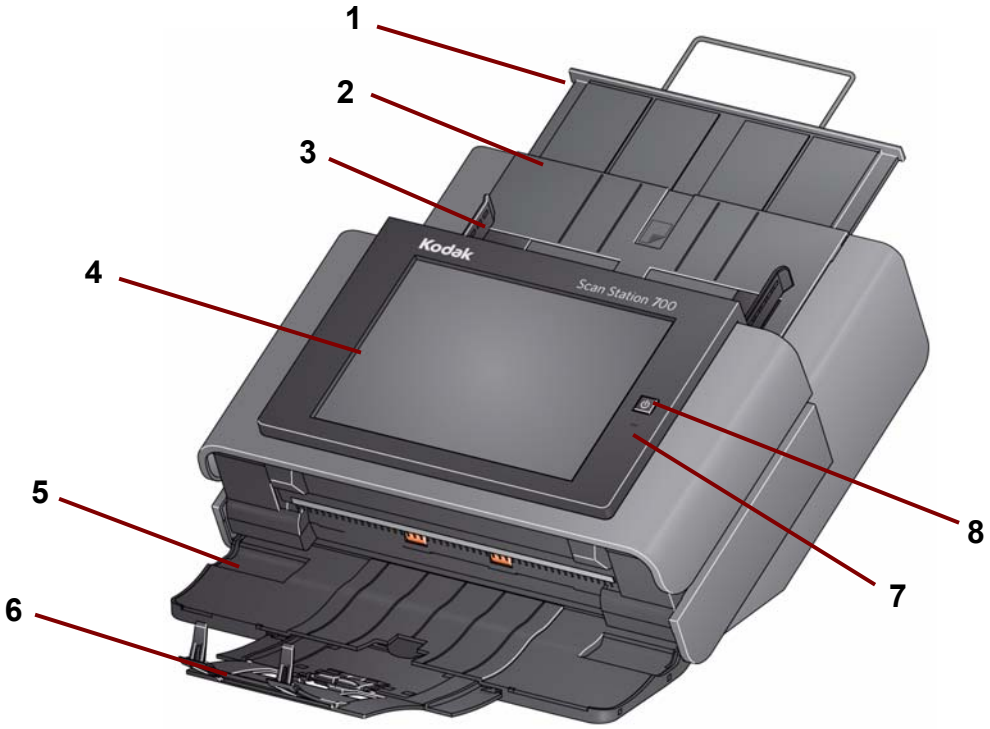
Scan Station の設定はデバイス設定、スキャン設定、インデックステンプレート、出力先、グループ、ジョブ設定で構成されます。これらのオプションは編集メニューを使用して、Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションの設定タブから設定できます。

- **デバイス設定** — 以下の設定アイテムで構成されます。*詳細については、第 4 章を参照してください*。
  - **デバイスオプション** : Scan Station の設定（表示言語、日付、時刻など）に使用されます。
  - **メールサーバ** : SMTP サーバを使用するために Scan Station の設定に使用します。E メールの出力先に文書を送信する場合に、E メールサーバの設定が必要です。
  - **Active Directory Server** : Active Directory Server の場所に設定に使用します。これは Active Directory Server からユーザおよびユーザグループを定義したい場合に必要とします。
  - **FAX** : FAX オプションの設定に使用します。FAX 設定は FAX 経由でスキャンされた文書を送信しようとする場合に必要とします。
- **スキャン設定** — 文書のスキャン方法（黒と白、両面、300 dpi など）、出力フォーマット（PDF、JPEG、XLS など）、特別な処理、およびスキャンした文書の命名方法を決定する項目の定義ができます。複数の設定を行うことができます。たとえば、カラー文書のスキャンのためのスキャン設定、および黒と白の文書のスキャンのためのスキャン設定ができます。スキャン設定を定めた後、後の使用のための設定の名前をつけることを求められます。*詳細については、第 5 章を参照してください*。
- **インデックステンプレート** — インデックステンプレートは（インデックスを参照する様に）スキャンした文書を特定の順序で分類、ソート、または保存します。*詳細については、第 6 章を参照してください*。
- **[出力先]** — スキャンされるイメージが送信または格納される場所を定義できます。Scan Station は文書を E メール、ネットワークフォルダ、プリンタ、FTP、Fax、E メールから Fax、SharePoint、Kofax Front Office Server へ送信 / 保存できます。*詳細については、第 7 章を参照してください*。
- **[グループ]** — グループは特定のユーザまたはユーザグループの使用ジョブの管理に使用します。*詳細については、第 8 章を参照してください*。
- **[ジョブ]** — ジョブはスキャン設定、インデックステンプレート、出力先、グループの組み合わせです。ジョブは *[インボイス]* などのシングルボタンとして Scan Station のユーザインターフェースに表示されます。ジョブによってワンタッチスキャンができます。それはジョブが文書のスキャンおよびフォーマットの方法（スキャン設定）、文書の格納または送信（出力先）場所、および特定のジョブの使用を許可されるユーザまたはユーザグループを定義するからです。*詳細については、第 9 章を参照してください*。

スキャン設定、インデックステンプレート、出力先、グループはジョブの定義前に定義することをお勧めします。スキャン設定、インデックステンプレート、出力先、グループ設定には、それぞれジョブの定義時に関連する名前が付けられます。

Scan Station に強制ユーザログインを設定できます。ログイン情報は各ジョブに定義されたグループと一致します。ユーザが Scan Station ログイン後に表示されるボタンは、そのユーザがアクセスできるジョブのみになります。

Scan Station の構成　　前部



1 **入力トレイエクステンション** — このエクステンションを引き出すと、8.5 x 11 インチ (A4) より長い原稿に対応できます。

2 **入力トレイ** — 80 g/m^2 用紙を 75 枚セットできます。

3 **サイドガイド** — スキャンする原稿の横幅に合わせて、ガイドを調整します。

4 **タッチスクリーン** — ワンタッチ操作で簡単にジョブの選択やオプション選択の検索ができます。タッチスクリーンは Scan Station の主要なユーザインターフェースです。

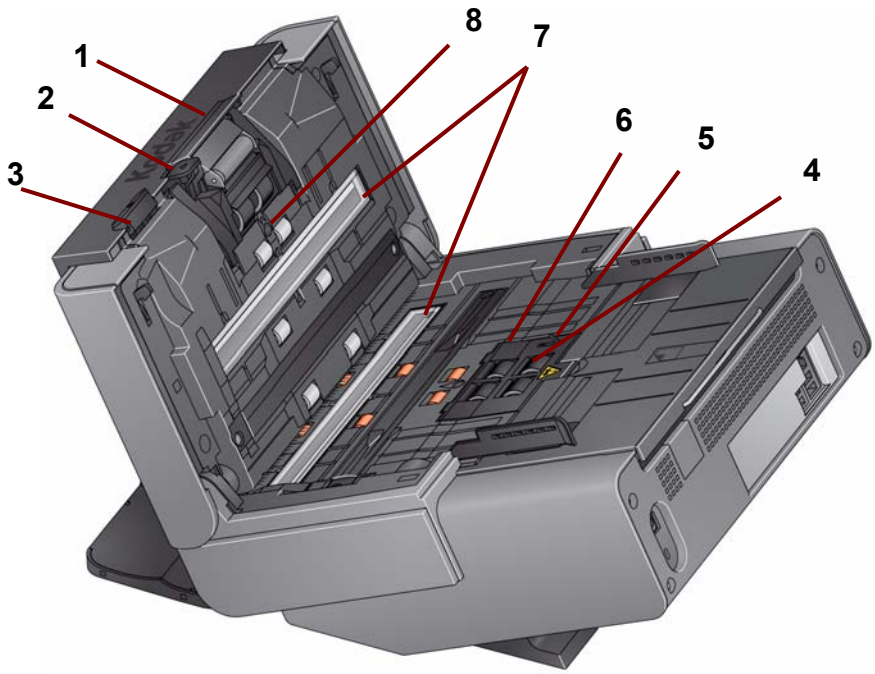
5 **出力トレイ パネル** — 未使用時は搬送部をカバーします。原稿をスキャン時には、このパネルを開きます。開くと、スキャンされた原稿を収納します。出力トレイパネルを閉じた状態では、Scan Station カバーを開くことはできません。

6 **出力トレイエクステンション** — 28 cm より長い原稿をスキャンする場合は、このエクステンションを引き出します。

7 **マイク** — 音声注釈で使用します。

8 **電源** — 電源をオンにします。詳細については、第 12 章の「インジケータ ライト」のを参照してください。

内部



1 **セパレーションモジュールリリースレバー** — セパレーションモジュールを清掃、交換する場合、このリリースレバーを下に押してモジュールを取り外します。セパレーションモジュールは、さまざまなサイズ、厚さ、素材の原稿をスムーズに給紙します。

2 **ギャップリリース レバー** — 特別な処理を必要とする書類に、フィードモジュールとセパレーションローラ間のギャップを手動で調整できます。

3 **カバーリリース レバー** — レバーを押すと Scan Station が開き、搬送部の清掃や紙詰まりの除去などができます。

4 **フィードモジュール** — さまざまなサイズ、厚さ、素材の原稿をスムーズに給紙します。

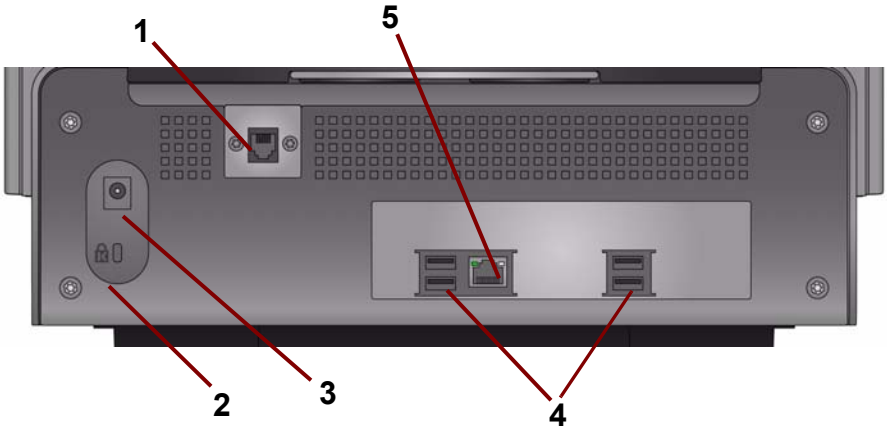
5 **用紙センサ** — 入力トレイにセットされた原稿を検出します。

6 **フィードモジュールカバー** — フィードモジュールやフィードモジュールタイヤを清掃、交換時にこのカバーを外します。

7 **イメージングガイド** — 最適な画質を得るために、上下のイメージングガイドを常に清潔な状態に保ってください。

8 **重送検知センサ** — 重なって給紙された書類を検出します。

後部



1 **モデムポート** — RJ-11 ポートで FAX モデムを電話回線に接続します。Scan Station 730EX 専用です。

2 **セキュリティロック ポート** — セキュリティロックを Scan Station に接続します。標準的なセキュリティロックは、事務用品店などでご購入ください。取り付け手順は、セキュリティロックの付属の手順書を参照してください。

3 **電源ポート** — 電源コード / アダプタを Scan Station に接続します。

4 **USB ポート** — 周辺装置（キーボード、マウスなどのアクセサリ）を Scan Station に接続します。

5 **イーサネットポート** — Scan Station をネットワークに接続します。

2 インストール前のチェックリスト

目次

ネットワーク設定の詳細 2-1
ベストプラクティス 2-1
インストール前のチェックリスト 2-2

ネットワーク設定の詳細

Scan Station はネットワークデバイスであるため、ネットワークの原理と用語は役に立ちます。（ドメインの）ユーザアカウントの作成、フォルダの共有、アクセス権限の設定、汎用命名規則 (UNC)、IP アドレスの使用、完全修飾ドメイン名 (FQDN)、ユーザグループの作成の概念について熟知している必要があります。

注：この項で説明する概念のうちのいくつかは、Microsoft NT ドメインと承認の知識があることを前提としています。詳細については、Microsoft Windows 2003、2008、2012 サーバのマニュアルを参照してください。

ベストプラクティス

[Scan Station ユーザグループ] — ネットワークドメイン環境では、すべての Scan Station にユーザグループを作成する必要があります。このグループは、各 Scan Station に割り当てられたアカウント名を保持するために使用されます。各 Scan Station には、最低 1 つのアカウント名が割り当てられている必要があります。各 Scan Station にユニークなユーザ名とパスワードが割り当てられ、アカウントが Scan Station 用に特別に用意されたグループ内にあると最適です。これらのアカウント名は、Scan Station のネットワーク設定時、[*ユーザ名*]、[*パスワード*]、[*ネットワークドメイン*] フィールドに入力時に使用します。

注：Scan Station グループとログイン名には、ネットワークリソースにアクセスするための適切な権限が割り当てられている必要があります。このネットワークリソースは、Scan Station で［出力先］の選択肢として表示されます。

ワークグループ環境 — Microsoft「Workgroup」設定を使用するネットワーク環境では、最低でも、Scan Station に割り当てるアカウント名とパスワードを作成する必要があります。これらのアカウント名は、Scan Station のネットワークの設定時と、[*ユーザ名*]、[*パスワード*] フィールドに入力するときに使用されます。[*ネットワークドメイン*] フィールドは、Workgroup 環境では空欄にしておく必要があります。

ネットワークフォルダ —［保存先］または［自動設定スケジュールの更新］のいずれかで、ネットワークフォルダの作成をお勧めします。このフォルダには、Scan Station のログインアカウント、または Scan Station 用に作成したユーザグループがアクセスできるようにします（最低でも読み込み、書き込み、アクセスの変更が必要です）。

フォルダの UNC 名 — Scan Station で使用する各ネットワークフォルダの完全修飾の UNC 名を知っておく必要があります。これはネットワーク出力先の設定時に出力先画面の［*完全なディレクトリパスを入力*］フィールドに入力する情報です。たとえば、Scan Station アクセス用に用意されている「*acmeserver*」というサーバに「*scanfolder*」というフォルダを作成します。これは、UNC 名：*\\acmeserver\scanfolder* として参照できます。

NETBIOS の使用 — ルーターを使用するネットワーク環境では、ルーター上のNETBIOSトラフィックをブロックするのが一般的です。スキャンイメージを格納するサーバの IP アドレスを知っておく必要があります。NETBIOS コンピュータ名の代わりにサーバの IP アドレスを代用することで、ネットワークのスキャンを失敗させる可能性のあるネットワークトラフィック制限を回避できます。たとえば、以前に定義したネットワークアドレス「*\\AcmeServer\scanfolder*」は、「*\\192.168.2.10\scanfolder*」のようなアドレスに変換する必要があります。

インストール前のチェックリスト

Kodak Scan Station 710/730EX の設定を行う***前***に、このチェックリストを確認してください。この情報は、初期設定ファイルを作成し、インストールを完了するために必要です。設定ファイルを作成する前に、予め不確定な情報について確認する必要があります。この情報に関して不明点がある場合、システム管理者またはネットワーク管理者にお問い合わせください。

デバイス設定 /IP アドレス ［スキャナ］タブから、**［スキャナ］> ［スキャナの変更］**を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
自動 (DHCP)		第 10 章、「Scan Station の修正」を参照してください。
IP アドレス設定 - 固定		
固定 (IPv4) IP アドレス		
サブネットマスク		
デフォルトゲートウェイ		
優先 DNS サーバー		
代替 DNS サーバ		
優先 WINS サーバ		
代替 WINS サーバ		
デバイス設定 / ネットワーク出力先証明書 ［設定］タブから、**［編集］> ［デバイス設定］**を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
ユーザ名、パスワード、ドメイン		• 第 2 章の Scan Station に関するアカウント作成の「ベストプラクティス」を参照してください。 • 第 4 章の「デバイスオプションの設定」を参照してください。
自動設定スケジュール		

デバイス設定 / メール (SMTP) サーバ ［設定］タブから、**［編集］> ［デバイス設定］**を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
メールサーバアドレス		第 4 章の「E メールの設定」を参照してください。
ユーザ名、パスワード、ドメイン		
ポート		
認証スキーム		
最大添付サイズ		
セキュリティ タイプ		
デバイス設定 /Active Directory Server ［設定］タブから、**［編集］> ［デバイス設定］**を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
サーバアドレス		第 4 章の「Active Directory Server の設定」を参照してください。
ユーザ名、パスワード、ドメイン		
ポート		
ベース DN		
検索フィールド属性		
E- メールアドレス属性		
フルネームフィールド属性		
ホームディレクトリ属性		
FAX フィールド属性		
セキュリティ タイプ		
デバイス設定 /Fax ［設定］タブから、**［編集］> ［デバイス設定］**を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
外線番号		第 4 章の「Fax の設定」を参照してください。
モデム国コード		
LAN FAX サーバドメイン名		
ネットワーク出力先 ［設定］タブから、**［編集］> ［出力先］**を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
完全なディレクトリパス（スキャンした文書を保存するフォルダ）。		第 7 章「ネットワーク出力先のセットアップ」。

プリンタ出力先 ［設定］タブから、**［編集］ > ［出力先］**を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
完全なディレクトリパス（プリンタサーバのキューへのディレクトリパス）		第7章「プリンタ出力先のセットアップ」。
ユーザ名、パスワード、ドメイン		
アドレス（プリンタ直接接続用）		
ドライバ名（プリンタ直接接続用）		
ポート名（プリンタ直接接続用）		

FTP 出力 ［設定］タブから、**［編集］ > ［出力先］**を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
サーバー名とディレクトリパス		第 7 章「FTP サイトのセットアップ」。
ユーザ名、パスワード		
プロトコル (FTP)		
ポート番号		
パッシブ（有効 / 無効）		
プロキシ • プロキシの種類 • プロキシアドレス • ユーザ名 • パスワード • ポート番号		

FTPS 出力 ［設定］タブから、**［編集］ > ［出力先］**を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
サーバー名とディレクトリパス		第 7 章「FTP サイトのセットアップ」。
ユーザ名、パスワード		
プロトコル (FTPS)		
ポート番号		
暗号化		
パッシブ（有効 / 無効）		
SSL サーバ証明書（有効 / 無効）		
プロキシ • プロキシの種類 • プロキシアドレス • ユーザ名 • パスワード • ポート番号		

SFTP 出力 ［設定］タブから、［編集］>［出力先］を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
サーバー名とディレクトリパス		第 7 章「FTP サイトのセットアップ」。
ユーザ名、パスワード		
プロトコル (SFTP)		
ポート番号		
プライベートキーファイル、パスワード		
プロキシ • プロキシの種類 • プロキシアドレス • ユーザ名 • パスワード • ポート番号		
SharePoint 出力 ［設定］タブから、［編集］>［出力先］を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
SharePoint Web サイトの URL		第 7 章、「SharePoint グループの追加」。
ユーザ名、パスワード		
ドキュメント パス		
インデックスフィールド		
証明書、パスワード		
プロキシ • プロキシアドレス • ユーザ名 • パスワード • ポート番号		
Kofax Front Office Server 出力 ［設定］タブから、［編集］>［出力先］を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
Kofax Front Office Server アドレス		第 7 章、「Kofax Front Office Server グループの追加」。
ポート番号		
ユーザ名、パスワード		
クライアント ID		
ショートカットタイプ		
ショートカット名		
インデックスフィールド		
証明書、パスワード		

3 インストールと使用

目次

セットアップの概要 3-1
省電力モードおよび Scan Station の起動 3-1
Kodak Scan Station 700 シリーズ — スキャナー管理アプリケーションのインストール 3-2
メイン画面 3-3
メニュー 3-5
　［ファイル］メニュー 3-5
　［編集］メニュー 3-6
　［スキャナー］メニュー 3-6
　［ヘルプ］メニュー 3-9
アイコン 3-9

セットアップの概要

以下は、Scan Station 710/730EX の設定の準備に必要な内容を示します。

- Scan Station の梱包箱の中にある開梱手順に従って開梱します。
- Scan Station をセットアップし、必要な接続を行います。『インストールガイド』または第 1 章の「Scan Station のセットアップ」を参照してください。
- 第 2 章のインストール前のチェックリストを確認し、Scan Station の設定に必要なすべての情報を収集します。この情報を事前に用意しておくと、Scan Station の設定を容易に行うことができます。
- Scan Station を正しく接続したら、電源ボタンを押します。起動してアプリケーションが表示されるまでしばらく待ちます。
- *Kodak* Scan Station 700 シリーズ — スキャナー管理アプリケーションを PC にインストールします。手順については、本章の後半の「*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションのインストール」のを参照してください。

省電力モードおよび Scan Station の起動

デフォルトでは、15 分間何も操作されないと、Scan Station は自動的に省電力モードになります。

Scan Station を省電力モードから起動するには、電源ボタンを押します。

Kodak Scan Station 700 シリーズ — スキャナー管理アプリケーションのインストール

Kodak Scan Station 700シリーズ - スキャナー管理アプリケーションをホスト PC にインストールする必要があります。*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションを使用すると、ネットワーク上の Scan Station 700/710/720EX/730EX/500/520EX デバイスを効率的にセットアップ、設定、管理ができます。アプリケーションは *Kodak* Scan Station 500 および 700 に対してネットワークを介して通信するため、各 Scan Station への個別アクセスを低減できます。

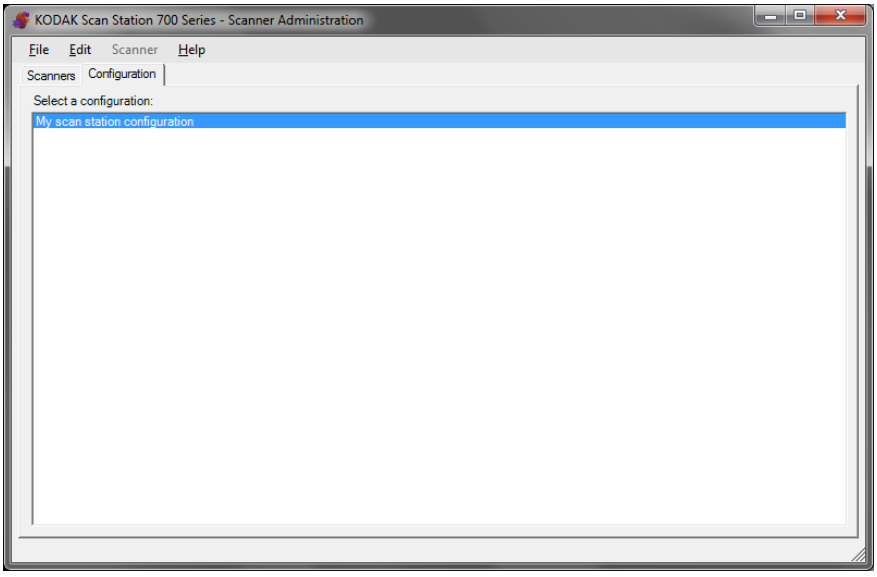
1. 「スキャナー管理および参照資料」と題されたインストール CD を *Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションをインストールするコンピュータの CD-ROM ドライブに挿入します。ソフトウェアのインストールが自動的に始まります。

   注：.NET Framework 4.0 がまだインストールされていない場合、インストーラは *Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションをインストールする前に .NET Framework 4.0 をインストールします。

2. *Kodak* Scan Station 700 シリーズのスプラッシュ画面が表示されたら、**[次へ]** をクリックします。
3. [ようこそ] 画面が表示されたら、**[次へ]** をクリックします。
4. ソフトウェアライセンス使用許諾を読み、**[同意する]** をクリックしてから、**[次へ]** をクリックします。

   [インストール準備の完了] 画面が表示されます。

5. **[インストール]** をクリックして続行します。
6. *Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションのインストール完了後、**[完了]** をクリックします。
7. インストール CD を CD-ROM ドライブから取り出します。
8. インストール後にアプリケーションを実行すると、*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理メイン画面が表示されます。

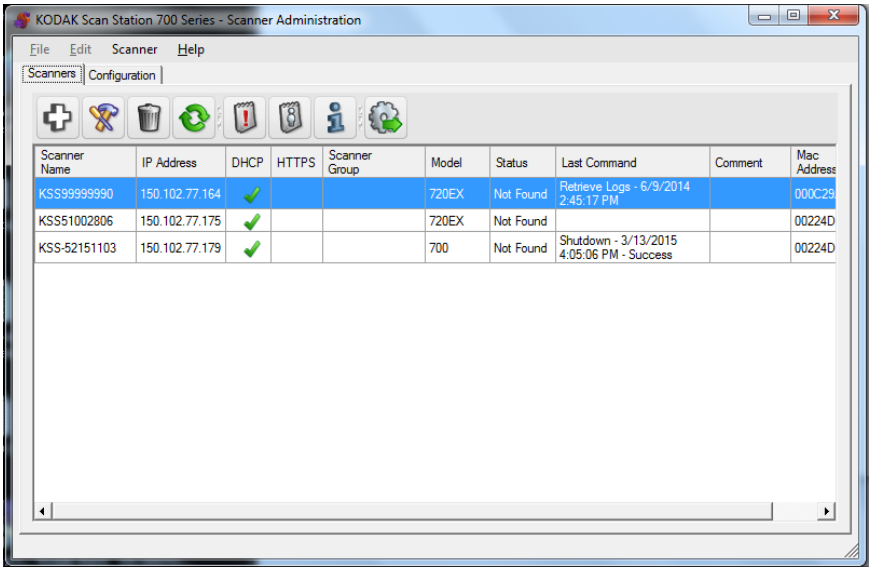


メイン画面

メイン画面には 2 つのタブがあります。

- **スキャナー タブ** — 検出 / 構成済みの Scan Station を監視できます。詳細については、第 10 章、*「Scan Station の管理と監視」* を参照してください。

  注：Scan Station 710/730EX 以外に、*Kodak* Scan Station 500/520EX/700/720EX はスキャナータブとスキャナーメニューから管理できます。

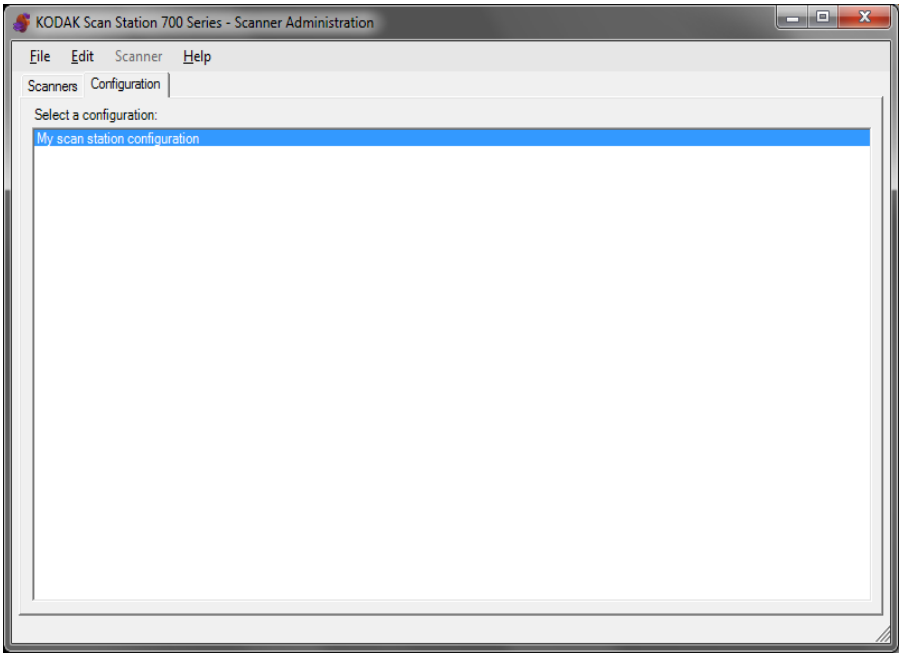


- **設定 タブ** — Scan Station の構成とセットアップができます。この画面には以前に作成した設定のリストが表示されます。

  注：設定タブ、ファイル、編集メニューは Scan Station 700/710/720EX/730EX にのみ適用されます。

  Scan Station 500/520EX は *Kodak* Scan Station 設定オーガナイザを使用して設定する必要があります。詳細は *Kodak* 500/520EX の管理者ガイドを参照してください。

*設定*は、デバイス設定、スキャン設定、インデックステンプレート、出力先、グループ、ジョブ設定の集合です。設定は PC の設定データベースに保存され、*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションで管理されます。設定の詳細な手順は第 4-9 章で説明します。



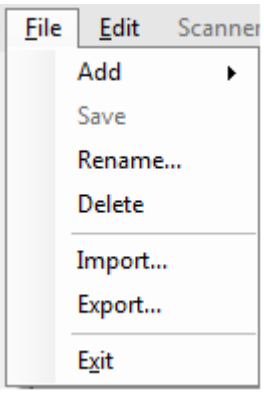
メニュー

ファイル、編集、スキャナー、ヘルプメニューが *Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理のメイン画面で使用できます。

注：設定タブを選択すると、ファイル、編集、ヘルプメニューが使用可能です。

スキャナータブを選択すると、スキャナー、ヘルプメニューが使用可能です。

［ファイル］メニュー



［ファイル］メニューに表示されるメニューオプションを説明します。

[追加]— デフォルトまたは既存の設定から新規設定の作成ができます。

- **デフォルトの設定から**：このオプションを選択すると、デフォルトの設定でデバイス設定画面が表示されます。詳細については、第 4 章の「*デバイス設定*」を参照してください。
- **選択された設定から**：このオプションを選択すると、設定名画面が表示され、現在選択された設定に基づく新規設定に命名することができます。既存の設定を元にして新規設定を行う場合は、既存の設定を選択して、**［ファイル］> ［追加］> ［選択された設定から］**を選択します。設定（デフォルト以外に）がない場合、このオプションはグレイアウトします。

[保存] — *Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションを実行中のPCにある設定データベースに選択された設定を保存します。このオプションは変更した設定（アスタリスクでマークされます）に使用できます。

[名前変更] — 設定名画面を表示し、選択された設定の名前変更ができます。

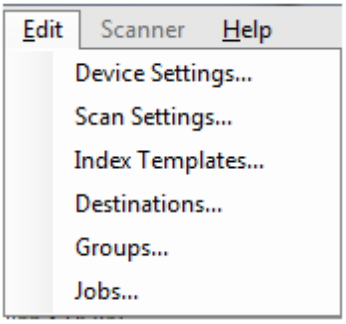
[削除] — 選択した設定を削除します。

[インポート] — 設定ファイルを任意の場所から *Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションにインポートできます。

[エクスポート] — *Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションから設定ファイルを任意の場所にエクスポートできます。

[終了] — *Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションを閉じます。

［編集］メニュー



以下は、［編集］メニューに表示されるメニューオプションの説明です。

デバイス設定 — Scan Station が E メールを送信、セキュリティのためアクティブディレクトリサーバーと通信、Scan Station を初期設定、ファックス設定を行う必要のあるパラメータを選択することができます。詳細については、第 4 章「*デバイス設定*」を参照してください。

［スキャン設定］ — イメージ処理の基本的な設定をします。カラー / グレースケール / 白黒、出力ファイルフォーマット、圧縮、パンチ穴除去や縦縞フィルタなどの詳細なオプションがあります。詳細については、第 5 章「*スキャン設定*」を参照してください。

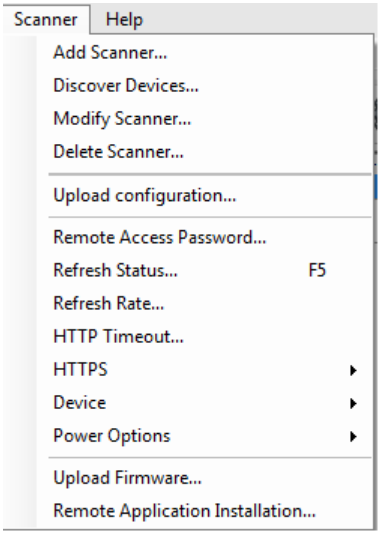
［インデックステンプレート］ — 文書上のバーコードや OCR の読取り領域を定義でき、スキャン文書のファイルパス名に利用できます。詳細については、第 6 章、*「インデックステンプレート」を参照してください。*

［出力先］ — スキャンイメージを送信する場所を定義する出力先（E メール、ネットワークフォルダ、プリンタ、FTP サイトなど）の追加 / 変更ができます。詳細については、第 7 章、*「出力先の作成」を参照してください。*

［グループ］ — Active Directory Server からユーザのグループを作成または変更ができます。Active Directory Server グループにない他のユーザの追加ができます。詳細については、第 8 章、「*グループの追加と管理*」*を参照してください。*

［ジョブ］ — スキャン設定、インデックステンプレート、出力先、ユーザグループの集合であるジョブの作成または変更が可能です。詳細については、第 9 章、*「ジョブの作成」*を参照してください。

［スキャナー］メニュー



以下は、［スキャナー］メニューに表示されるメニューオプションの説明です。これらのオプションに関する詳細および手順については、第 10 章の *「Scan Station の管理と監視」*を参照してください。

［スキャナーの追加］ —［スキャナーの追加］ダイアログボックスが表示され、リモート管理する Scan Station を登録できます。

［機器の検出］ — IP アドレス範囲をスキャンして、その範囲内でリクエストに応答する任意の Scan Station を自動的に登録します。

注：リモートアクセスパスワードを設定した Scan Station は、検出リクエストには応答しません。このような場合、**［スキャナ］> ［スキャナを追加］**を選択して Scan Station の名前または IP アドレスと Scan Station のパスワードを入力することで Scan Station を手動で追加する必要があります。

［スキャナー編集］ — 選択した Scan Station の名前を変更したり、ネットワーク設定を設定できます。

［スキャナーの削除］ — 管理下にある Scan Station のリストから選択した Scan Station を削除できます。

［設定のアップロード］ — 設定を選択した Scan Station に送信します。

注：Scan Station が省電力モードの場合、**［スキャナー］> ［設定のアップロード］**を選択して Scan Station を起動します。

リモートアクセスパスワード —［リモートアクセスパスワード］ダイアログボックスが表示され、Scan Station のネットワーク接続に使用するパスワードを変更できます。

このパスワードは、*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理が Scan Station と通信するために使用します。1 つの組織には、同時に実行するスキャナ管理ソフトウェアが 2 つ以上存在してもかまいません。特定の Scan Station のパスワードを知っている場合のみ、その Scan Station と通信することができます。リモートアクセスパスワードを持つ Scan Station がグリッドビューから削除された場合、グリッドビューに Scan Station を戻すにはパスワードが必要になります。詳細については、第 10 章の「グリッドビュー」を参照してください。

［ステータスの更新］ — 選択した Scan Station（複数）の現在の状態を表示します。

- **［待機］** — Scan Station は現在ネットワーク上でアクティブですが、使用していません。

  注：タッチ画面を使用すると、Scan Station を［*使用中*］状態にします（下を参照）。

- **［スキャン中］** — Scan Station はスキャン中です。
- **［イメージ処理中］** — Scan Station はイメージ処理を実行中です（例：イメージを PDF に変換中）。
- **［E メール送信中］** — Scan Station は E メールを送信中です。
- **［保存中］** — イメージを USB メモリ、ネットワークフォルダ、FTP サイト、SharePoint サイトに保存しています。
- **［印刷中］** — Scan Station はリモートプリンタを使用してイメージを印刷中です。
- **［スキャン完了］** — Scan Station はスキャンセッションを正常に完了しました。Scan Station で **［完了］** を選択すると、Scan Station は［*待機*］状態に移行します。
- **［エラー］** — Scan Station はスキャンセッションの完了に失敗しました。Scan Station で **［完了］** を選択すると、Scan Station は［*待機*］状態に移行します。
- **［キャンセル］** — スキャンセッションはキャンセルされました。非アクティブ時間の上限に達すると、Scan Station は *［待機］* 状態に移行します。
- **［プレビュー］** — Scan Station は［プレビュー］状態です。
- **［FAX 送信中］** — FAX を送信中です。Scan Station が現在スキャン中ではない場合にのみ表示されます。
- **［FAX 受信中］** — FAX を受信中です。Scan Station が現在スキャン中ではない場合にのみ表示されます。
- **［電源の停止中］** — Scan Station は電源シャットダウン中です。
- **［再起動中］** — Scan Station は再起動のプロセス中です。

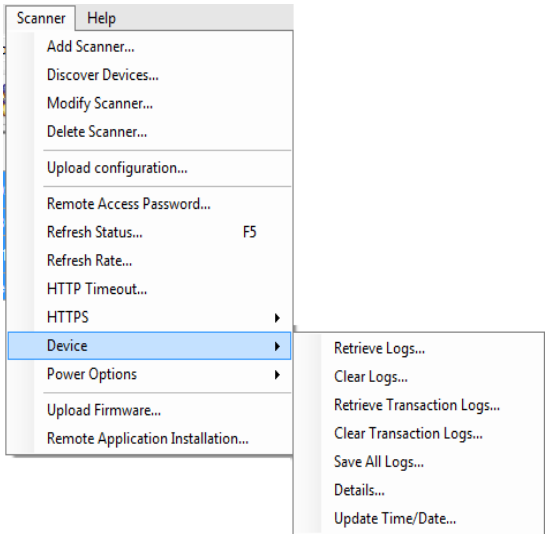
- **[更新中]** — 設定ファイルまたはファームウェアを更新中です。
- **[使用中]** — USB メモリが挿入され、ユーザがログイン中、あるいは Scan Station を操作している場合に表示されます。
- **[見つかりません]**— Scan Station がネットワーク上で認識されません（電源がオフなど）。

[更新率] — アプリケーションがすべての Scan Station と通信する回数を設定できます。

HTTP タイムアウト — HTTP コマンドが完了するまでの待機時間（単位：秒）を調整できます。一部のコマンドがタイムアウトして完了しない場合、長い時間に調整します。

[HTTPS] — **HTTPS** を有効にすると *Kodak* Scan Station 700 シリーズ — スキャナー管理アプリケーションと Scan Station 間の通信時データが暗号化されます。

[デバイス] — 以下のオプションがあります。これらの機能の使用方法については、第 10 章「*Scan Station の管理と監視*」で説明します。



- **[ログの取得]**：選択した Scan Station から取得したログファイルを保存できます。
- **ログの消去**：選択すると、「選択したスキャナーのログ ファイルを削除してもよろしいですか？」***というメッセージが表示されます。*[はい]** をクリックすると、ログファイルは削除されます。
- **[トランザクションログの取得]**：選択した Scan Station から取得したトランザクションログファイルを保存できます。
- **[トランザクションログの消去]**：選択すると、「***選択したスキャナーのトランザクション ログファイルを削除してもよろしいですか？」というメッセージが表示されます。*[はい]** をクリックすると、トランザクションログファイルは削除されます。
- **[すべてのログを保存]**：選択した Scan Station 上のすべてのログファイルを任意のディレクトリに保存します。ログは Scan Station の任意のディレクトリの［デバイス名］フォルダに保存されます。

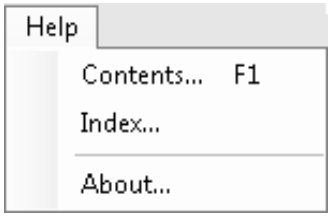
- **[詳細]**：選択した Scan Station に関するデバイス情報が表示されます（ネットワーク設定、ソフトウェアのバージョン、ページカウントなど）。
- **[日時の更新]**：選択した Scan Station すべてに、NTP 時間サーバの設定が可能です。

[電源オプション] — オプションが表示され、選択された Scan Station の再起動および電源オフが実行できます。

[ファームウェアのアップロード] — 新しいファームウェア更新を Scan Station にアップロードできるオープンダイアグラムボックスを表示します。

[リモートアプリケーションのインストール] — サードパーティーアプリケーションをダウンロードできます。

[ヘルプ] メニュー



以下は、[ヘルプ] メニューに表示されるメニューオプションの説明です。

目次 — *Kodak* Scan Station 700 シリーズ — スキャナー管理のヘルプトピックを表示します。

索引 — *Kodak* Scan Station 700 シリーズ — スキャナー管理のヘルプトピックを表示します。

バージョン情報 — *Kodak* Scan Station 700 シリーズ — スキャナー管理アプリケーションの [バージョン情報] 画面を表示し、現在のバージョンのソフトウェアに関する情報を表示します。

アイコン

第 4 章～第 9 章では、Scan Station の設定を手順毎に表示します。ほとんどの画面には以下のアイコンが 1 つ以上あります。

新規設定を作成します。

既存設定を編集します。

選択した設定を削除します。

Scan Station の現在の状態を表示します。

- 待機
- スキャン中
- 画像処理中
- E メールを送信中
- 保存中
- 印刷中
- スキャン完了
- エラー
- キャンセル
- プレビュー
- FAX 送信中
- FAX 受信中
- 電源の停止中
- 再起動中
- 更新中
- 使用中
- 見つかりません

選択した Scan Station のログファイルを検索、表示、保存ができます。

選択した Scan Station にトランザクションログファイルの表示や保存ができます。

選択した Scan Station の詳細情報が表示されます（ソフトウェアのバージョン、IP アドレスなど）。

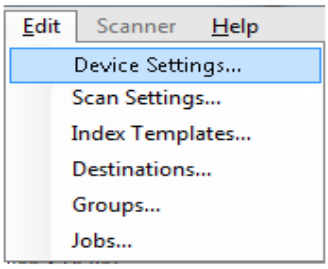
選択した設定を Scan Station に送信できます。*Kodak* Scan Station 700 シリーズ — スキャナー管理アプリケーションから Scan Station がアクセスできない場合は、このオプションはグレー表示されます。

4 デバイス設定の定義

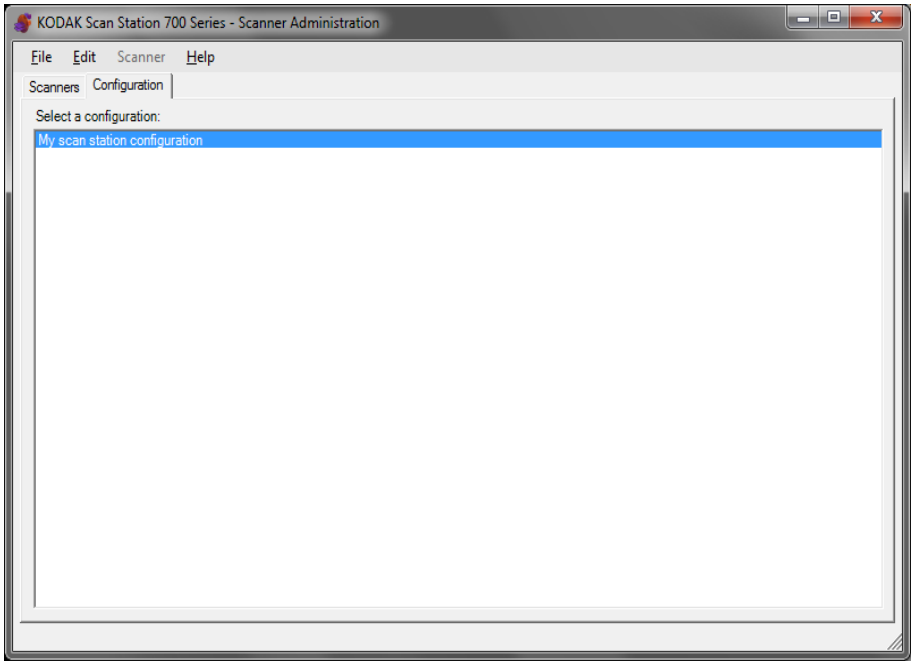
目次

デバイス設定 4-1
デバイスオプションの設定 4-3
E メールの設定 4-8
Active Directory Server の設定 4-11
Fax の設定 4-13

デバイス設定



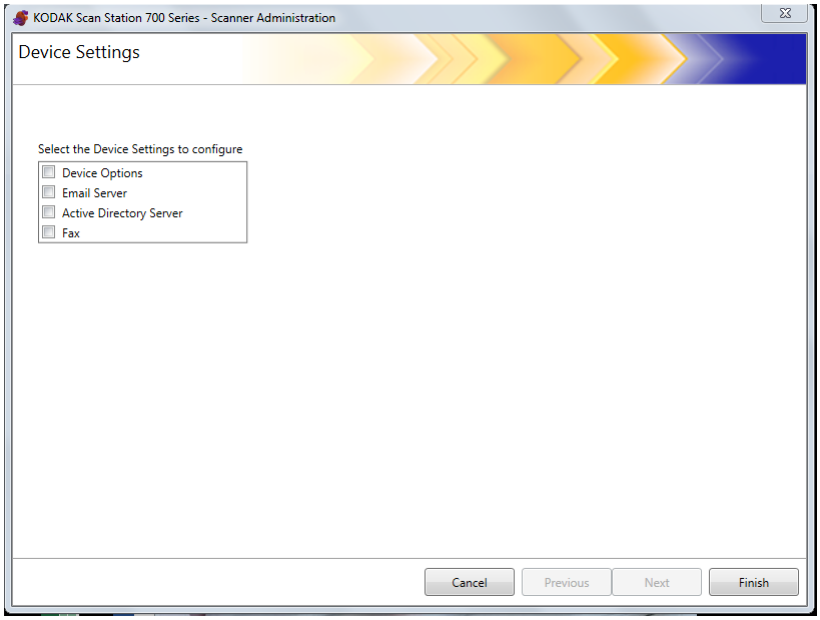
デバイス設定オプションでは、E メールの送信、FAX の送受信、認証目的での Active Directory Server との通信、インデックステンプレートの作成、Scan Station のデフォルトの設定のために Scan Station をセットアップできます。



設定方法

1. 設定を適用する設定を選択するか、または新規設定を作成します（**[ファイル] > [追加]**）。

2. **［編集］>［デバイス設定］**を選択します。

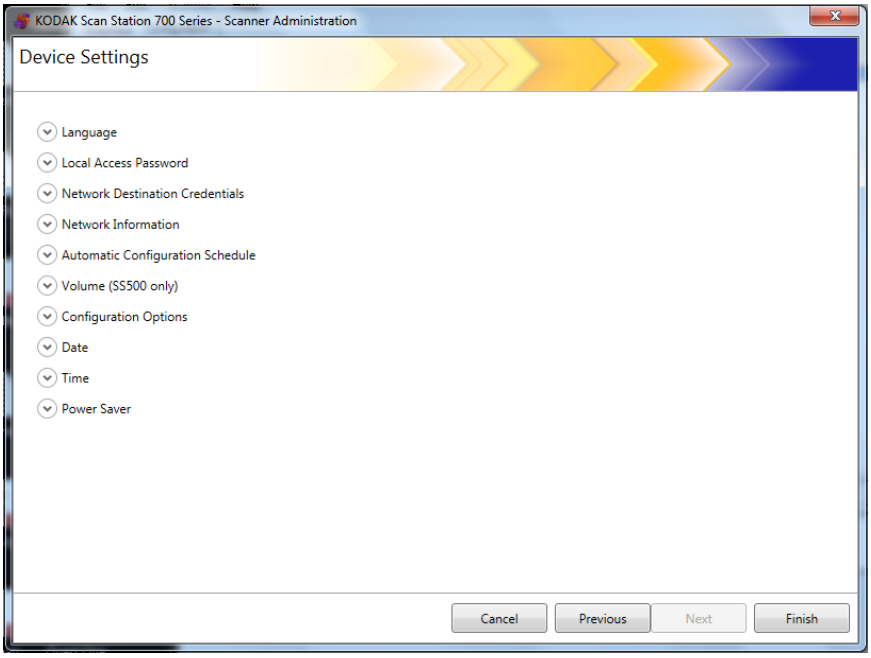


設定したいすべてのオプションを選択して、**[次へ]** をクリックします。ソフトウェアが各オプションを順次実施します。

- **[デバイスオプション]** — 以下のオプションを設定できます。
  - 言語
  - ローカルアクセスパスワード
  - ネットワーク接続先証明書
  - ネットワーク情報
  - 自動設定スケジュール
  - 音量
  - 設定オプション
  - 日時
  - 省電力
- **メールサーバ** — Scan Station で文書を E メール受信者に送信するには、Scan Station がメールサーバへアクセスする方法を定義します（SMTP、送信元の E メールアドレスなど）。
- **Active Directory Server** — Active Directory Server との接続を設定できます。これにより、Scan Station では、資格情報の認証を行ったり、ネットワーク上のホームディレクトリなどのユーザ情報を認識できます。
- **Fax** — Scan Station による FAX の送信および受信を設定できます。

デバイスオプションの設定

この画面では、以下のデバイスオプションを設定できます。

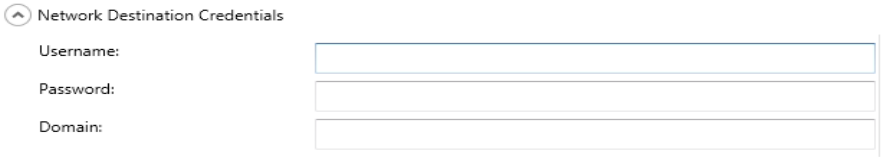


言語 — 下矢印をクリックして、Scan Station のディスプレイで使用する言語を選択します。

ローカルアクセスパスワード — Scan Station へのアドミニストレータアクセス用のパスワードを設定できます。

ユーザーログインの強制	ローカルアクセスパスワード設定	ローカルアクセスパスワードなし（デフォルト）
オン	ユーザ名とパスワードを使って Scan Station にログインする必要があります。設定ファイルを格納した USB メモリを挿入する場合、Scan Station を更新するにはローカルアクセスパスワードが必要です。	ユーザ名とパスワードを使って Scan Station にログインします。設定ファイルを格納した USB メモリが挿入する場合、Scan Station を更新するためにパスワードは必要ありません。
オフ	設定ファイルを格納した USB メモリで Scan Station に構成ファイルを適用するには、ローカルアクセスパスワードが必要です。	アクセス制御なし。
権限がないユーザがアドミニストレータ機能にアクセスすることを防ぐために、ローカルアクセスパスワードを設定することをお勧めします。		

ネットワーク出力先証明書 — このオプションを選択した場合、ネットワークにアクセスするために必要な**ユーザ名、パスワード、ドメイン**を定義します。



注：**[ユーザログインの強制]**（アクティブディレクトリサーバー画面で）有効でない場合、ネットワークフォルダのみ使用されます。

1. Scan Station に割り当てられたネットワークユーザ名を入力します。詳細については、第 2 章の「ネットワーク設定の詳細」を参照してください。

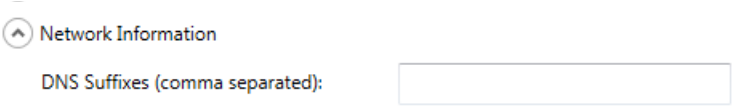
   注：Scan Station からネットワークプリンタ、ネットワーク共有フォルダにアクセスする場合、提供される証明書には各リソースにアクセスする権限が必要です。

2. ネットワークユーザ名のパスワードを *[パスワード]* フィールドに入力します。

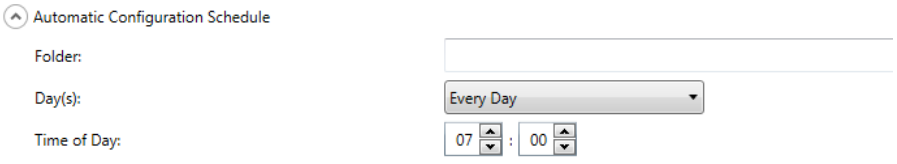
   注：このパスワードは Scan Station のみ使用され、判読可能なフォーマットでは表示されません。パスワードは暗号化されます。

3. Scan Station が接続する Microsoft ネットワークドメイン名を *[ドメイン]* フィールドに入力します。ワークグループ環境では、このフィールドを空欄のままにできます。

ネットワーク情報 — DNS サフィックスを定義して名前解決の検索ができます。



自動設定スケジュール — ファームウェアの更新、指定日時に更新された設定を検索できるよう Scan Station を設定できます。このオプションを選択すると、更新設定を Scan Station が自動的に確認します。

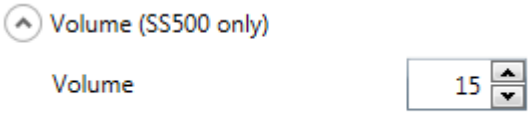


1. Scan Stationが更新設定ファイルを確認するネットワークフォルダを入力します。
2. 更新設定を実行する曜日（複数選択可）を選択します。

3. Scan Station が更新設定を確認する時間を選択します。

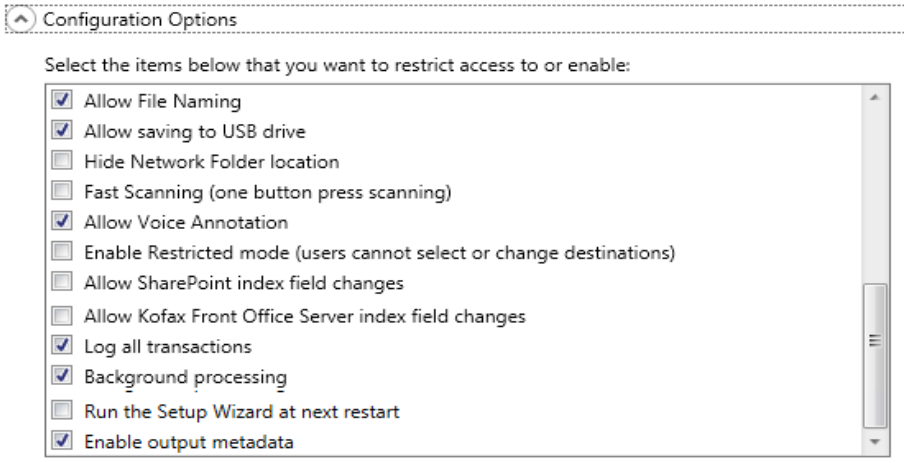
注：この方法で設定を更新する場合、[スキャナを追加] および [スキャナを更新] ダイアログボックスの*スキャナ名*、*IP アドレス*、*リモートアクセスパスワード*フィールドは更新されません。

音量（SS500 のみ）— Scan Station 500 のマスターボリュームを調整できます。これは FAX モデム、音声注釈再生のスピーカー音に反映されます。



注：音量を変更しても FAX のダイアル音がしない場合は、Scan Station を再起動する必要があります。

設定のオプション — 以下のオプションがあります。



- **[ファイルネーミングを有効にする]** — 有効にすると、ユーザは Scan Station と *Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理の両方でファイル名オプションを設定できます。
- **[USB メモリへの保存を許可]** — USB メモリへのスキャンを有効にします。この機能は、高セキュリティが必要な環境などで有効です。
- **[ネットワークフォルダのロケーションを非表示]**—ネットワークフォルダパスを部分的に隠すことでセキュリティ環境を強化する場合はこのオプションを有効にします。このオプションが有効にされると、Scan Station のタッチスクリーンにはネットワークフォルダパスの一部しか表示されません。例：\\server\myfolder は **...\myfolder** の様に表示されます。

- **[高速スキャン]（ワンタッチスキャン）**— 10 秒間待機しないですぐにスキャンを実行し、[設定レビュー] 画面と [保存先レビュー] 画面が表示されます。スキャンが失敗した場合のみメッセージが表示されます。
- **[音声注釈の許可]** — 有効にするとバッチスキャンごとに音声注釈を記録できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。
- **[制限モードを有効にする]（ユーザは出力先を選択または変更できません）**— 有効にすると、ユーザは Scan Station のタッチスクリーンから設定済みのジョブだけを選択できます。ユーザはジョブの変更ができません。
- **[SharePoint インデックスフィールド変更を許可]** — 有効にすると、既存のインデックスフィールドを変更できます。
- **[Kofax Front Office Server インデックスフィールドの変更を許可する]**— 有効にすると、既存のインデックスフィールドを変更できます。
- **[全トランザクションのログを記録する]** — Scan Station はすべてのトランザクション（ログイン、スキャン、出力先への保存に関する全アクティビティ）をトランザクションファイルに記録できます。このファイルは XML フォーマットで、Scan Station からダウンロードできます。この機能はセキュリティを重視する環境や、トランザクションを請求書作成などに使用する環境で有効です。デフォルトでは、全トランザクションが記録されます。チェックボックスの選択を外すことでトランザクションログを無効にできます。
- **[バックグラウンド処理]** — ジョブの処理方法を選択できます。[バックグラウンド処理] を選択した場合、すべてのジョブがキューに送信され、デフォルトでは先入れ先出し (FIFO) 方式で処理されます。最初のジョブがスキャンされた場合、最初のスキャンジョブがまだ処理中でも、ユーザは 2 番目のジョブを直ちに開始できます。
- **[次の起動時にセットアップウィザードを実行する]** — このオプションを選択すると、Scan Station の次回起動時にセットアップウィザードが起動し、設定オプション（時刻、日付など）の設定が可能になります。

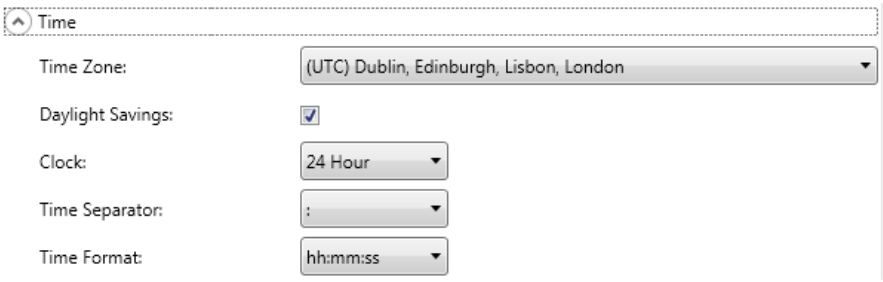
  注：Scan Station からセットアップウィザードが実行されます（*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションではありません）。

- **[出力メタデータの有効化]** — 各ドキュメントがスキャンされると、.xml ファイルが作成され、スキャンファイルとともに出力先へ送信されます。メタデータの検証に使用できる .xsd ファイルはインストール用 CD にあります。

[日付] — Scan Station の日付フォーマットを設定できます。

1. *[日付区切り記号]* ドロップダウンリストから、日付フォーマットの区切りに使用する記号を選選択します。
2. *[日付フォーマット]* ドロップダウンリストからフォーマット（日、月、年）を選択して、タッチスクリーンに表示されるフォーマットを選択します。

[時間] — Scan Station の時間フォーマットを設定できます。



1. Scan Station の場所に基づいて、**[時間帯]** を選択します。

   注：Scan Station が異なる時間帯にある場合、個別の設定ファイルが必要です。

2. Scan Station でサマータイムを自動的に調整したい場合は、**[サマータイム]** チェックボックスを選択します。
3. **[時刻]** ドロップダウンリストから、**[12 時間]** または *[24 時間]* 時間フォーマットのどちらかを選択します。
4. *[時間区切り]* ドロップダウンリストから時間フォーマットを選択します。
5. 時間フォーマットで表示する時、分、秒の表示方法を選択します。**hh:mm:ss、h:mm:ss、hh:mm、h:mm**。

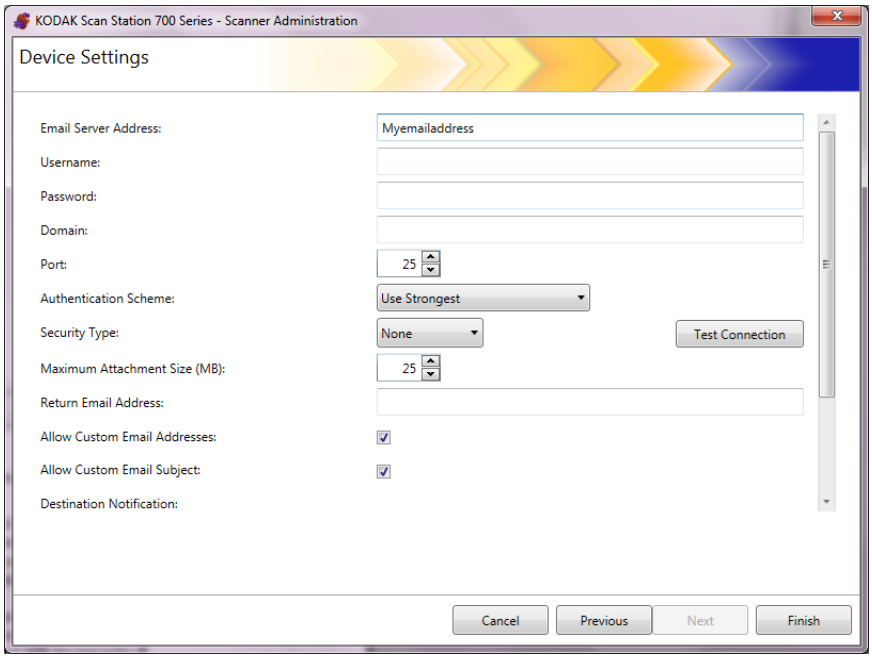
[省電力] — 未使用の状態から省電力モードに移行するまでの時間を上下矢印を使用して設定します。デフォルトは 15 分です。

メインデバイス設定画面で選択したオプションに従って、**[次へ]** をクリックして設定したい次のデバイスを表示するか、または **[終了]** をクリックして設定タブに戻るオプションがあります。

E メールの設定

Scan Station でイメージをメール送信するには、Scan Station がメールサーバへアクセスする方法を定義する必要があります。

1. **［メールサーバ］**を選択し、**［次へ］**をクリックします。

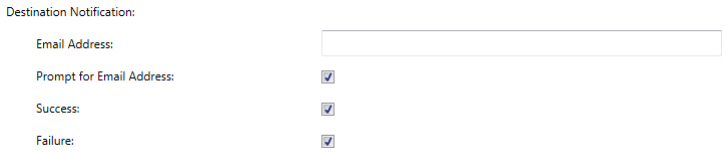


2. SMTPサーバのIPアドレスまたは完全修飾ドメイン名を*［メールサーバアドレス］*フィールドに入力します。
3. SMTP サーバが要求する場合のために、**［ユーザ名］**、**［パスワード］**、オプションの**［ドメイン］**の名前を Scan Station がログインする E メールサーバアカウントに入力します。
4. 通常、メールサーバとはポート 25 で接続します。使用するメールサーバと別のポートで接続する場合は、該当のポート番号を選択します。
5. E メールサーバが使用する特定の SMTP 認証スキームを選択する場合、**［認証スキーム］**を選択します。次のオプションから選択します。
   - 最高を使用する
   - なし
   - 無地
   - ログイン
   - MD5 チャレンジレスポンス
   - NTLM

   注：**［最高を使用する］**は、メールサーバで利用できる最高の認証スキーマを選択します。認証スキーマの詳細は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
6. 上下矢印を使用して、正常な送信に必要な E メールの添付ファイルの**［最大添付サイズ］**(1 ～ 99 MB) を 1 MB 刻みで選択します。

7. Scan Station から送信したメールが届かない場合に、通知を受け取るためのメールアドレスを *[送信元 E メールアドレス]* に入力します。このメールアドレスも、E メールの*差出人*フィールドに表示されます。
8. アドレス帳に登録されていないEメールアドレスの入力をユーザに許可する場合は、**[カスタム E- メールを許可する]** を有効にします。
9. E メール送信先へのスキャン時、E メールの件名の入力をユーザに許可する場合は、**[E- メール件名のカスタマイズを有効にする]** を有効にします。
10. E-メールサーバにセキュリティ保護が設定されている場合は[セキュリティタイプ] を選択します。**なし、SSL、StartTLS の使用**が選択可能です。
    - **SSL** : E メールサーバが SSL (Secure Socket Layer) を要求する場合はこのオプションを選択します。
    - **[StartTLS の使用]** : セキュア SMTP 接続を有効にする場合は、このオプションを選択します。

    注 : E メールサーバが STARTTLS を設定されていることを確認してください。設定されていないと、Scan Station は E メールを送信できません。
11. E メール送信の成功 / 失敗の通知が必要な場合、*[出力先通知]* フィールドで選択できます。



- **[E メールアドレス]** : 出力先通知用のメールアドレスを入力します。設定後、ユーザがスキャン前に他の通知メールアドレスを入力すると、通知は両方の E メールアドレスへ届きます。
- **[E メールアドレス用プロンプト]** : 有効にすると、ユーザはスキャン前に通知メールアドレスを入力できます。
- **[成功]** : 選択すると、送信成功毎にメール通知が送信されます。
- **[失敗]** : 選択すると、送信失敗毎にメール通知が送信されます。

注：

- E メール送信先通知は［**バックグラウンド処理**］が有効な場合に送信されます。
- ［**成功**］と［**失敗**］の両方が選択されていない場合、メール通知は送信されません。
- ［**成功**］を選択していて、複数へ出力している場合、すべての出力先が成功であった場合のみ成功の通知を受信します。1 つでも失敗した場合、通知は送信されません。
- ［**高速スキャン**］有効にすると、ユーザはスキャン前に通知メールアドレスを入力できません。
- *［E メールアドレス］*フィールドが設定されていて、さらにユーザがスキャン前に通知メールアドレスを入力すると、通知は両方の E メールアドレスへ送信されます。
- E メール送信先に関して、通知メッセージ ***「E メールのメッセージがキューに入りました」*** が表示されます。
- fax の送信先に関して、通知メッセージ ***「Fax がキューに入りました」*** が表示されます。
- E メールの送信ができない場合、E メール送信先はメールサーバ設定の *［送信元メールアドレス］*フィールドが使用されます。
- fax の送信ができない場合、Fax の送信先は Fax 設定の *［Fax 通知メールアドレス］*フィールドが使用されます。

12. 設定が正しいか確認する場合は、［**テスト接続**］をクリックします。終了すると、*［成功］*または *［失敗］*のメッセージが表示されます。接続のテストに失敗した場合は、設定が正しいか確認して必要に応じて設定内容を修正してください。その後、再度テストを実行し、*「成功」*メッセージが表示されることを確認します。

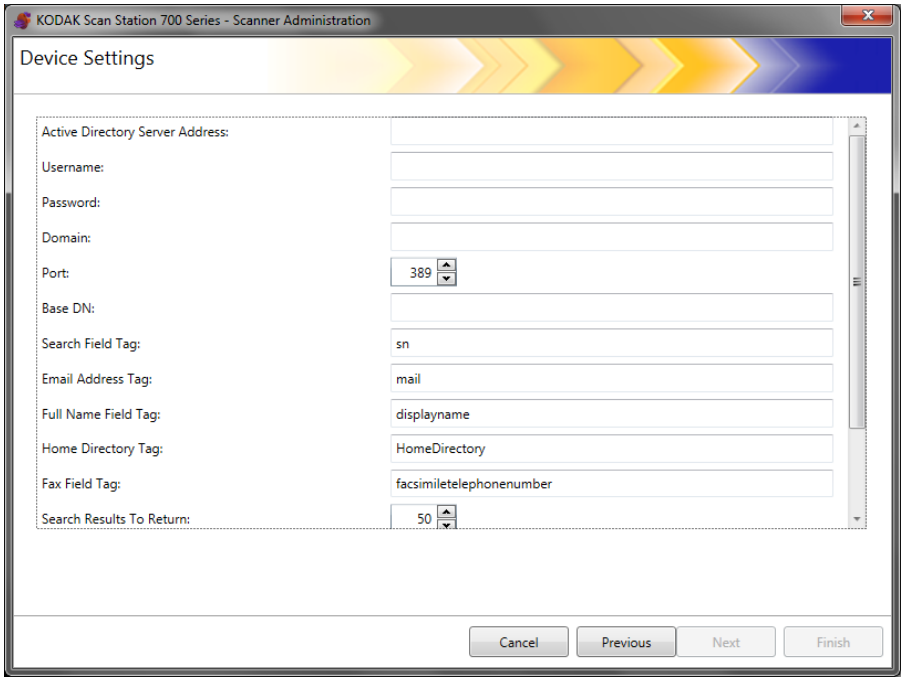
    注：［テスト接続］ボタンを表示するのにスクロールバーの使用が必要になる場合があります。

メインデバイス設定画面で選択したオプションに従って、**［次へ］**をクリックして設定したい次のデバイスを表示するか、または［**終了**］をクリックして設定タブに戻るオプションがあります。

Active Directory Server の設定

Active Directory Server の設定を選択した場合は、以下の手順を実行します。選択しなかった場合は、設定する次のデバイスを示すセクションに移動してください。

Active Directory Server では、ネットワーク管理およびセキュリティのための中央の場所をセットアップできます。



1. IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名を *[Active Directory Server アドレス]* フィールドに入力します。
2. サーバが要求すると、**[ユーザ名]**、**[パスワード]**、オプションの **[ドメイン]** 名を Scan Station がログインする Active Directory Server アカウントに入力します。
3. ほとんどの Active Directory Servers はポート 389 で通信します。Active Directory Server が別のポートで通信する場合は、該当のポート番号を選択します。
4. ベース DN（識別名）、検索フィールド属性、E- メールアドレス属性、およびフルネームフィールド属性は Active Directory Server の検索基準を定義する文字列です。文字列のフォーマットについては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。正しいフォーマットを選択したら、**ベース DN、検索フィールド属性、E- メールアドレス属性、フルネームフィールド属性**を入力します。
5. *[ホームディレクトリ属性]* フィールドで、ユーザのホームディレクトリがある場所を定義する Active Directory Server の名前を入力します。これには、Active Directory Server データベースで定義されているホームディレクトリが必要です。

   [ユーザログインの強制] が有効の場合、ユーザが Scan Station にログインすると、ホームディレクトリが出力先として自動的に選択されます。

6. FAX 番号の Active Directory Server を検索する際に使用するタグとして、Active Directory Server の［**FAX フィールド属性**］を入力します。詳細については、使用する正しい文字列（FAX 番号など）をネットワーク管理者に問い合わせてください。
7. *［検索結果から戻る］* で検索を実行した際に表示する検索結果の最大数を設定します。1 から 1000 までの値を選択します。

注：［**セキュリティタイプ**］、［**ユーザログイン強制**］、［**テスト接続**］オプションの表示にスクロールバーの使用が必要になる場合もあります。

8. Active Directory Server にセキュリティ保護された接続をセットアップする場合は［**セキュリティの種類**］を選択します。選択内容は以下のとおりです。**なし**、**SSL**、**TLS**。
   - **SSL** または **TLS** を選択すると、*［証明書］* および *［証明書パスワード］* フィールドが表示され、証明書ファイルの選択が可能になります。
   - パスワードを要求する証明書もあります。パスワードが必要な場合は、パスワードを入力します。
9. ［**ユーザログイン強制**］を選択した場合、スキャンセッションを開始する前にログインが要求されます。ログインする場合は、ユーザ名、パスワード、およびドメインを入力します。これらの証明書は、ネットワークリソースにアクセスするために使用されます。

   注：［**ユーザログイン強制**］を有効にした場合でも、デフォルトの管理者アカウントを使用して Scan Station にログインできます。初期設定ではローカルアクセスパスワードは「空欄」なので、ユーザ自身でパスワードを設定して管理機能へのアクセスを防ぐ必要があります。このローカルアクセスパスワードの詳細については、この章の始めにある「デバイスオプションの設定」を参照してください。

10. ［**ユーザホームディレクトリ**］を選択すると、Scan Station はログインしたユーザのホームディレクトリ（Active Directory から抽出）の出力先を自動的に作成します。これは［**ユーザログイン強制**］が有効の場合に選択できます。
11. ［**ユーザ E メールアドレス**］を選択すると、Scan Station はログインしたユーザ（Active Directory から抽出）の E メールを自動的に作成します。これは［**ユーザログイン強制**］が有効の場合に選択できます。
12. ［**E メール検索の許可**］をチェックするとユーザは E メール送信時に Scan Station 上で E メール検索を行うことができます。
13. 設定内容が正しいか確認する場合は、［**テスト接続**］をクリックします。終了すると、*［成功］* または *［失敗］* のメッセージが表示されます。接続のテストに失敗した場合は、設定が正しいか確認して必要に応じて設定内容を修正してください。その後、再度テストを実行し、*「成功」* メッセージが表示されることを確認します。

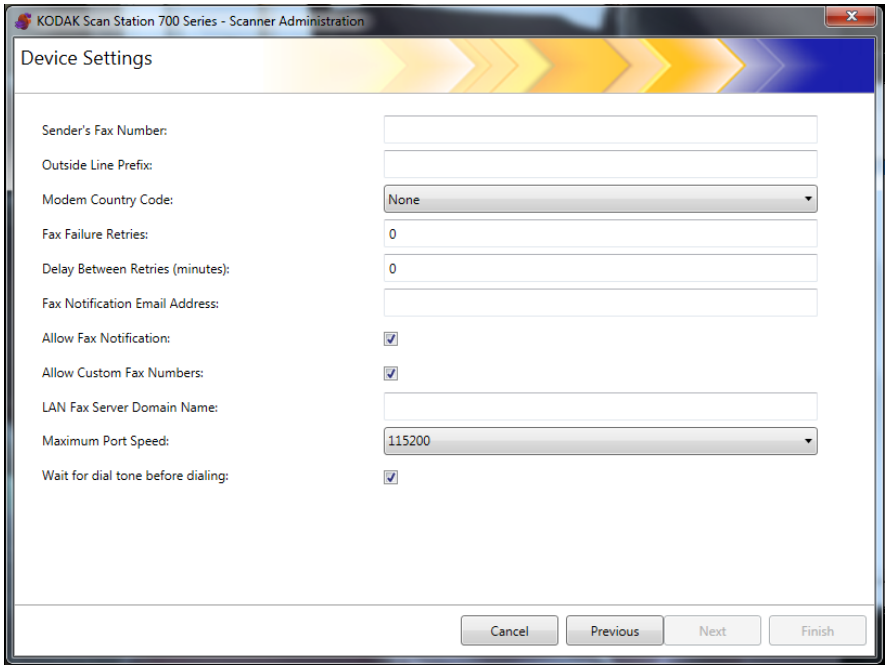
デバイス設定のメイン画面で選択したオプションに応じて、［**次へ**］をクリックすると次のオプションが表示され、［**完了**］をクリックすると［設定］タブに戻ります。

Fax の設定

Fax の設定を選択した場合は、以下のステップを続行します。

注：ダイアルアップ FAX 設定は Scan Station 730EX で使用します。ダイアルアップ設定は Scan Station 710 に送信しても無視されます。

FAX の設定では、Scan Station による FAX 送信と受信を設定できます。



注：手順 1 ～ 8 はダイアルアップモデム (Scan Station 730EX) に限定されます。

1. *[送信元の FAX 番号]* フィールドに FAX 番号を入力します。この番号は送信される FAX のバナーに表示されます。
2. 使用する環境で外線用の番号が必要な場合は、外線用の番号を *[外線番号]* に入力します（通常は 9 を使用し、カンマ「,」は保留する際に使用します）。各カンマはダイアルシーケンスを 3 秒ほど停止します。カンマを繰り返し使用することで停止時間を長くすることもできます。
3. **[モデムカントリーコード]** を選択すると国とモデムを構成する関連コードのリストが表示されます。

4. Scan Station で FAX 送信を試行する回数を *[FAX の失敗による再試行]* フィールドに入力します。
5. *[試行の間隔]* フィールドに FAX 送信の試行間に Scan Station が待機する時間を入力します。
6. FAX 送信ごとに（*成功* / *失敗*）の通知を受け取る個人を指定する場合は、個人 / グループのメールアドレスを *[FAX 通知メールアドレス]* フィールドに入力します。
7. ユーザが、メールアドレス、プリンター、「*成功*」、「*失敗*」の通知を指定する場合は、「**FAX 通知を有効にする**」にチェックを入れてください。**[FAX 通知のメールアドレス]** と **[FAX 通知を有効にする]** を同時に使用する場合は、以下の表を参照してください。

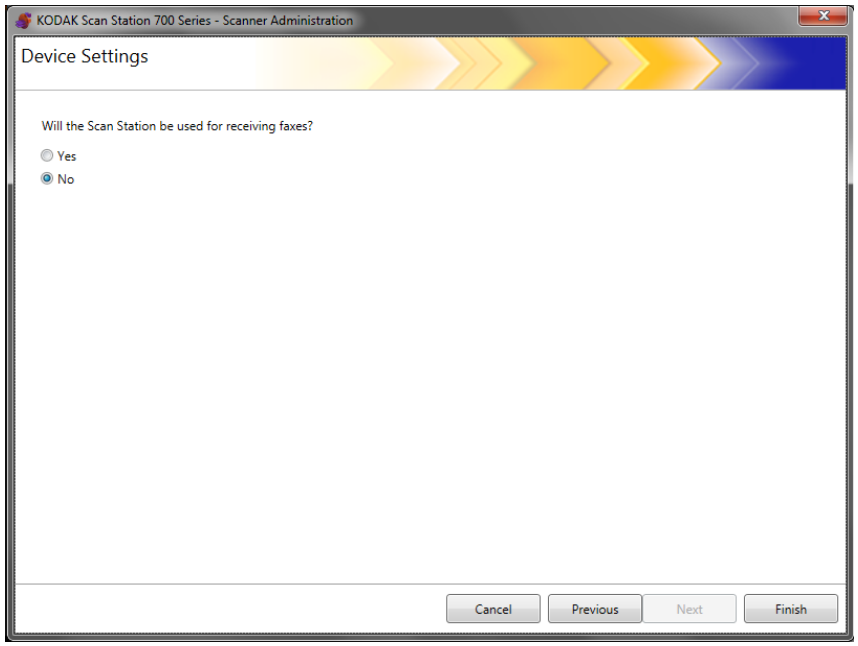
FAX 通知のメールアドレスフィールド	FAX 通知にチェックを付ける	FAX 通知のチェックを外す
指定した場合	• 通知は、*[FAX 通知のメールアドレス]* に指定したアドレスに送信されます。 • スキャンの前に Scan Station に E メールアドレスを入力することも可能です。入力した場合、通知はそのアドレスにも送信されます。	• 通知は、*[FAX 通知のメールアドレス]* に指定したアドレスに送信されます。
空欄のままにした場合	• スキャンの前に Scan Station に E メールアドレスを入力できます。入力した場合、通知はそのアドレスに送信されます。	• 通知されません。

注：出力先を定義し、少なくとも 1 つのプリンタを定義している場合に限り、FAX/ プリンタ通知を設定できます。プリンタのセットアップについては、第 7 章の「プリンタ出力先の設定」を参照してください。

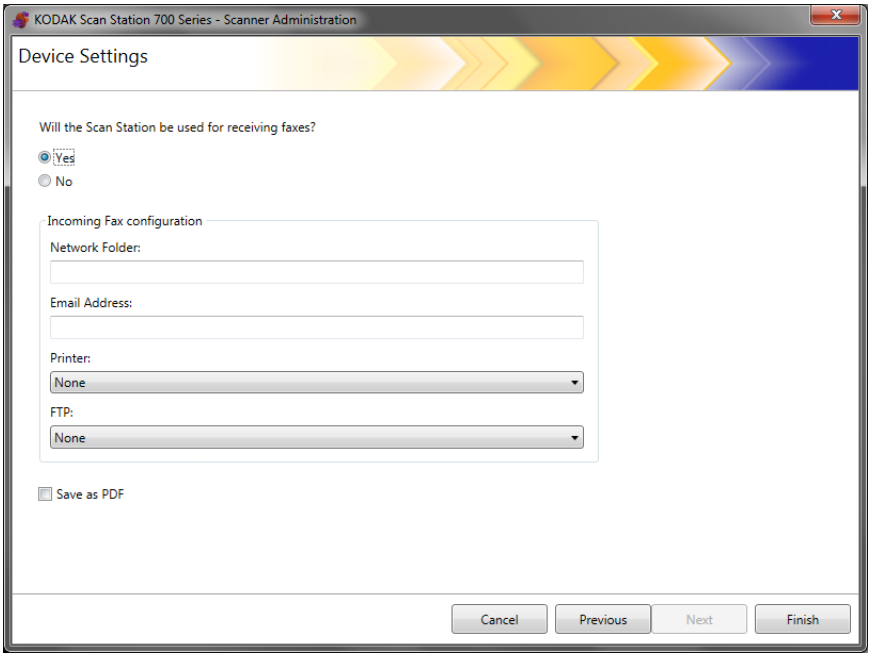
8. ユーザが Scan Station に FAX 番号を入力できるようにする場合は、**[カスタム FAX 番号を有効にする]** にチェックを入れてください。
9. メール FAX サービス（Nextiva など）を使用するユーザの LAN FAX サーバドメイン名を入力します。これにより、LAN FAX の出力先の送信方法が設定されます。

注：これはログインを必要としない特定ドメインの FAX 番号に送信する E メール FAX サービスのみ適用します。

10. FAX 接続で使用可能なポートの最高速度を選択します。
11. 必要な場合、**[ダイアル前にダイアルトーンを待機]** をチェックします。
12. 情報の入力が終了したら、**[次へ]** をクリックします。以下の画面が表示されます。



13. Scan Station の FAX 受信を拒否する場合は、**[いいえ]** をクリックします。FAX 受信する場合は、**[はい]** をクリックして、*[受信 Fax 設定]* に必要な情報を入力します。



必要に応じて、以下を入力します。

- 受信 FAX が保存されるネットワークフォルダのフルパス名。
- FAX を受信する個人 / グループのメールアドレス。
- 受信 FAX を印刷するプリンタ名。
- 受信 FAX を保存する FTP サイト。

14. 受信 FAX を PDF ファイルとして保存する場合は [**PDF として保存**] を選択します。

    注：

    - Scan Station で FAX 受信を設定する場合は、少なくとも 1 つの出力先を設定しないと FAX は配信されません。
    - FAX がプリンタ、ネットワークフォルダ、FTP サイトのいずれかを経由する場合、選択可能にするために出力先を事前に作成する必要があります。

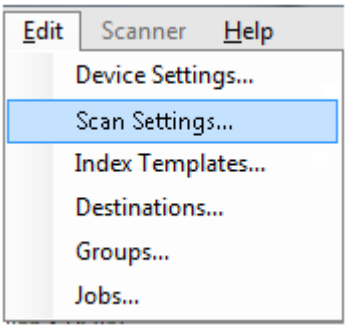
15. **［終了］** をクリックします。

5 スキャン設定の定義

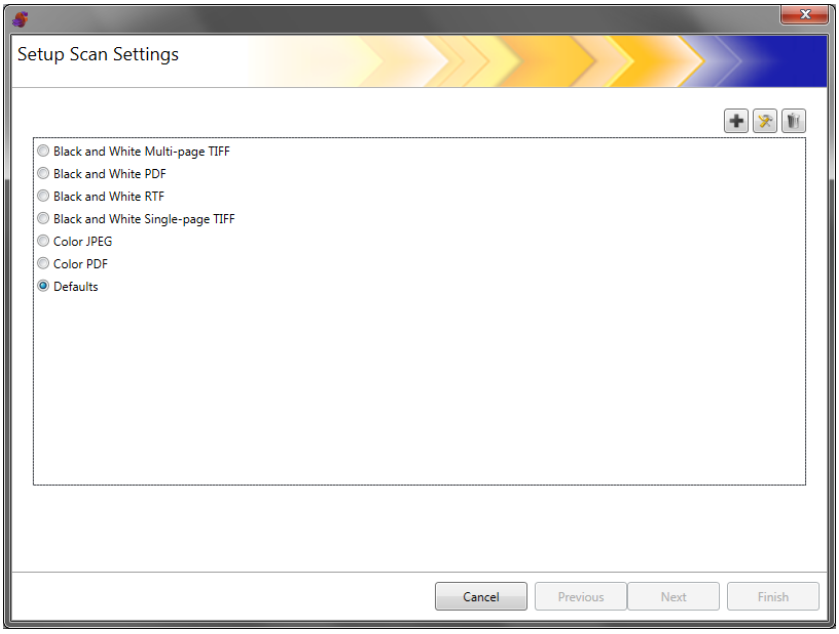
スキャン設定 5-3
白黒設定 5-5
カラー設定 5-6
詳細設定 5-8
PDF 設定 5-12
ファイル名設定 5-13

スキャン設定では、画像処理の基本的な設定を行います。カラー/ グレースケール / 白黒、出力ファイルフォーマット、圧縮、パンチ穴除去や縦縞フィルタなどの詳細なオプションがあります。

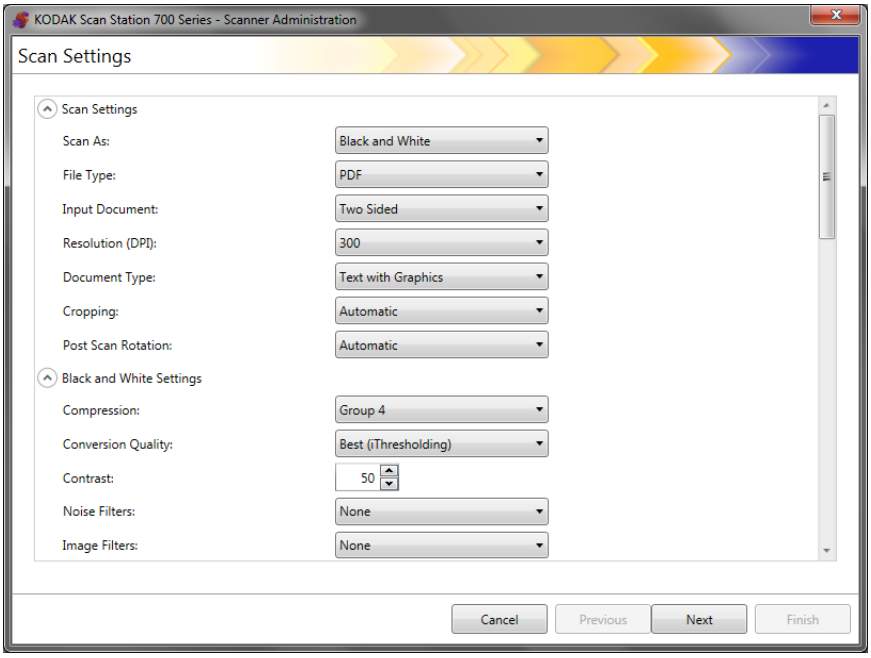
1. **［編集］>［スキャン設定］**を選択します。



［スキャン設定のセットアップ］画面が表示されます。

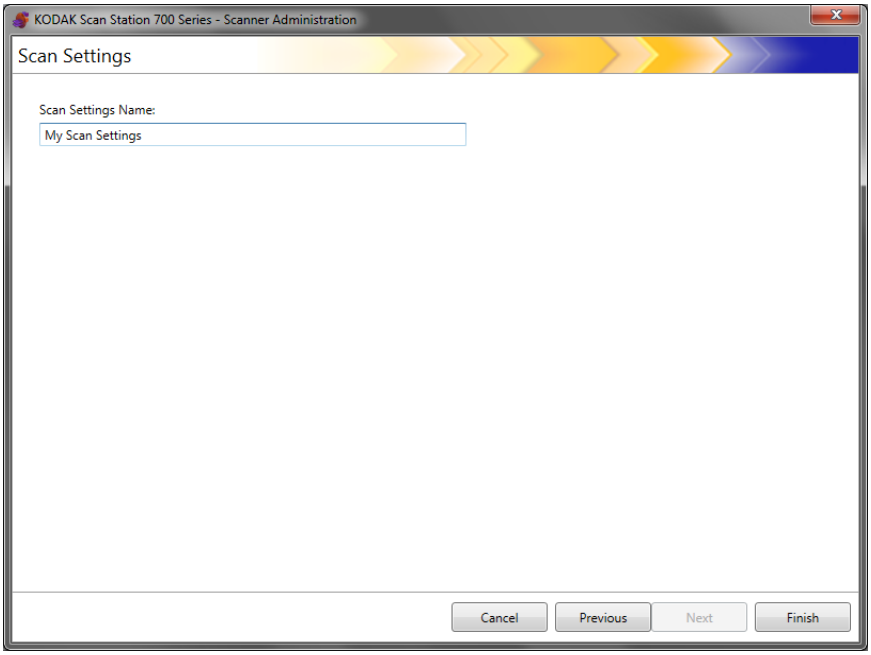


2. **[追加]** アイコンをクリックします。以下の画面が表示されます。



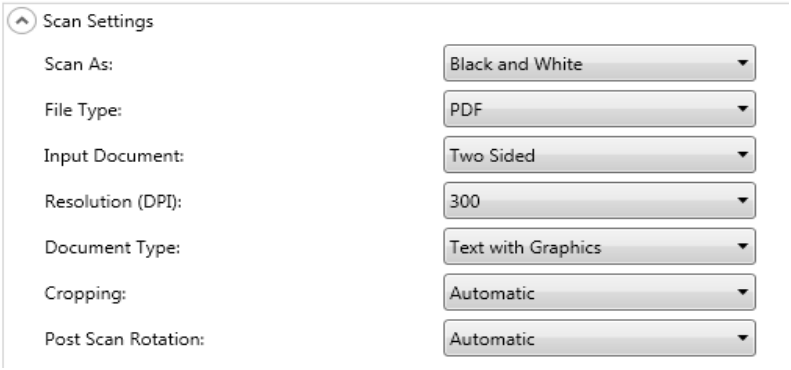
3. いずれかのカテゴリ（白黒設定、詳細設定など）から選択します。
   注：オプションに関する詳細な説明は、以後を参照してください。

4. 選択が完了したら、**[次へ]** をクリックします。



5. *[スキャン設定名]* フィールドに名前を入力します。
6. **[終了]** をクリックします。
7. **[終了]** をクリックします。

スキャン設定



スキャン方法 — 書類をスキャンする方法を選択します。**カラー、グレースケール、白黒が選択できます**。

ファイルの種類 — 以下のいずれかのオプションを選択します。

- **JPEG**：このオプションは［カラー］または［グレースケール］で使用できます。*[スキャン方法]* の選択が［**白黒**］で、**JPEG** が選択されると、*[スキャン方法]* は自動的に［**カラー**］に変わります。
- **TIFF - シングルページ**：両面スキャンページの片面を 1 ファイルとして、複数のファイルを作成します。
- **TIFF - マルチページ**：スキャンされたすべてのページを 1 ファイルで作成します。

  注：圧縮の設定は *[スキャン方法]* の選択に依存します。*[スキャン方法]* の選択が［**白黒**］の場合は、白黒設定の圧縮を選択します。*[スキャン 方法]* の選択が［**カラー**］または［**グレースケール**］の場合、カラー設定の圧縮を選択します。

- **PDF**：PDF ファイルを作成します。詳細については、後述の「PDF 設定」を参照してください。
- **DOC**：Microsoft Word 文書を作成します。
- **RTF**：多くのアプリケーションで読み取り可能なリッチテキスト形式のファイルを作成します。
- **XLS**：Microsoft Excel スプレッドシートを作成します。

注：

- DOC、RTF、XLS 形式にする場合、スキャンイメージから OCR 処理を実行します。生成される .doc、.rtf、.xls ファイルは OCR 結果に基づくので成果物は元の原稿と同じでない場合があります。
- DOC, RTF または XLS を選択すると、*[言語]* オプションが表示されます。ファイルを生成に使用する言語を選択します。

[入力原稿] — 以下のいずれかのオプションを選択します。

- **両面**：Scan Station は表面と裏面を一度にスキャンします。
- **[片面 - 下向き]**：このオプションを選択した場合、原稿は伏せて（スキャンしたい面を入力トレイに向けて）にセットします。
- **[片面 - 上向き]**：このオプションを選択した場合、原稿は仰向け（スキャンしたい面を自分に向けて）にセットします。

解像度 (DPI) — **100、150、200、240、300、400、600** dpi を選択します。解像度が高いと画像品質が高くなりますが、ファイルサイズも大きくなります。

注：*[ファイルタイプ]* が **PDF** の場合、この解像度設定は無視されますが、これは PDF の解像度設定が使用されるためです。

[ドキュメントタイプ] — 以下のいずれかのオプションを選択します。

- **文字と図形**：文書、グラフィック（棒グラフ、円グラフなど）、線画などが混在している原稿の場合に選択します。
- **テキスト**：文字原稿の場合に選択します。
- **写真**：写真が主体の場合に選択します。

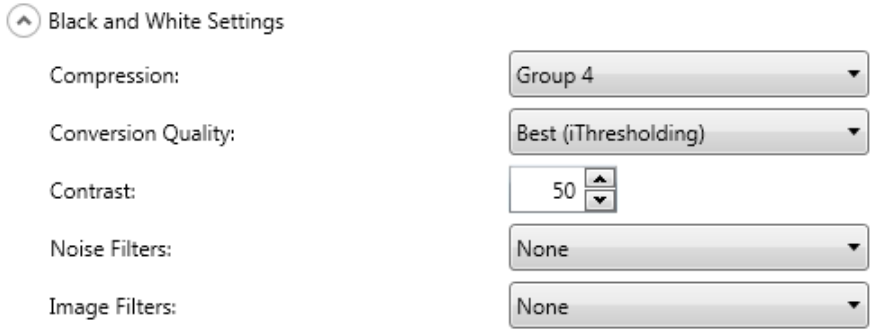
クロッピング — 以下のいずれかを選択します。

- **自動**：イメージ枠を自動的に検出し、必要に応じて傾き修正をします。
- **アグレッシブ**：イメージ枠を自動的に検出し、必要に応じて傾き修正し、イメージの端に残っている黒枠を消去します。この場合、原稿の端のイメージデータが一部失われる可能性があります。

スキャン後に回転 —［**なし**］または［**自動**］を選択します。［**自動**］を選択すると、Scan Station は各書類の向きを判断し、画像を適正な方向に回転します。

白黒設定

[スキャン 方法] の選択が［**カラー**］または［**グレースケール**］の場合、白黒設定が選択できません。



圧縮 — ［**なし**］または［**グループ 4**］が選択できます。

変換の品質 — ［**ベスト**］(iThresholding) または［**ノーマル**］(ATP) が選択できます。

- **［ベスト(iThresholding)］** — Scan Stationが各文書を動的に評価して最適なしきい値を決定するため、ベストの画質が得られます。このため、単一の設定で画質が異なる書類（文字のかすれ、影のある背景、カラーの背景など）もスキャンでき、書類の仕分けの手間を省略できます。［**ベスト**］を選択した場合、*[コントラスト]* のみが調整できます。
- **［ノーマル (ATP)］**(Adaptive Threshold Processing) — 画像での前景情報（テキスト、グラフィックス、線など）と背景情報（白または白以外の用紙の背景）を区別します。［**ノーマル**］を選択した場合、*[しきい値]* と *[コントラスト]* のどちらも調整できます。

［コントラスト］ — イメージの前景の強弱を調整します。この設定を小さくすると、ノイズの量を減らせますが、薄い文字が消える場合があります。この設定の値を大きくすると、薄い文字が見えるようになりますが、ノイズが多くなる場合があります。

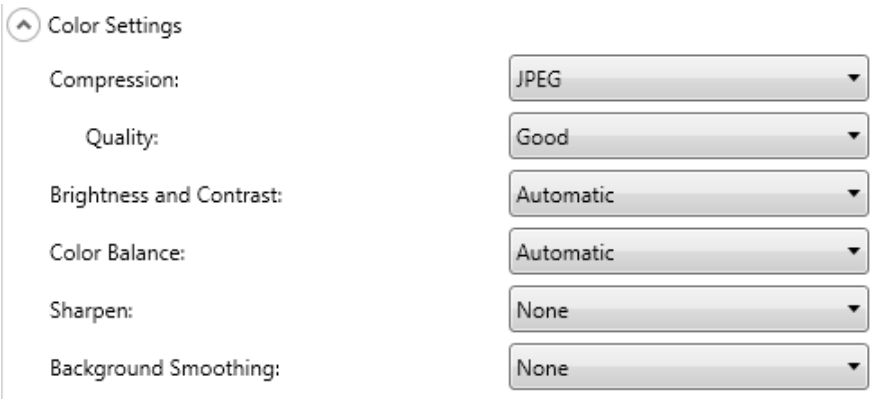
スレッショルド — ピクセルを黒または白と認識するレベルを設定します（1 ビット / ピクセル）。この設定値を小さくすると、イメージが薄くなり、背景ノイズを抑えることができます。この設定値を大きくすると、イメージが濃くなります。また、薄いイメージを取り込みやすくなります。このオプションの範囲は、0 から 255 です。

ノイズフィルタ — 以下のいずれかのオプションを選択します。

- **［孤立点除去］**：白ピクセルで完全に囲まれている単一の黒ピクセルを白へ変換するか、黒ピクセルで完全に囲まれている単一の白ピクセルを黒へ変換することにより、ランダムノイズを減らします。
- **マジョリティルール**：各ピクセルをその周辺全域のデータに基づき設定します。ピクセルは周辺のピクセルの大部分が白の場合白になり、黒の場合は黒になります。

イメージフィルタ — ［**なし**］または［**ハーフトーン除去**］が選択できます。［ハーフトーン除去］では、ハーフトーン画面でドットマトリクステキストと画像の見栄えを良くします（新聞の写真など）。

カラー設定



圧縮 — **[JPEG]** または **[なし]** を選択します。[JPEG] では、表面と裏面のページ毎にファイルを作成します。[JPEG] を選択する場合、[*品質*] オプション、**[ドラフト]**、**[標準]**、**[高]**、**[最高]**、**[高品質]** が選択できます。

品質 — **[ドラフト]**、**[標準]**、**[高]**、**[最高]**、**[高品質]** の品質オプションが選択できます。ファイルを PDF として保存する場合、[**標準**] (150 dpi)、[**高**] (200 dpi)、[**最高**] (300 dpi) を選択すると、事前に定義された解像度設定が使用されます。PDF モードでスキャンするとき、Scan Station の解像度設定は使用されません。

注：品質設定は、ファイルの最終サイズに影響します（ファイルサイズは［ドラフト］で最小、［スーペリア］で最大になります）。

明度とコントラスト — **[なし]**、**[自動]**、**[手動]** のいずれかが選択できます。**[自動]** を選択した場合、設定値は Scan Station が選択します。[**手動**] を選択した場合、すべての画像に特定の値を設定できます。

- **明度**：カラー／グレースケールイメージ中の白の量を変更します。値の範囲は 1 ～ 100 です。
- **コントラスト**：ピクセルの明暗差を調整します。

注：文字の薄い原稿の文字情報を維持する場合や暗い原稿で OCR スキャンする場合は、値を小さくします。

カラーバランス — 以下のいずれかのオプションを選択します。

- **なし**
- **自動**：各原稿の白い背景を純白に調整します。このオプションを使用すると、用紙ごとの厚さやブランドの違いによる白の差異を補うことができます。写真への使用はお勧めしません。
- **[自動 - 詳細]**：自動オプションの詳細を設定したい場合に使用します。
  - **強度**：差異の程度を調整できます。値を大きくすることで、古くなって黄ばんだ原稿に対応できます。値の範囲は -2 ～ 2 です。
- **手動**：すべてのイメージに使用する特定の値を設定できます。
  - **赤**:カラーイメージ中の赤の量を変更します。値の範囲は1～100です。
  - **緑**:カラーイメージ中の緑の量を変更します。値の範囲は1～100です。
  - **青**:カラーイメージ中の青の量を変更します。値の範囲は1～100です。

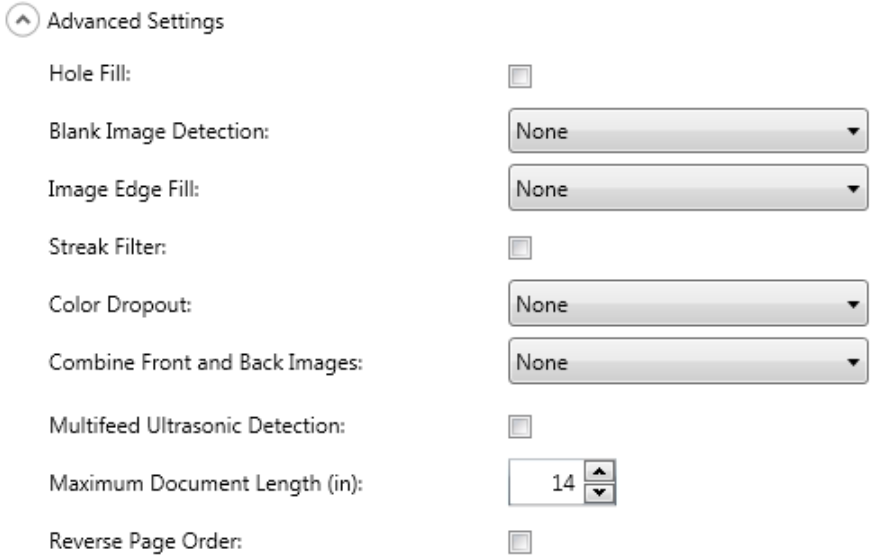
注：カラーバランスはグレースケールイメージでは使用できません。

シャープネス — 文書内のエッジの強調をコントロールします。オプションには、**なし**、**通常**、**高**、**強調**があります。

背景のスムージング — 背景色のある原稿やフォームをスキャンする場合にこのオプションを使用すると、背景色を均一にします。このオプションを利用すると、イメージ品質を向上し、ファイルサイズを軽減できます。

- **なし**
- **自動**：背景色を 3 色までスムージングします。
- **[自動 - 詳細]**：**自動**オプションの詳細を設定したい場合に使用します。
  - **強度**:背景を決定する範囲を調整できます。値の範囲は -10 ～ 10 です。

詳細設定



- **パンチ穴除去**：原稿の端の周囲にある穴を埋めることができます。埋められる穴のタイプは、丸、長方形、不定形（例、二重穴が開いている、またはバインダーから文書を取り外した際にできた若干の裂け目など）。

- **白紙イメージ検知**：白紙ページ（書類の裏面など）を検出して、このようなページを処理しない場合に使用します。**[文字量基準]** を選択して白紙削除の基準値となる内容量を設定 できます 。内容量未満のイメージは削除されます

- **イメージの端を埋める**：イメージ端の領域を、選択した色で補完します。
  - **なし**
  - **自動**：イメージの端が周囲の色で自動的に埋められます。
  - **自動 - 破れを含める**：書類の端周辺の裂け目も補完します。
  - **白**：**上下左右**の余白の値を入力できます。
  - **黒**：**上下左右**の余白の値を入力できます。

- **縦縞フィルタ**：画像から縦縞を除去することができます。縦縞とは、元の原稿には存在しないにもかかわらず、イメージに現れることがある線のことです。縦縞は、文書上の不純物（汚れ、塵、擦り切れた端など）が原因で発生するか、Scan Station で推奨される清掃手順に従わないために発生する場合があります。**[縦縞フィルタ]** をクリックしてこのオプションを有効にし、強度値を選択することで、縦縞を除去する程度を調整できます。値の範囲は -2 ～ 2 です。

- **[カラードロップアウト]** — 記入フォームの背景色の除去に使用します。背景が消去されると記入された文字部分のみがイメージとして保存されます（記入フォームの罫線やボックスなどを削除）。白黒画像の場合、これらの設定は、Scan Station が文書を分析して生成するグレースケール版の画像に影響を与えます。このオプションはグレースケールと白黒のイメージで使用できます。以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **なし**
  - **マルチ**：暗い色合い（黒、濃い青インクなど）以外をドロップアウトします。
  - **主色**：メインの色をドロップアウトします。
  - **青**：**青色をドロップアウトします。**
  - **緑**：**緑色をドロップアウトします。**
  - **赤**：**赤色をドロップアウトします。**

  [マルチ] または **[主色]** を選択すると、カラードロップアウトする *[強度]* 値が調整できます。値の範囲は、-2 ～ 2 です。デフォルトは 0 です。

[表面と裏面のイメージの結合] — 通常は 1 枚の原稿につき、表面と裏面の各イメージが生成されます。このオプションを有効にすると、原稿の表面と裏面を 1 つのイメージに結合します。以下のいずれかのオプションを選択します。

- **なし**
- **[表面を上]**：表面のイメージが裏面のイメージの上に配置されます。
- **[表面を下]**：裏面イメージが表面イメージの上に配置されます。
- **[表面を左]**：表面イメージが裏面イメージの左に配置されます。
- **[表面を右]**：イメージ内で表面を裏面の右に配置されます。

[重送検知] — 重なって給紙された文書を検出して、文書の処理を支援します。重送はホチキスで綴じられた原稿、粘や静電気を帯びている原稿が原因で発生します。*重送検出時の対応*を有効にする場合、このオプションを選択します。

- **重送感度** — 複数の原稿が重なった状態で送られたかどうかを検知する感度を指定します。重送は、原稿とのすきまを検出することにより、識別されます。そのため、厚さの異なる原稿が混在しているような場合でも、重送を検知することができます。
  - **低**：レベルが低い設定で、ラベルを貼った原稿、紙質の悪い原稿、皺がある原稿を重送として認識する可能性が最も低くなります。
  - **中**：厚さが異なる原稿や、ラベルが貼られた原稿をスキャンする場合に使用します。ラベルの材質にもよりますが、大部分のラベルは重送とは認識されません。
  - **高**：最もレベルが高い設定です。この設定は、すべての原稿が 20 ポンド以下のボンド紙の厚さである場合など、厚さが同じ原稿をスキャンするのに適しています。

  注：設定の内容に関係なく、「貼付された」メモは重送として検知されます。

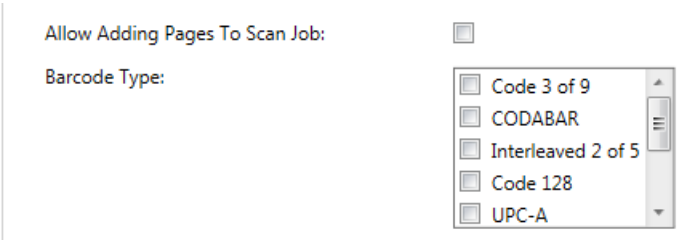
- **重送検出時の動作** — 重送を検出したときの Scan Station の動作を選択します。いずれのオプションでも、状況は Scan Station に記録されます。
  - **スキャンの続行**：Scan Station は引き続きスキャンを行います。
  - **スキャンの停止**：スキャンが停止し、スキャンの継続かキャンセルを指定できます。搬送部に原稿が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。

最長原稿サイズ（インチ）— ジョブで扱う原稿の最長サイズを設定できます。Scan Station がこの値よりも長い原稿を検出した場合、紙詰まりが発生したと判定します。デフォルト値は 14 インチ (35.56 cm) です。最長は 160 インチ (406.40 cm)、最短は 2.5 インチ (63.5 mm) です。

[ページ順序を反転] — 有効な場合、Scan Station はスキャンした文書の順序を反転したイメージの順序にします。

[スキャンジョブへのページの追加を許可] — 有効にすると、スキャンジョブにページを追加できます。入力トレイ内のすべてのページがスキャンされると、ページを追加するかを確認するメッセージが表示されます。**「はい」**と選択すると、原稿を追加スキャンして、**「いいえ」**と選択するまで繰り返し同じメッセージを表示します。同様に、30 秒のタイムアウトが発生するとメッセージの表示は終了します。

バーコードタイプ — バーコードタイプを選択します。



原稿の両面にあるバーコードを読み込むことができます。読取りは左上から右下に向けて実行します。読取り面毎に最大 10 個のバーコードを読み取れます。

注：

- バーコードの読み取り精度はスキャンされたイメージの品質に大きく依存します。解像度が高くバーコードが大きいほど精度が高くなります。推奨のスキャナ設定は 300 dpi、モノクロまたはグレイスケールです。ファイルタイプが **PDF** の場合、品質の設定は**最高**を使用します。イメージの圧縮も精度に影響を与える場合があります。最高品質または非圧縮を選択して、読み取り精度を高めてください。
- インデックステンプレートを定義する場合、インデックステンプレートで設定した値はここで選択したどのオプションよりも優先されます。詳細については、第 6 章を参照してください。

*バーコードタイプ*リストからスキャン原稿と同じバーコードタイプを選択します。スキャンされたときに読み取られたバーコードデータは、対応する .xml ファイルにメタデータとして保存されます。バックエンドシステムに統合するためのメタデータファイル検証用の .xsd ファイルはインストール用 CD に含まれています。

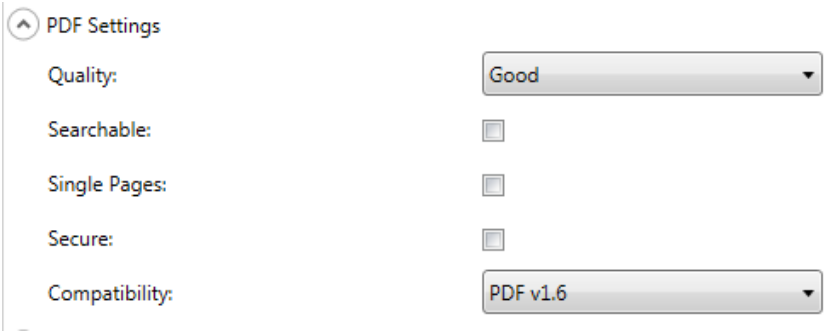
注：出力メタデータファイルを作成する場合は、デバイス設定の**出力メタデータの有効化**をチェックする必要があります。

以下のバーコードタイプが使用できます。

- Code 3 of 9
- CODABAR
- Interleaved 2 of 5
- Code 128
- UPC-A
- UPC-E
- EAN 8
- EAN 13
- PDF-417

注：複数のバーコードタイプを選択すると、処理速度に影響を与える場合があります。

PDF の設定



品質 — **[標準]**、**[高]**、**[最高]** の品質オプションが選択できます。PDF として保存する場合、［**標準**］(150 dpi)、［**高**］(200 dpi)、［**最高**］(300 dpi) を選択すると、事前に定義された解像度設定が使用されます。PDF モードでスキャンする場合、Scan Station の解像度設定は使用されません。

[サーチャブル] — テキストと画像データを含むシングルページ / マルチページのファイルを作成します。OCR（光学的文字認識）技術はスキャンされたイメージデータからテキスト情報を抽出するために使用されます。このオプションを選択すると、*[言語]* オプションが表示されます。PDF ファイルの生成時に使用する言語を選択します。

注：このオプションを選択すると、OCR 処理が有効になります。XLS、DOC、RTF 出力を選択しても OCR 処理が有効になります。

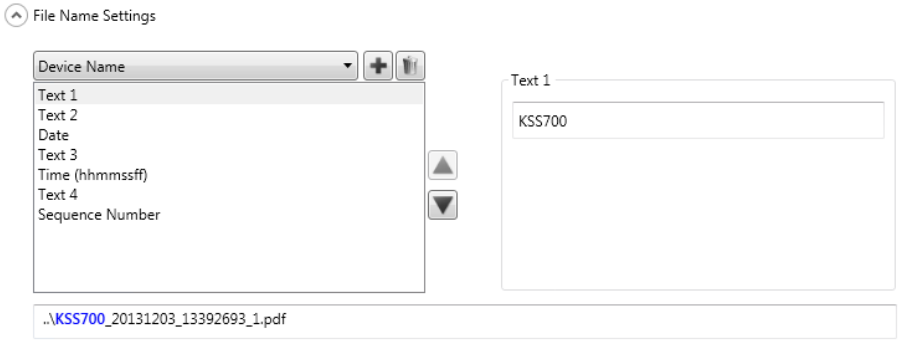
[シングルページ] — スキャンされたページごとに PDF ファイルを作成します。両面原稿をスキャンした場合、表面と裏面の両方に個別ファイルが作成されます。

[セキュリティ] — パスワードを入力できます。これはファイルの送信前にファイルを暗号化するために使用します。パスワードは [*E- メール*] が送信先の 1 つとして選択された場合、別の E メールで送信されます。

互換性 — このオプションは電子文書をデジタル保存するために特化されており、長期間使用する必要がある PDF を作成する場合に使用します。ドロップダウンリストから、適切な PDF オプションを選択します。

注：**[PDF/A]** と［**セキュア**］は、相互排他的です。

ファイル名の設定



［ファイル名の設定］では、スキャンイメージ作成時に、ファイルの保存場所（ディレクトリまたはサブディレクトリ）とファイル名を定義できます。スキャンされた文書をネットワークフォルダ、FTP、USB メモリなどの出力先に保存するフォルダ名を定義できます。すべてのスキャンする文書に適用する［固定文字列］も定義できます。スキャンされた文書は、この固定文字列を付けて名前が付けられます。また必要に応じて日付と時刻が固定文字列に付加されます。たとえば、固定文字［*receipts*］、フォルダ名［*2012*］を定義した場合、スキャンイメージのファイル名は、*「receipts_20120117_092219.tif」*となり、*「2012」*という名前のフォルダに保存されます。

- **［デバイス名］** — ファイル名やファイルパスの一部に、Scan Station の名前を使用できます。
- **［ユーザ名］** — Scan Station にログインする人のユーザ名です。**［ユーザログインの強制］**が無効な（Scan Station へのログイン不要）場合、ユーザ名は空白になります。
- **［ジョブ名］** —［ジョブ］画面の使用時に選択した［ジョブ］ボタンに表示される名称です。Scan Station をウォークアップで作業する場合、ジョブ名は空白になります。ジョブを定義していない場合、これは有効な選択ではありません。詳細については、第 9 章*「ジョブの作成」*を参照してください。
- **［日付］** — ファイル名やファイルパスの一部に、日付を追加できます。
- **［時刻］(hhmmssff)** — ファイル名やファイルパスの一部に、時刻 (hhmmss) を追加できます。
- **［シーケンス番号］** — ファイル名やファイルパスの一部に、連番が使用できます。
- **［テキスト］** — ファイル名やファイルパスの一部にテキストを入力できます。対象のオペレーティングシステムに許容される最大文字数の制限を受けます。
- **ディレクトリの区切り** — ファイル名やファイルパスの一部に、区切りを使用できます。

注：

- ボックス内で項目を並べ替える場合は、上下の矢印を使用してください。
- 値を入力する場合は、画面の底部のテキストボックスにサンプルファイル名が表示されます。
- *[テキスト]*、[*日付]*、*[シーケンス番号]* を選択すると、オプションが右側に表示されます。
- *[ファイル名]* フィールドには、常に少なくとも 1 つのエントリが必要です。
- インデックステンプレートを定義した場合、インデックステンプレートで設定した値はここで選択したどのオプションよりも優先されます。詳細については、*第 6 章、「インデックステンプレート」を参照してください。*

6 インデックステンプレート

目次

インデックステンプレートの作成 6-2
インデックステンプレートのセットアップ画面 6-4
インデックステンプレート設定画面 6-5
インデックステンプレート設定（名）画面..... 6-8
インデックスフィールドエディタ画面..... 6-9
バーコードフィールドプロパティ画面..... 6-10
OCR フィールドプロパティ画面..... 6-13
使用例 6-14

この章ではインデックステンプレートからバーコード、OCR 領域の定義、使用して、パスやファイル名を指定する手順を説明します。

注：この機能は**マルチページのアウトプット**フォーマットのみでの使用向けです（マルチページ TIFF、マルチページ PDF）。インデックステンプレートはシングルページのアウトプットフォーマットで使用しません。インデックステンプレートを使用する場合、プリンタ、Fax、Fax 出力先へ E メールを割り当てても目的の結果は得られません。

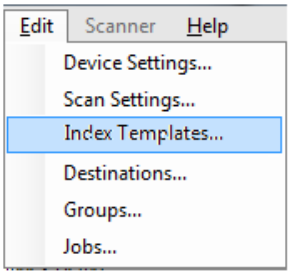
インデックステンプレートはスキャンする文書上で*インデックスフィールド*を定義するのに使用します。インデックスフィールドにはスキャンした文書を特定の順序で分類、ソート、保存（インデキシングと呼びます）する際に使用する情報が含まれます。インデックスフィールドは 1 ～複数のバーコードや OCR データとなります。またインデックステンプレートにより、ファイル名やディレクトリパス内の定義された領域からインデックスフィールドを使用する方法を指定できます。

インデックステンプレートを使用すると、原稿上のバーコードや OCR 場所、スキャン文書のパスやファイル命名時に使用する情報の場所を指定できます。

インデックステンプレートはジョブと併用されます（詳細については、第 9 章、*「ジョブ」*を参照してください）。ジョブを設定して、各フォームに関連する原稿とともに各タイプのフォームを処理します。たとえば、あるジョブを設定して保険フォームを処理し、別のジョブを設定して請求書フォームを処理する場合があります。インデックステンプレートは各固有のタイプの原稿（フォーム）に定義され、そのフォームをスキャンし、処理するよう設定されたジョブと関連付けられます。

各インデックステンプレートは **1 つ**のフォームと関連付けられます。

インデックステンプレートの作成



以下にインデックステンプレートの設定方法を説明します。各［インデックステンプレート］画面上のフィールドとアイコンについては以降を参照してください。［インデックステンプレート設定］画面は 2 つあります。1 つはインデックステンプレートの追加、編集、削除を行う画面で、もう 1 つはインデックステンプレートの名前を定義する画面です。

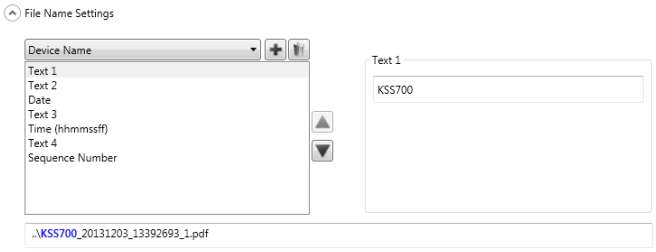
1. バーコードまたは OCR インデックスを定義する各固有のタイプの文書 (フォーム) を表す原稿をスキャンします。
2. **［編集］> ［インデックステンプレート］**を選択します。［インデックステンプレートのセットアップ］画面が表示されます。インデックステンプレートがすでに定義されている場合、この画面に一覧表示されます。定義されていない場合、画面には何もありません。
3. **［追加］**アイコン をクリックします。［インデックステンプレート設定］画面が表示されます。
4. **［インデックスフィールドエディタ］**アイコン を選択してバーコードまたは OCR インデックスフィールドを作成します。［インデックスフィールドエディタ］画面が表示されます。
5. **［イメージを開く］**アイコン をクリックします。［イメージを選択］ダイアログボックスが表示されます。
6. 手順 1 でスキャンした原稿からバーコード/OCR 領域を適用するイメージを 1 つ選択します。イメージを選択すると、［インデックスフィールドエディタ］画面上のイメージウィンドウに表示されます。
7. バーコード領域または OCR 領域を作成するかを指定します。
   - OCR 領域を定義する場合、**[OCR]** アイコン をクリックします。
   - バーコード領域を定義する場合、**［バーコード］**アイコン をクリックします。

   アイコンをクリックすると、十字が表示されます。選択する領域へ十字を移動し、マウスの左ボタンをクリックしたまま、希望するイメージの部分に沿って十字をドラッグし、ボタンを離します。選択内容に応じて、［バーコード（または OCR）フィールドプロパティ］画面が表示されます。

   注：
   - インデックスフィールドの場所を変更する場合はフィールド内側をクリックし、新しい場所へドラッグします。
   - インデックスフィールドのサイズを変更する場合、赤いハンドルの 1 つをクリックし、ドラッグしてサイズを調整します。

   - インデックスフィールドを選択すると、［バーコード］と［OCR］アイコンは使用できなくなります。インデックスフィールド外の任意の場所をクリックしてこれらのアイコンを使用可能にします。

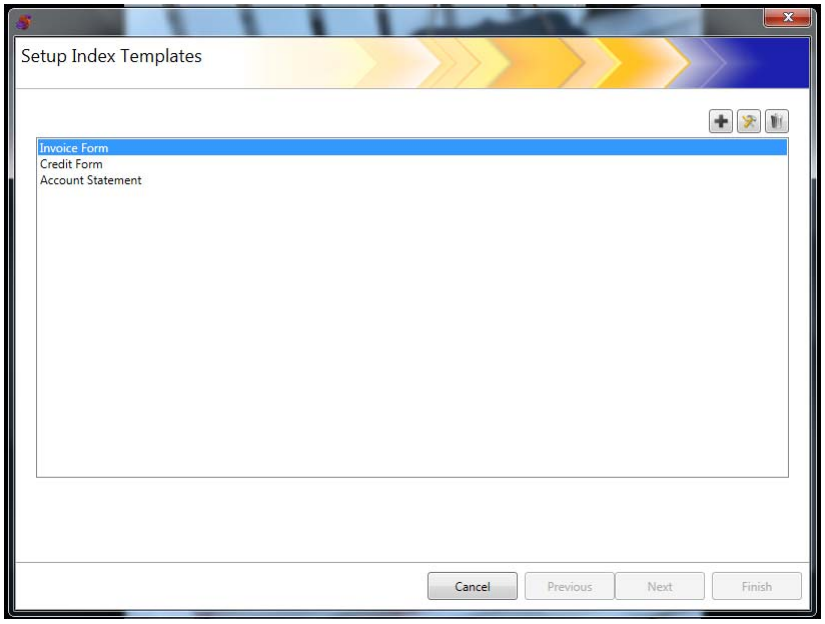
8. ［バーコードフィールドプロパティ］画面または［OCR フィールドプロパティ］画面上のバーコード /OCR 領域を定義して、**［完了］**をクリックします。設定したインデックスとインデックスフィールドプロパティが［インデックスフィールドエディタ］画面が再表示されます。**［OK］**をクリックします。［インデックステンプレート設定］画面が表示されます。
9. ドロップダウンリストから値を選択して［ファイル名の設定］を定義し、**［次へ］**をクリックします。



10. ［インデックステンプレート設定］画面が表示されたら、希望するテンプレート名を *［インデックステンプレート名］* フィールドに入力し、**［終了］**をクリックして［インデックステンプレートのセットアップ］画面に戻ります。作成したインデックステンプレートが表示されます。

インデックステンプレートのセットアップ画面

［インデックステンプレートのセットアップ］画面には事前に定義したインデックステンプレートが表示され、インデックステンプレートの追加、編集、削除ができます。



アイコン	説明
	［インデックステンプレート設定］画面が表示され、インデックステンプレートを追加できます。
	選択したインデックステンプレートを表示、編集できます。
	選択したインデックステンプレートを削除できます。

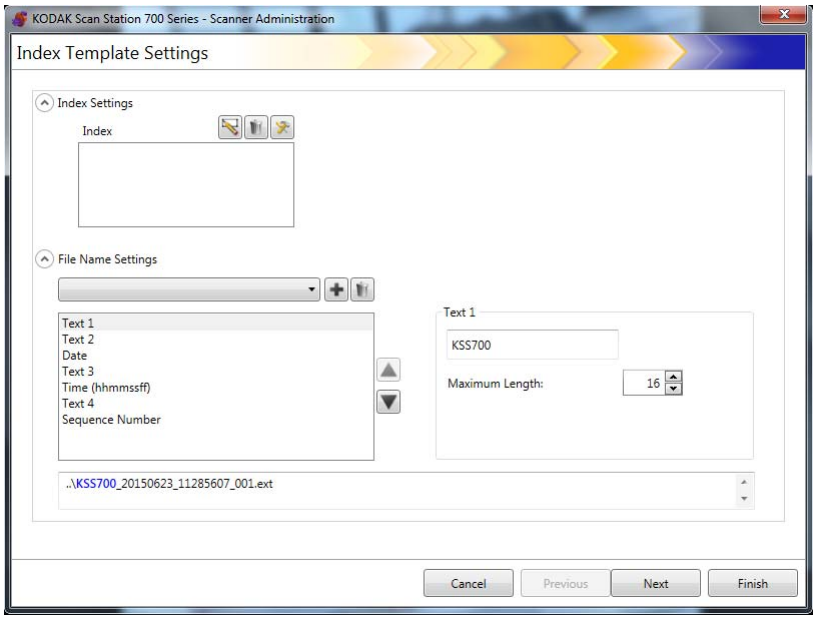
［**インデックステンプレートの**リスト］— 作成したインデックステンプレートを表示します。

［キャンセル］—［インデックステンプレートのセットアップ］画面を閉じ、*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理メイン画面へ戻ります。

［前へ］、［次へ］、［終了］— この画面では使用できません。

インデックステンプレート設定画面

［インデックステンプレート設定］画面ではインデックスフィールドの作成と管理ができます。



インデックス設定

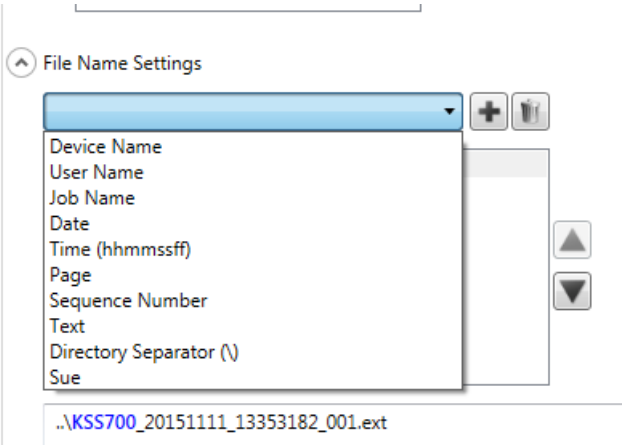
アイコン	説明
	［インデックスフィールドエディタ］アイコンをクリックすると［インデックスフィールドエディタ］画面が表示され、インデックステンプレートのバーコードや OCR インデックスフィールドを作成できます。
	選択したインデックスフィールドを削除できます。
	選択したインデックスフィールドを表示 / 編集できます。

- **［インデックス］**ボックス — インデックステンプレートに作成したインデックスフィールドを表示します。

ファイル名の設定

アイコン	説明
	現在表示されている *[ファイル名の設定]* のドロップダウンリストで選択したファイル名の値をファイル名のパスへ追加できます。定義したインデックスはすべてリストに表示されます。
	選択したインデックスフィールドを削除できます。

[ファイル名の設定] フィールド — スキャン文書作成時に使用する場所（ディレクトリまたはサブディレクトリ）を指定する値とファイル名を定義できます。スキャンされた文書をネットワークフォルダ、FTP、USB メモリなどの出力先に保存するフォルダ名を定義できます。下矢印をクリックしてファイル名のパスに追加可能な値のリストを表示します。フィールドには少なくとも 1 つのエントリが必要です。

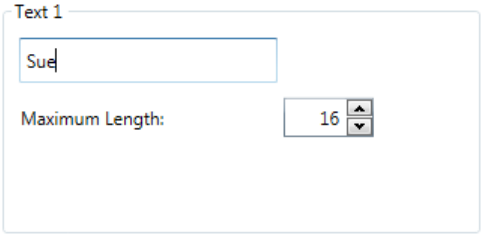


- **[デバイス名]** — ファイル名やファイルパスの一部に、Scan Station の名前を使用します。
- **[ユーザ名]** — ファイル名やファイルパスの一部に、ログインしたユーザ名を使用します。
- **[ジョブ名]** — ファイル名やファイルパスの一部に、ジョブ名を使用します。
- **[日付]** — ファイル名やファイルパスの一部に、日付を使用します。
- **[時刻] (hhmmssff)** — ファイル名やファイルパスの一部に、時刻 (hhmmss) を追加します。
- **[ページ]** — ファイル名やファイルパスの一部に、ページ番号を使用します。
- **[シーケンス番号]** — ファイル名やファイルパスの一部に、シーケンス番号を使用します。

- **[テキスト]** — ファイル名やファイルパスの一部に使用するテキストを入力できます。対象のオペレーティングシステムに許容される最大文字数の制限を受けます。
- **[ディレクトリ区切り]** — ファイルパスの一部として区切り文字を使用します。
- **[インデックス]** — ファイル名やファイルパスの一部に使用できるバーコード /OCR 領域を設定した際に定義した名前です。

  注：

  - ボックス内で項目を並べ替える場合は、上下の矢印を使用してください。
  - 値を入力する場合は、画面下のテキストボックスにサンプルファイル名が表示されます。
  - *[テキスト]*、*[日付]* または *[シーケンス番号]* を選択すると、追加の選択が右側に表示されます。



  - 実行時に、無効なファイル名の文字は「?」で置き換えられます。
  - 実行時に、ファイル名の長さは256文字を超えることはできません。

[キャンセル] — ［インデックステンプレート設定］画面を閉じ、［インデックステンプレートのセットアップ］画面へ戻ります。

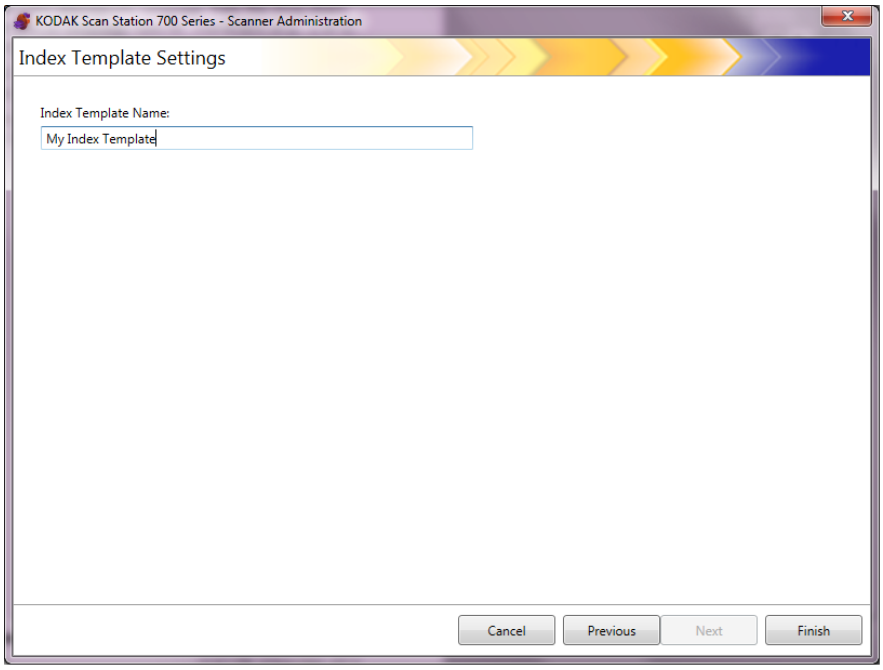
[次へ] — 次の［インデックステンプレート設定］画面へ移動し、現在のインデックステンプレートの名前を入力できます。

[終了] — 選択を保存し、［インデックステンプレートのセットアップ］画面へ戻ります。

注：新規インデックステンプレートを設定する場合、**[終了]** は使用できません。インデックステンプレートに名前をつけるには **[次へ]** をクリックする必要があります。

インデックステンプレート設定（名）画面

［インデックステンプレート設定］（名）画面は、インデックステンプレート名を入力するインデックステンプレート値を設定した後に再表示されます。

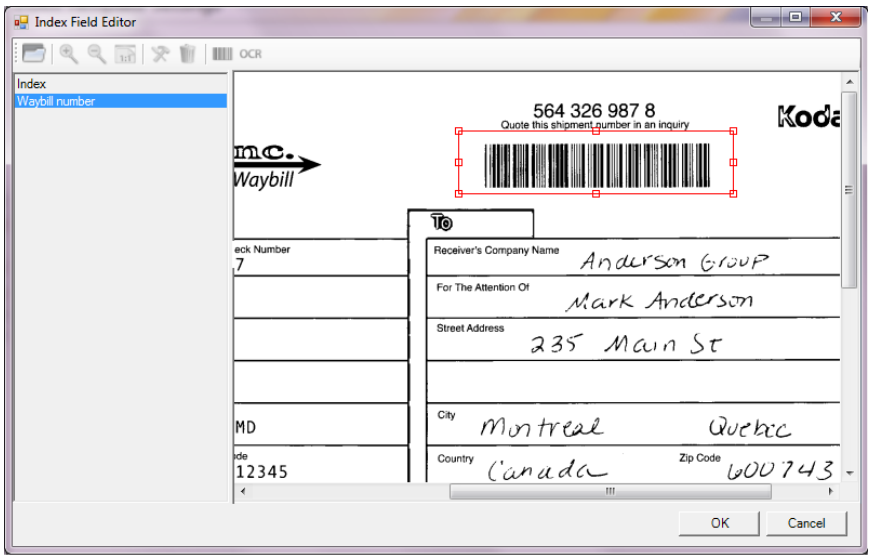


［キャンセル］および**［終了］**— ［インデックステンプレートのセットアップ］画面へ戻ります。

［前へ］— 直前の画面へ戻ります。

インデックスフィールドエディタ画面

この画面を使用してバーコードおよび/またはOCRインデックスフィールドを作成します。



アイコン

[イメージを開く]：[イメージを選択] ダイアログボックスが表示され、OCR/ バーコード領域を適用する JPEG または TIFF イメージを選択できます。

[表示] アイコン：[ズームイン]、[ズームアウト]、[原寸 1:1] アイコンを選択して、希望する表示サイズでイメージを表示します。

編集：[OCR フィールドプロパティ] または [バーコードフィールドプロパティ] 画面が表示され、選択したインデックス値を変更できます。

削除：選択したインデックス値を削除します。

[バーコード]：[バーコードフィールドプロパティ] 画面が表示され、バーコードインデックスフィールドのプロパティを設定できます。

[インデックス]：[OCR フィールドプロパティ] 画面が表示され、OCR インデックスフィールドのプロパティを設定できます。

[インデックス] ボックス — 現在のインデックステンプレートに定義したインデックスフィールドを表示します。

[ビューア] 領域 — イメージが選択されると、[インデックスフィールドエディタ] 画面の [ビューア] 領域に表示され、OCR/ バーコード領域を適用する領域を選択できます。

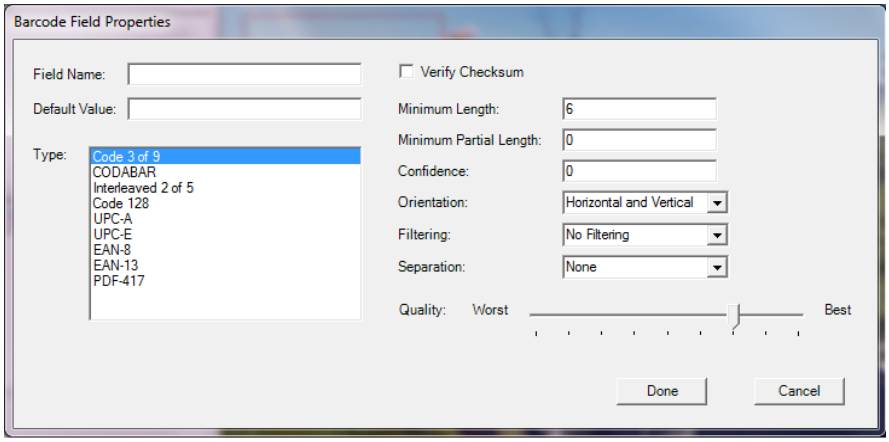
[プロパティ] ボックス — [バーコードフィールドプロパティ] / [OCR フィールドプロパティ] 画面上で選択したオプションを表示します。

[OK] — 変更内容を保存し、[インデックステンプレート設定] 画面へ戻ります。

[キャンセル] — 変更内容を保存しないで、[インデックスフィールドエディタ] 画面を閉じます。

バーコードフィールドプロパティ画面

［バーコードフィールドプロパティ］画面ではバーコードインデックスフィールドを設定できます。希望するバーコードフィールドの周りに領域を作成した後でマウスのボタンを離すか、［インデックスフィールドエディタ］画面上の［編集］アイコンを選択してこの画面を開きます。



- **［フィールド名］**— バーコードフィールドは保存するために名前が必要です。この名前はバーコードフィールドを特定し、以下に表示されます。
  - ［インデックスフィールドエディタ］内のインデックスリスト。
  - ［インデックステンプレート設定］画面内のインデックスリスト。
  - *［ファイル名の設定］*のドロップダウンリスト。
- **［デフォルト値］**— バーコードが読み取り不可能または存在しない場合、このフィールドに入力された値が使用されます。
- **［タイプ］**— 使用可能なバーコードのタイプをリストに表示します。選択できるバーコードタイプは 1 つのみです。以下のバーコードタイプがサポートされています。

Code 3 of 9	UPC-E
CODABAR	EAN-8
Interleaved 2 of 5	EAN-13
Code 128	PDF-417
UPC-A	

- **［チェックサムを検証］**— バーコードにチェックサムが含まれている場合、このチェックボックスを選択します。チェックサムにより、バーコード読み取りの精度が保証されます。チェックサムによる検証をサポートしていないバーコードタイプもあります。オプションでチェックサム検証をサポートしているバーコードは、Code 3 of 9、CODABAR、Interleaved 2 of 5 です。

  PDF-417、UPC、EAN など一部のバーコードタイプはチェックサム機能が実装されており、無効にできません。

  チェックサム付きバーコードに対して**［チェックサムの検証］**が選択されていないと、バーコード値にチェックサムの値（通常はバーコードの最後の文字）が表示されます。選択するとチェックサムの値は表示されません。

スキャン時にチェックサムの検証が失敗すると、バーコード値は生成されません。Code 128 など、バーコードのタイプには、必須のチェックサム文字が含まれているものもあります。コードが常に存在し、値を正しく読み取る必要があります。その他のコードにはオプションのチェックサム文字があり、コードが存在する場合に文字を追加します。

無効な Code 128 記号を読み取る場合は、**[最小の部分の長さ]** オプションを選択できます。このオプションを選択すると、チェックサム検証に失敗しても、データ文字が報告されます。無効なチェックサムは返されません。バーコードにオプションのチェックサムがある場合、ソフトウェアはそれを確認しません。

オプションのチェックサムがあるバーコードに対して **[最小の部分の長さ]** を選択すると、(成功でも失敗でも) 検出結果が返されます。場合によっては、バーコードから正確な結果が返されますが、チェックサムは失敗します。

- **[最小の長さ]** — このフィールドにバーコードの最小桁数を入力します。デフォルトの最小の長さは 6 です。部分読み取りの際はバーコード値を保持するために最小の長さは 6 以下に設定することをお勧めします。
- **[最小の部分の長さ]** — 不完全であってもバーコード値を生成する場合、このフィールドに値を入力します。このオプションは、絶対値がさほど重要ではないドキュメント分割でバーコードを使用する場合に役立ちます。

  注 : **[チェックサムの検証]** にチェックが付いている場合に [最小の部分の長さ] を使用しないでください。チェックサムの検証の失敗時にバーコード値が生成される可能性があります。

- **[信頼度]** — 数値を入力して正常なバーコード読み取りとみなされる結果を制限します。たとえば、入力した値が大きいほど、バーコードの誤読エラーの可能性が低くなります。[信頼度] の値の範囲は 0 (すべて信頼) から 100 (完全に確実) です。
- **[方向]** — 原稿のバーコードの方向を指定します。選択内容は以下のとおりです。**[横]**、**[縦]**、**[縦 - 縦]**。
- **[フィルタ]** — CCD ピクセルが取りこぼす可能性がある FAX やその他のデバイスからバーコードを読み取る場合、フィルタを適用すると、ピクセルが欠けているバーの読み取り率が向上する場合があります。**Filter1** を選択すると、バーの 1 ピクセルの隙間を埋めます。**Filter2** は 2 ピクセルの隙間を埋め、その後も同様です。

- **[分割]** — バーコードをインジケータとして使用して新しい文書を作成できます。原稿を「セパレータ」として認識します。分割は 1 つのインデックスのみ選択できます。
  - **なし**
  - **[新しい文書の作成]** — セパレータとそれ以降のすべての原稿は新しい文書として分割されます。
  - **[ページの削除]** — セパレータ以降のすべての原稿は新規文書として分割されます。セパレータは削除されます。これは、セパレータをドキュメント分割の目的で使用し、特に情報がない場合に使用します。しかし、バーコードは引き続きインデキシングに利用可能です。しかし、**[ページの削除]** が有効であり、かつ **[出力メタデータを有効化]**（デバイス設定 / 構成オプション）が有効な場合、この削除したページのバーコードは xml ファイルに表示されません。
  - **[両面ページの削除]** — 両面原稿のスキャン時にセパレータとそれ以降のページを削除します。これは、セパレータがドキュメント分割の目的で使用され、特に情報がない場合に使用します。しかし、バーコードは引き続きインデキシングに利用可能です。しかし、**[両面ページの削除]** が有効であり、かつ **[出力メタデータを有効化]**（デバイス設定 / 構成オプション）が有効な場合、この削除したページのバーコードは xml ファイルに表示されません。

    注 : **[両面ページの削除]** オプションの使用時に **[白紙ページ検知]** を有効にしないでください。

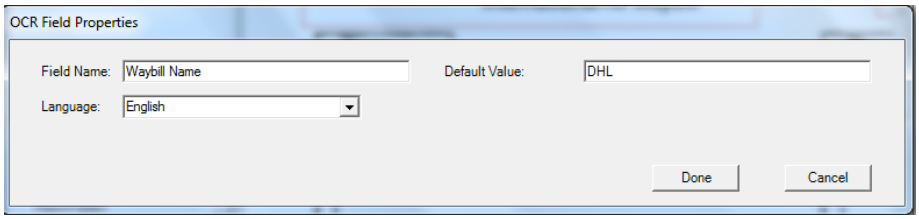
- **[品質]** — 必要に応じて、**[最低]** から **[最高]** の間で、品質を選択します。レーザープリンタやオフセットプリンタで印刷された場合、バーコードの品質は最高になります。インクジェットプリンタやドットマトリックスプリンタで印刷した場合、バーコード品質は低下します。スキャンするバーコードの品質に応じて、適切な［品質］レベルに値を設定します。品質の設定が高いほど、バーコードの読み取りが速くなります。

[完了] — バーコードインデックスフィールドを保存し、［インデックステンプレートセットアップ設定］画面へ戻ります。

[キャンセル] — 変更内容を保存しないで、［バーコードフィールドプロパティ］画面を閉じ、［インデックステンプレート設定］画面へ戻ります。

OCR フィールドプロパティ画面

[OCR フィールドプロパティ] 画面では OCR インデックスフィールドを設定できます。希望する OCR フィールドの周りに領域を作成した後マウスのボタンを離すか、[インデックフィールドエディタ] 画面上の [編集] アイコンを選択してこの画面を開きます。



- **[フィールド名]** — OCR フィールドの名前を入力します。OCR フィールドは保存するために名前が必要です。この名前は OCR フィールドを特定し、以下に表示されます。
  - [インデックスフィールドエディタ] 内のインデックスリスト。
  - [インデックステンプレート設定] 画面内のインデックスリスト。
  - *[ファイル名の設定]* のドロップダウンリスト。
- **[デフォルト値]** — OCR インデックスフィールドが読み取り不可能または存在しない場合、このフィールドに入力された値が使用されます。
- **[言語]** — 適切な言語をドロップダウンリストから選択し、言語固有の特殊文字（ç や ü など）が認識されることを確認します。

[完了] — OCR インデックス値を保存し、[インデックステンプレートセットアップ] 画面へ戻ります。

[キャンセル] — 変更内容を保存しないで、[OCR フィールドプロパティ] 画面を閉じ、[インデックステンプレート設定] 画面へ戻ります。

使用事例

以下はバーコード検知の使用事例です。これら事例には多くのバリエーションがある可能性がありますが、Scan Station でのバーコード検知の使い方を理解するのに役立ちます。

自動車販売代理店

ある自動車販売代理店は 20 店舗を有し、業務の中核は自動車ローン申請の処理に左右されます。お客様は通常ロビーで承認を待っています。自動車ローン申請はバーコードを含む標準的な書類で行います。運転免許証、税金、収入、居住証明のコピーなどの証明書類も提供します。

問題

販売員は顧客と共に申請書に記入し、それを事務所へ FAX します。販売員は事務所へ電話して申請書が届き、処理されていることを確認します。FAX の画質が低ので、設定はプリセットではないことから再スキャンが日常的です。そのため、販売員は顧客が販売代理店から出て行かないようにし、ローンの決定を行うのに事務所へ電話することに時間を費やします。

解決方法

Scan Station を使用すると ***[自動車ローン]*** ジョブは正しいスキャン設定と出力先となるよう設定されます。販売員はローン申請書と証明書類を携えて Scan Station へ向かい、正しい順序で文書をスキャンし、あらかじめ設定された ***[自動車ローン]*** ボタンを選択します。ジョブはバーコード用のイメージ領域をスキャンするように設定されています。バーコードがスキャンされ、値はファイル（自動車ローン番号）に固有の名前を付けます。

出力ファイル名は次のようなフォーマットになります。

```
Dealership1-Salesperson1-CarLoanNumber.pdf
```

出力先は財務部の E メールアドレスです。

販売員はジョブがスキャンされ、正常に完了したことを確認します。お客様に注意を向け、数分後に財務部からローン申請が処理中で、30 分以内に完了することを知らせるテキストメッセージが届きます。

運輸会社

問題

ある運輸会社は数百の拠点を有し、海外輸送の荷物を受け入れ、税関向けの輸送物に伴う文書をスキャンする必要があります。スキャンした文書は積荷証券を用意する集中センターへ送られ、荷物が到着すると直接海外拠点へ向かう航空機へ搬送されます。過去にこの運輸会社は MFP（複合機）を使用してみましたが、インターフェースは使用しにくく、イメージ品質は低く、また MFP はこの業務専用ではありませんでした。

各輸送リクエストの先頭ページはお客様が記入する標準のフォームで、固有のバーコードがあります。通関証明書類が通常提供されます（荷物の説明書類、ECCN、政府規定のその他の書類など）。フォームが記入されると、運輸会社の従業員は輸送先の住所と連絡先を入力し、輸送リクエストのバーコードをスキャンして作成中の記録と関連付けます。たとえば、この時点で従業員は荷物がブラジルへ輸送されることを知るでしょう。

海外輸送リクエストと証明書類がスキャンされ、イメージは国際デスクへ送信されます。そこで書類が処理され、海外の税関基準に準拠していることを確認し、積荷証券を作成します。書類は実際の荷物とともに、輸送先の国の税関へ送られます。荷主の拠点で荷物が受領されると、書類は荷物より先に送られた積荷証券と照合されます。この会社の目標は、95% 問題なく対応することで、荷物は翌日輸送が可能です。

解決方法

Scan Station を使用すると ***[海外輸送]*** ジョブは正しいスキャン設定と出力先で設定されます。事務所のセキュアな FTP サーバに出力します。文書はマルチページ TIFF ファイルで保存されます。

パスとファイル名から文書を特定します。たとえば以下のようになります。

```
ftps:\\corporate-
server\ShippingCoLocation\ScanStationName\Date\ForeignShip-[barcode].tif
```

また運輸会社はマルチページ TIFF ファイルと同じファイル名で作成した添付 XML ファイルを必要とします。このファイルにはバーコード値、最終輸送先、荷主名、住所とアカウント番号、文書のページ数、マルチページ TIFF の作成タイムスタンプが含まれます。最終輸送先、荷主名、住所とアカウント番号は検索キーとしてバーコード値を使用するデータベースクエリから得られます。

サーバ側では、運輸会社は SFTP ディレクトリ内のマルチページ TIFF と XML ファイルを確認すると、コピー操作が完了したことを認識します。その後ファイルは別の場所へコピーされ、XML を解析し、イメージ文書と比較し、トランザクションをロギングして、マルチページ TIFF と XML ファイルを SFTP ディレクトリから削除します。

ホテル管理会社

問題

ある会社は世界 70 カ国に 100 以上のホテルを所有しています。各ホテルの支配人は宿泊客に提供するサービスの割引を許可できますが、運営、税、ガバナンス上の理由から割引を記録する必要があります。各割引に対してホテルのサービスの請求書は総支配人が（手書きで）変更し、お客様が署名します。請求書はスキャンされて、事務所の経理へ送信され、一方取引の記録は現地ホテルの日々の台帳に記録されます。法律により、すべての割引は企業にとって理にかなったものであり、すべての帳簿は 24 時間以内に調整する必要があります。

解決方法

請求書は通常のバーコードが付いた 1 ページ書類です。割引は手書きで記入され、お客様は割引の受領書に署名し、変更された請求書はスキャンされ、イメージは事務所へ送信されます。

1 ページの JPEG は SFTP に送信され、そこではスキャン時にホテルの所在地、マシン名、スキャンしているユーザや請求書、日時のバーコード値に基づいてディレクトリ名を変える必要があります。

例：

```
sftp:\\corporate-server\discounts\country\hotel-
location\machine-name\user\barcode
value-date-time.jpg
```

ほとんどの場合、各請求書は 1 ページです。請求書が 2 ページ以上となる場合は 5% です。こうした場合、ファイル名は最初のページと同じになりますが、連続するサフィックスが追加されます。

例：

```
sftp:\\corporate-server\discounts\country\hotel-
location\machine-name\user\barcode
value-date-time.jpg

sftp:\\corporate-server\discounts\country\hotel-
location\machine-name\user\barcode
value-date-time-01.jpg
```

次のバーコードが読み取られるとファイル名は以下のようにリセットされます。

```
sftp:\\corporate-server\discounts\country\hotel-
location\machine-name\user\barcode
value-date-time.jpg
```

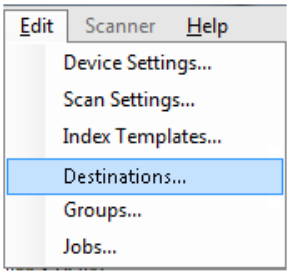
7 出力先の作成

目次

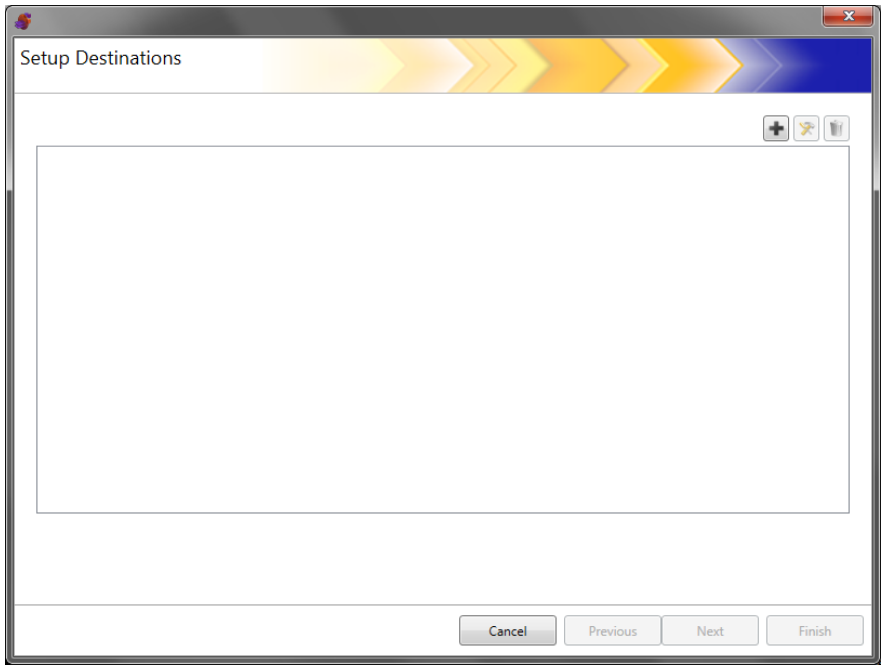
出力先画面 7-1
出力先レイアウトと用語 7-2
E メール送信先のセットアップ 7-3
　E メールアドレスブックのインポート 7-5
ネットワーク出力先のセットアップ 7-7
プリンタ出力先のセットアップ 7-9
　プリントサーバのプリンタ出力先のセットアップ 7-9
　共有ワークグループのプリンタ出力先のセットアップ 7-11
　ネットワークと直接接続したプリンタのセットアップ 7-13
FTP サイトのセットアップ 7-15
Fax/Fax から E メール送信先のセットアップ 7-18
SHAREPOINT グループの追加 7-19
Kofax Front Office Server グループの追加 7-21

この章では、出力先（E メール、ネットワークフォルダ、プリンタ、FTP など）の追加の手順について説明します。

出力先画面

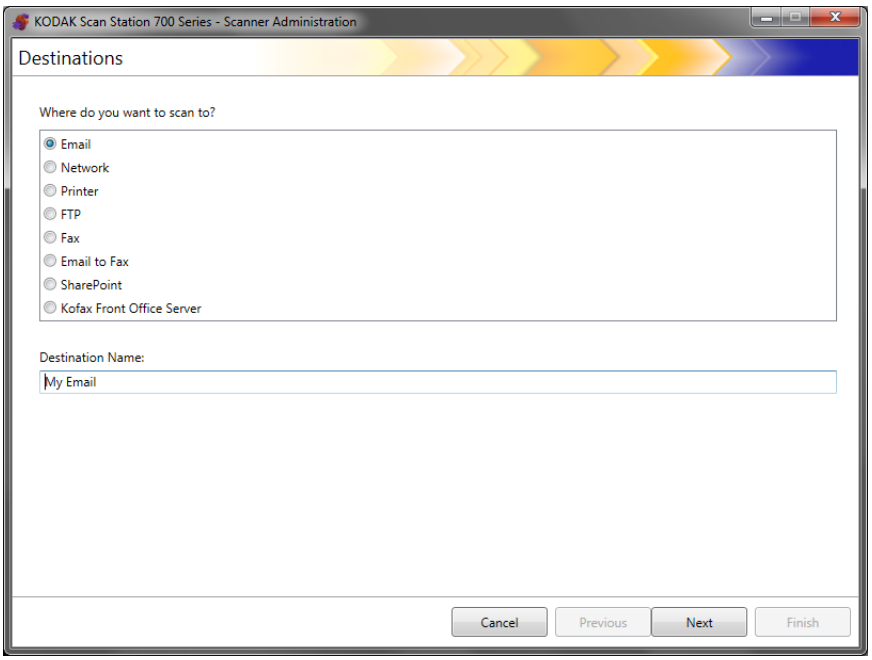


1. **［編集］> ［出力先］を選択します。**［出力先のセットアップ］画面が表示されます。



2. **[追加]** アイコンをクリックして、[出力先] 画面を表示します。[出力先] 画面で作成できる出力先は、E メール、ネットワーク、プリンタ、FTP、Fax、E メールから Fax、SharePoint、Kofax Front Office Server です。

   注：Fax および E メールから Fax の出力先を同じ設定で定義することはできません。

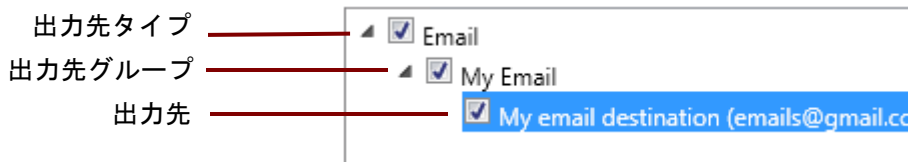


3. 作成する出力先タイプを選択します。出力先タイプを選択する際、出力先の推奨される名前が *[出力先 名]* フィールドに表示されます。名前を変更して、分かりやすい名前を入力できます。この名称が Scan Station のタッチスクリーンに表示されます。
4. **[次へ]** をクリックします。アプリケーションが各出力先構成を順次実施します。

   注：異なる出力先タイプに関する詳細については、以降の章を参照してください。

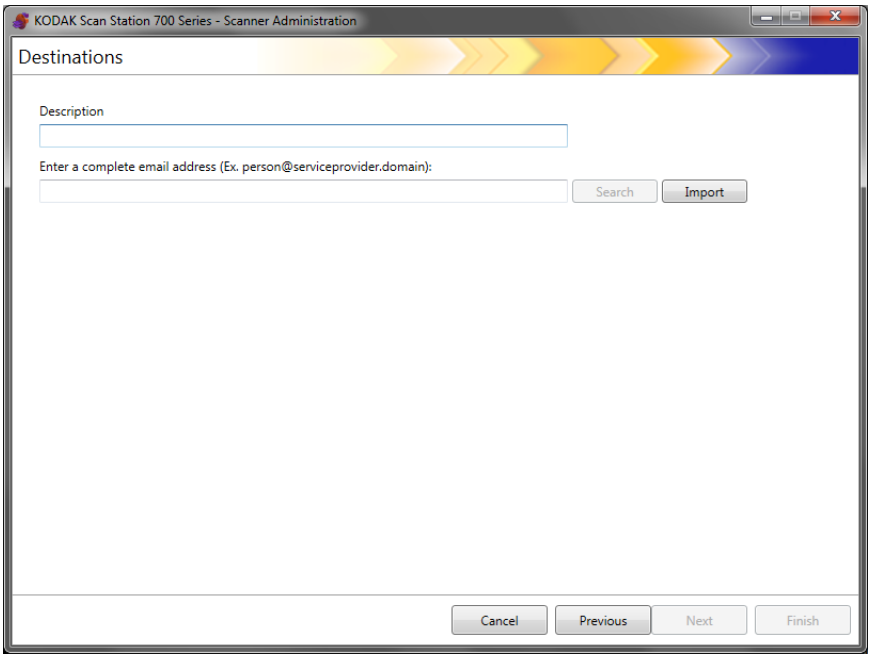
出力先レイアウトと用語

出力先を設定した後、下に似た画面には出力先の種類、出力先グループおよび出力先がリスト表示されます。



E メール送信先のセットアップ

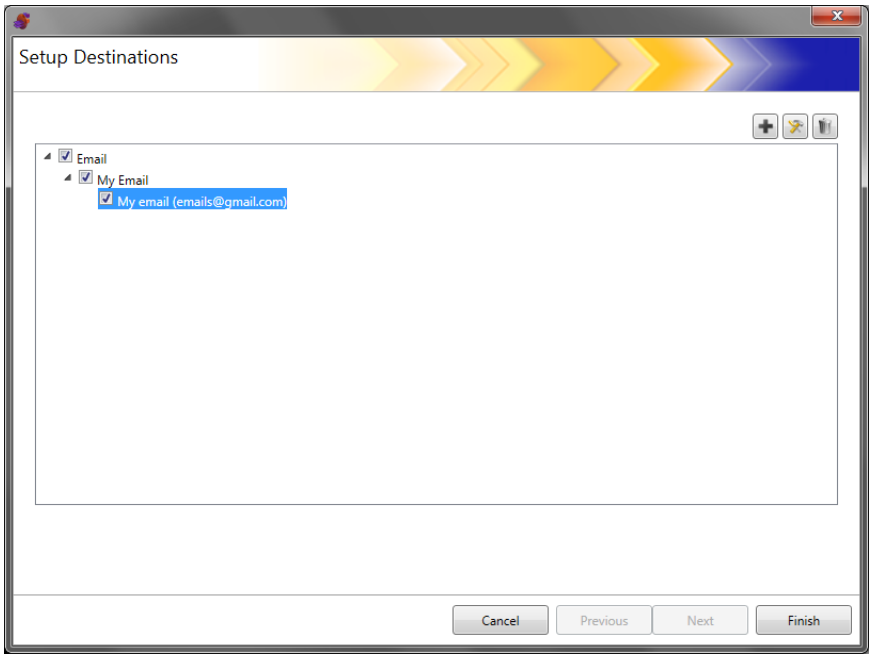
1. **［編集］> ［出力先］を選択します。**［出力先のセットアップ］画面が表示されます。
2. **［追加］**アイコンをクリックして、［出力先］画面を表示します。
3. **［E メール］**を選択します。
4. **［次へ］**をクリックします。



5. *［説明］*フィールドに名前を入力し、*［E メールアドレスを入力］*フィールドに E メールアドレスを入力します。
   - **検索** ― ネットワークアドレスブックから E メールアドレスを検索できます。検索中に見つけたアドレスは、選択している E メールグループに追加できます。

     注：
     - ネットワークのアドレス帳はデバイス設定（E- メールサーバ）で設定された SMTP サーバに関係するものです。
     - 検索基準に一致するアドレスが20件を超えて見つかった場合は、名前などの追加条件を指定することにより、検索結果を絞り込むことができます（例：「smith」ではなく「smith joe」と指定する）。
     - ワイルドカードは検索条件の前後に追加できます。
     - 検索機能は正確に機能するために指定される Active Directory Server デバイス設定によって異なります。詳細については、第 4 章の「Active Directory の設定」を参照してください。
   - **［インポート］**によって CSV ファイルをインポートできます。詳細は、「E メールアドレスブックのインポート」を参照してください。

6. **[完了]** をクリックします。E メール送信先とグループを示す以下の画面が表示されます。



7. 同じEメール送信先グループ内でさらにEメール送信先を追加する場合、**[追加]** アイコンをクリックして手順 5 ～ 6 を繰り返します。
8. 他の E メール送信先グループを追加するには、E メール送信先の種類を選択して、**[追加]** アイコンをクリックするか、**[完了]** をクリックします。

Eメールアドレスブックのインポート

CSV ファイルはデータベース情報を表すデータファイルです。各行には、カンマで区切られたデータ値が入っています。テキストの行にある各カンマは、オリジナルのデータベースからのデータの列を示しています。以下の例では、Microsoft 社の Outlook Express からエクスポートされた一般的なデータを示しています。

注：最初の行はデータ列のヘッダー情報で、実際のデータでは**ありません**。

1 行目

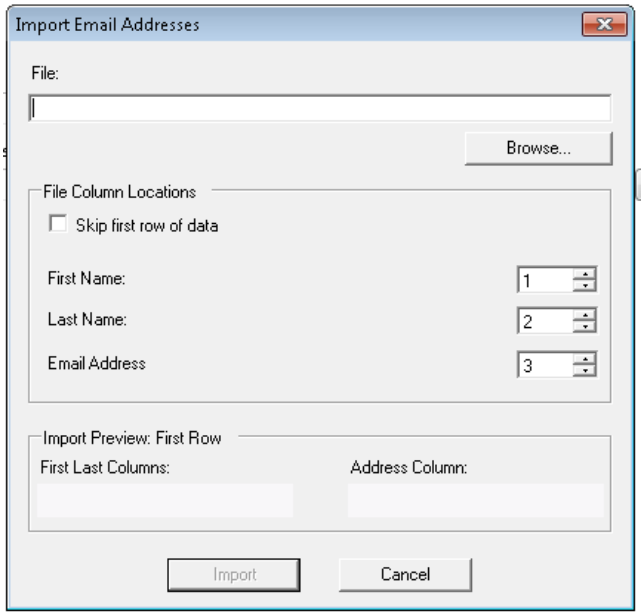
```
First Name,Last Name,Email Address
Smith,John,johnsmith@rochester.rr.com
Tom,Brown,Tombrown123@yahoo.com
William,Doe,wdoe@msn.com
```

Outlook Expressはメールアドレスブックをカンマ区切りファイルにしてエクスポートできます。E メールアドレスブックをエクスポートする場合、エクスポートするデータ列を選択できます。

注： その他の E メールプログラムでは、エクスポートするデータ列を選択できない場合があります。

名、姓、E メールアドレスのみをエクスポートすることを推奨します。

1. **[インポート]** をクリックします。**[E メールアドレスのインポート]** ダイアログボックスが表示されます。



2. *[ファイル]* フィールドに、インポートするファイル名を入力します。必要に応じて、**[参照]** ボタンを使用します。

3. 一般的な E メールクライアントアプリケーションでは、列見出しをデータの 1 行目として自動的にエクスポートします。列見出しをデータの 1 行目としてインポートしない場合は、**[1 行目をスキップ]** をチェックします。

   注：デリミッタ付きデータをエクスポートするEメールアプリケーションもあります。データのインポート時に引用符は削除されます。

4. **ファイル名、姓、メールアドレス**が CSV ファイルに表示される列番号を入力します。

   CSV ファイルを選択して列の場所を指定すると、プレビューが表示され、［ファイル列位置］選択の結果が表示されます。列の選択が変更される場合は、プレビューは変更を反映します。

   たとえば、3 つの *［ファイル列位置］* の値が 1、2、3 の場合、プレビューは以下のようになります。

名前 姓	E- メールアドレス

   名前と姓はメールアドレスの表示を形成するために組み合わせられます。E メールアドレスは、E メールアドレスの作成に使用されます。

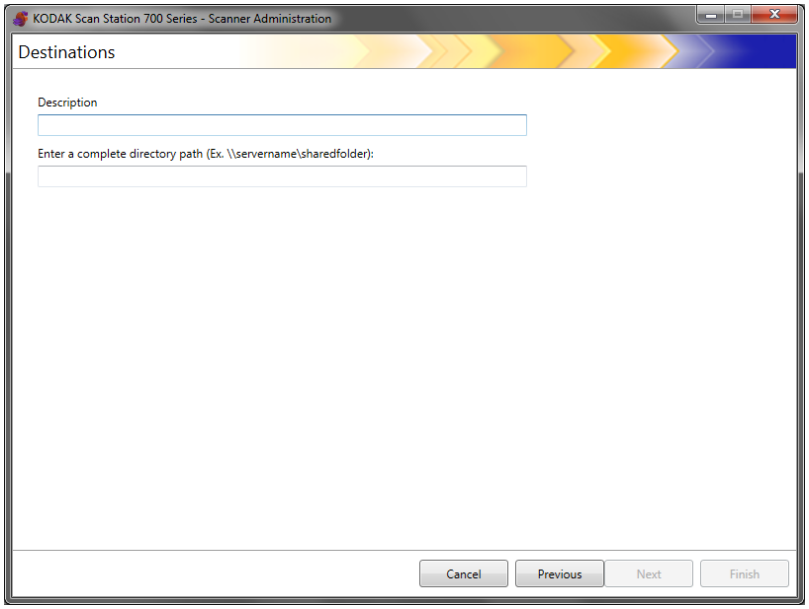
   3 つの列位置の値がすべて 1 に設定された場合のプレビューは以下のようになります。

名前 名前	名前

5. **[インポート]**をクリックします。E メールアドレスが選択した E メールグループに追加されます。

ネットワーク出力先のセットアップ

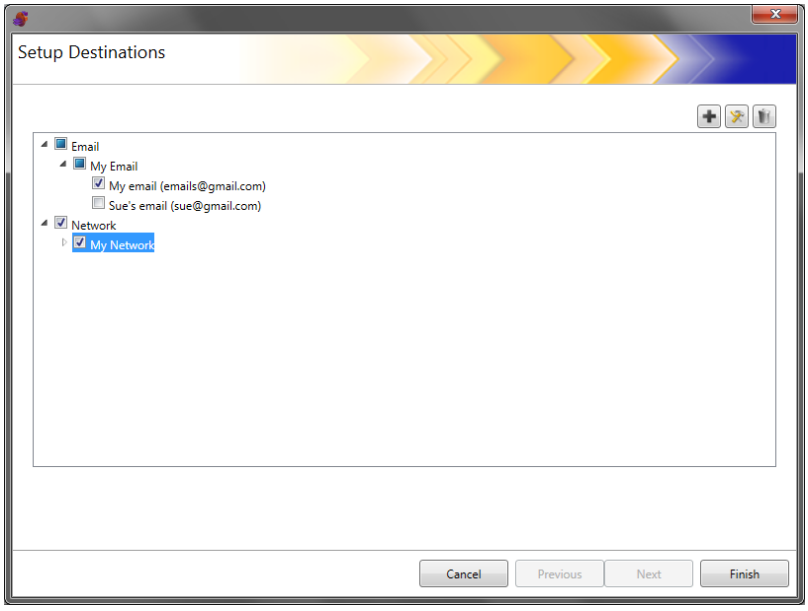
1. **［編集］> ［出力先］を選択します。**［出力先のセットアップ］画面が表示されます。
2. **［追加］**アイコンをクリックして、［出力先］画面を表示します。
3. **［ネットワーク］**を選択します。
4. **［次へ］**をクリックします。



5. わかりやすいネットワーク出力先名を*［説明］*フィールドに入力します。
6. フォルダのフルパスを*［完全なディレクトパスを入力］*フィールドに入力して、**［完了］**をクリックします。

   注：DFS ベースのネットワークにスキャンしている場合は、フルネットワークパスを使用します。

ネットワーク出力先やグループを示す以下の画面が表示されます。



7. 同じネットワーク出力先グループ内でネットワーク出力先を追加する場合、**[追加]** アイコンをクリックして手順 5 ～ 6 を繰り返します。
8. 他のネットワーク出力先グループを追加する場合は、ネットワーク出力先の種類を選択して、**[追加]** アイコンをクリックするか、**[終了] をクリックします。**

プリンタ出力先のセットアップ

プリンタのインストール前に、Scan Station 700/720EX 用の Windows 7、32 ビットプリンタドライバ、または Scan Station 710/730EX 用の Windows 8、64 ビットプリンタドライバがあることを確認してください。

Scan Station とプリンタとの接続方法は、以下のとおりです。

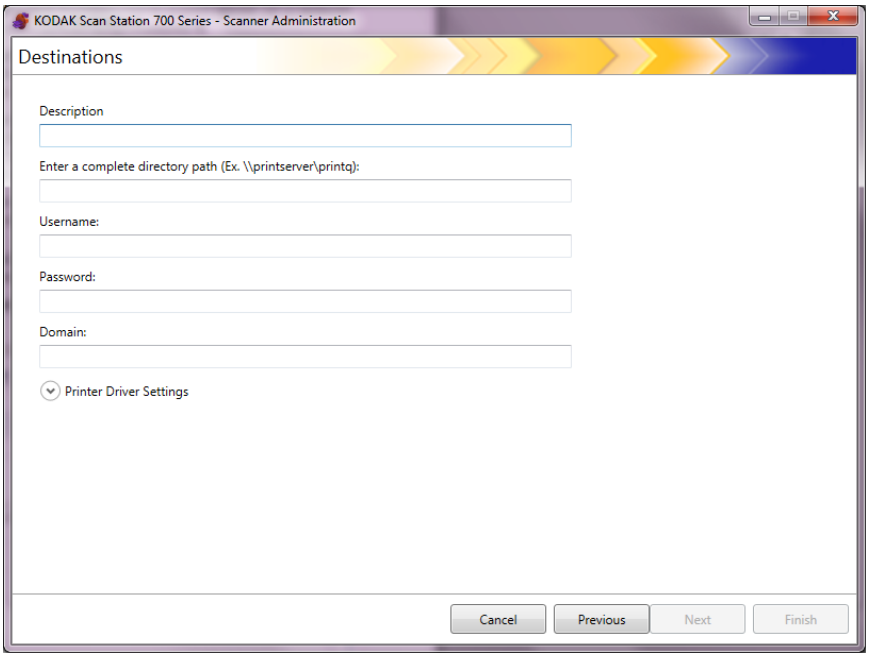
- ネットワークドメイン上のプリントサーバに接続されたプリンタに接続する。手順については、以降を参照してください。
- ネットワークのワークグループ内で共有されている別のPCのプリンタに接続する。本章後述の、「共有ワークグループのプリンタ出力先のセットアップ」を参照してください。
- ネットワーク上のルーターまたはハブ経由でネットワークプリンタに接続する。本章後述の、「ネットワークと直接接続したプリンタのセットアップ」を参照してください。

これらの各状況において、Microsoft Windows はネットワークプリンタへのアクセスを要求するすべてのデバイスに対してログイン証明書を要求します。

プリントサーバのプリンタ出力先のセットアップ

ネットワークドメイン上のプリントサーバ経由でプリンタと接続する場合、以下を行います。

1. **［編集］> ［出力先］を選択します**。［出力先のセットアップ］画面が表示されます。
2. **［追加］**アイコンをクリックして、［出力先］画面を表示します。
3. **［プリンタ］**を選択します。
4. **［次へ］**をクリックします。

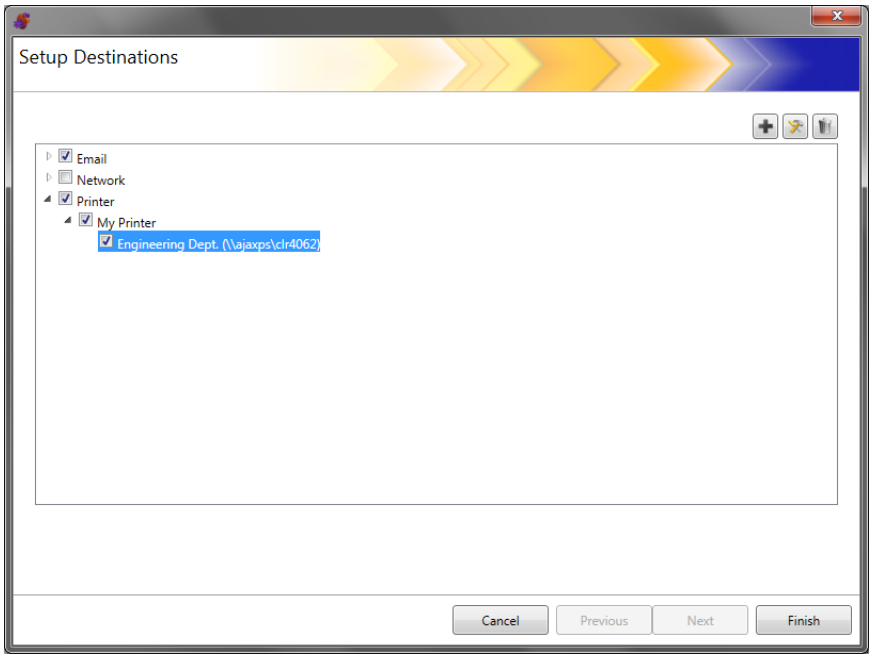


5. プリンタに関する説明を *[説明]* フィールドに入力します。
6. プリントサーバおよび印刷キュー（\\printservername\printqueue など）への完全修飾パスを *[完全なディレクトリパスを入力]* フィールドに入力します。
7. プリンタとの接続に認証を要求するように設定されたネットワークドメインの場合は、**[ユーザ名]**、**[パスワード]**、**[ドメイン]** の名前を入力します。

注：

- 適切な認証が提示されない場合、プリンタとそのドライバは、Scan Station にインストールされません。
- ［プリンタドライバの設定］はこの設定では必要ありません。

8. **[終了]** をクリックすると、プリンタ出力先とグループを示す以下の画面が表示されます。



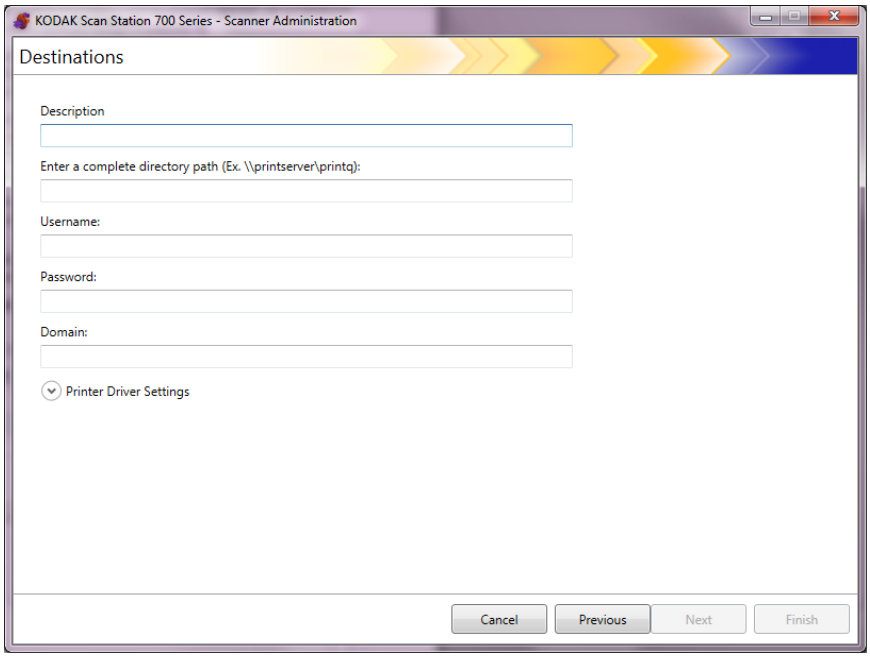
9. 同じプリンタ出力先グループ内でさらにプリンタ出力先グループを追加する場合、**[追加]** アイコンをクリックします。
10. 他のプリンタ出力先グループを追加するには、プリンタ出力先の種類を選択して、**[追加]** アイコンをクリックするか、**[終了]** をクリックします。

共有ワークグループのプリンタ出力先のセットアップ

ネットワーク上の別のコンピュータが共有するプリンタを設定する場合、以下の手順に従います。

重要：この構成を完了するためには、プリンタが組織内でどのように設定されているか認識している必要があります。ご質問はシステム管理者までお願いします。

1. **［編集］>［出力先］を選択します**。［出力先のセットアップ］画面が表示されます。
2. **［追加］**アイコンをクリックして、［出力先］画面を表示します。
3. **［プリンタ］**を選択します。
4. **［次へ］**をクリックします。

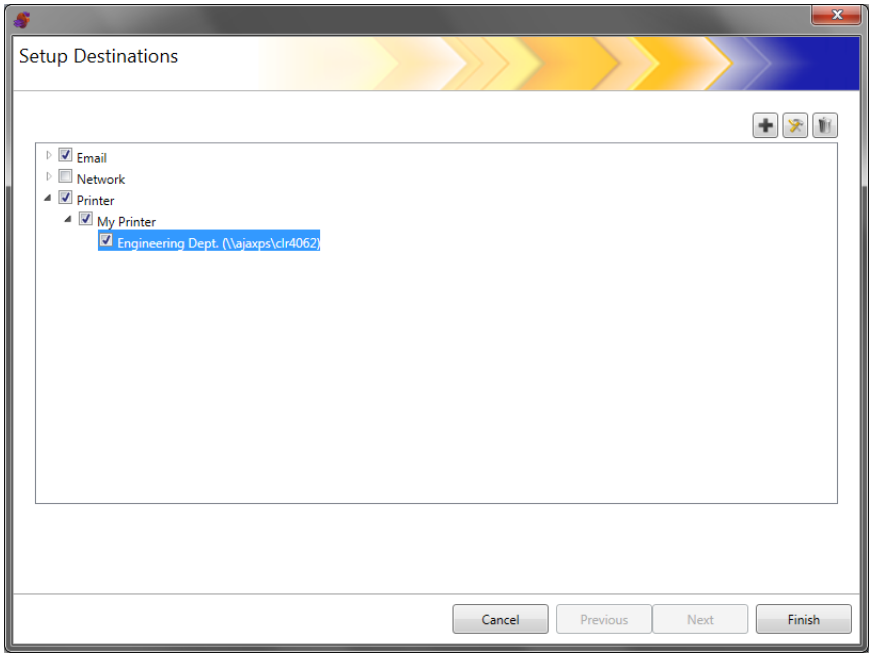


5. プリンタに関する説明を*［説明］*フィールドに入力します。
6. プリントサーバおよび印刷キュー（\\printservername\printqueue など）への完全修飾パスを*［完全なディレクトリパスを入力］*フィールドに入力します。
7. プリンタを共有するコンピュータをプリンタとの接続に認証を要求するように設定する場合は、**［ユーザ名］**、**［パスワード］**、**［ドメイン］**を入力します。

注：

- 適切な認証が提示されない場合、プリンタとそのドライバは、Scan Station にインストールされません。
- ［プリンタドライバの設定］はこの設定では必要ありません。

8. **［終了］**をクリックすると、プリンタ出力先およびグループを示す以下の画面が表示されます。

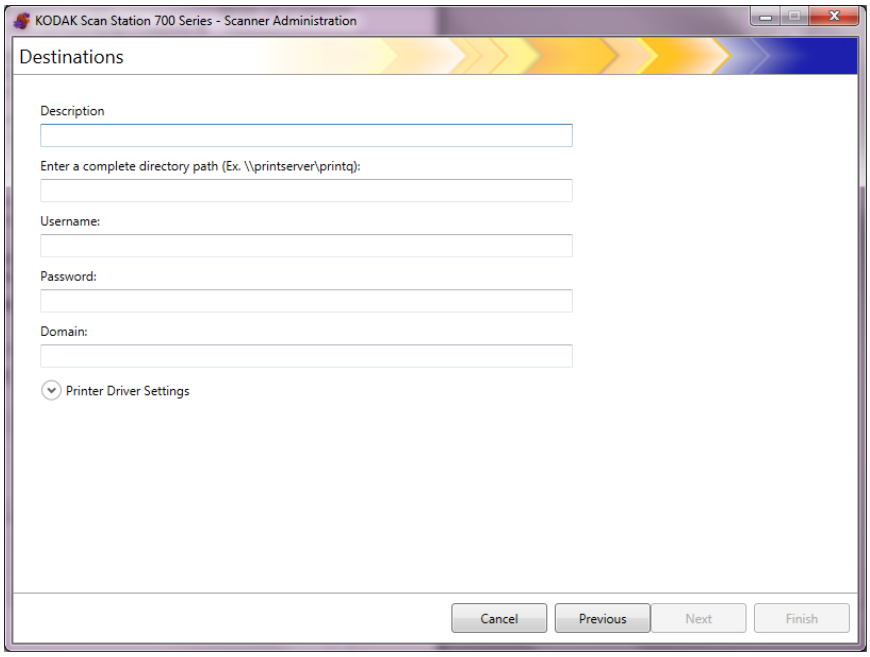


9. 同じプリンタ出力先グループ内でさらにプリンタ出力先グループを追加する場合、**［追加］**アイコンをクリックします。
10. 他のプリンタ出力先グループを追加するには、プリンタ出力先の種類を選択して、**［追加］**アイコンをクリックするか、**［終了］**をクリックします。

ネットワークと直接接続したプリンタのセットアップ

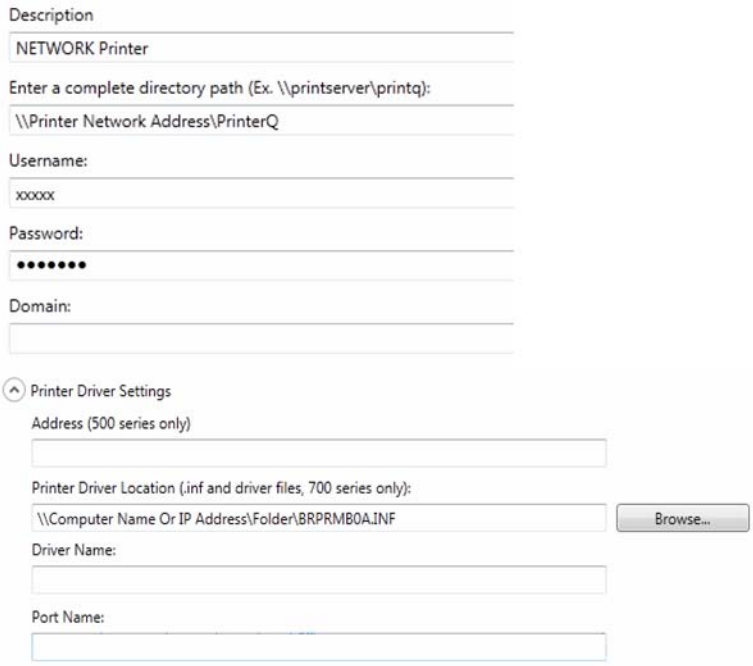
ネットワークに直接接続したプリンタを設定する場合、以下の手順に従います。

1. **［編集］> ［出力先］を選択します**。［出力先のセットアップ］画面が表示されます。
2. **［追加］**アイコンをクリックして、［出力先］画面を表示します。
3. **［プリンタ］**を選択します。
4. **［次へ］**をクリックします。



5. プリンタに関する説明を *［説明］* フィールドに入力します。
6. *［完全なディレクトリパスを入力］* フィールドで、ネットワークプリンタ IP アドレスと印刷キュー（例、\\192.168.1.136\printQueueName）を入力します。
7. プリンタドライバの場所へのアクセスにユーザ資格情報が要求される場合、*［ユーザ名］*、*［パスワード］*、*［ドメイン］* フィールドに資格情報を入力します。

8. ［プリンタドライバの設定］で、プリンタドライバのセットアップ情報ファイルの場所を *［プリンタドライバの場所］* フィールドに入力するか、**［参照］** ボタンを使用します。プリンタドライバは同じネットワークに接続したどの PC にも配置でき、またその場所は Scan Station からアクセスできる必要があります。



注：以前の Scan Station モデル (500/520EX) で使用する設定を作成する場合、プリンタドライバがあるプリントサーバのアドレスを *［アドレス］（500 シリーズのみ）* フィールドに入力します。

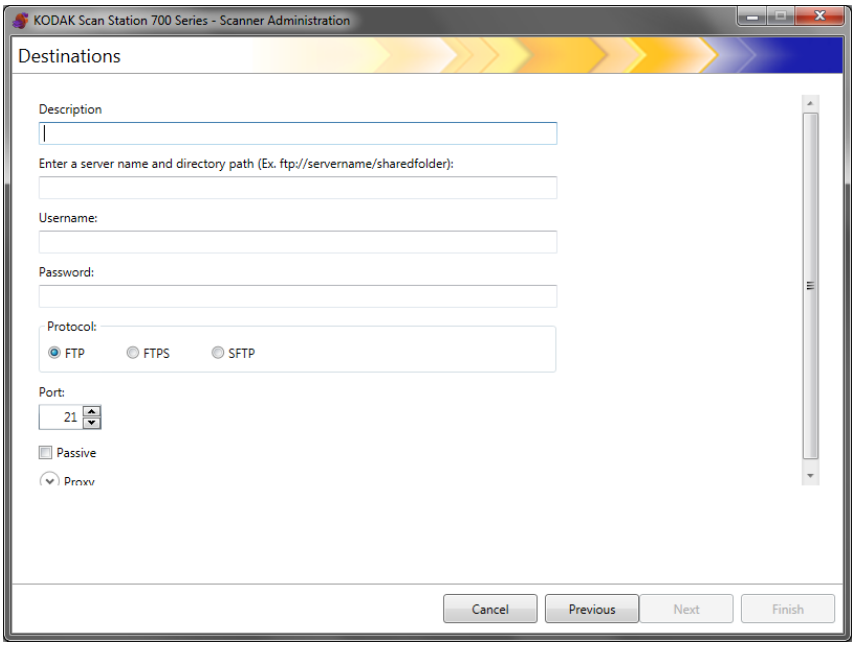
9. 別のコンピュータの出力先プリンタでテストページを印刷します。
10. *［ドライバ名］* フィールドにドライバ名を入力します。この文字列はテストページにあります。
11. *［ポート名］* フィールドにポート名を入力します。この文字列はテストページにあります。
12. **［終了］** をクリックします。
13. 同じプリンタ出力先グループ内でさらにプリンタ出力先グループを追加する場合、**［追加］** アイコンをクリックします。
14. 他のプリンタ出力先グループを追加するには、プリンタ出力先の種類を選択して、**［追加］** アイコンをクリックするか、**［終了］** をクリックします。

プリンタドライバが、共有している PC からインストールされます。初期インストール後、Scan Station はネットワークプリンタと直接通信できるようになります。

注：プリンタはインストールに失敗すると、ログファイルでエラーコードをチェックし、Microsoft Web サイトでエラーコードを検索します。

FTP サイトのセットアップ

1. **［編集］> ［出力先］を選択します。**［出力先のセットアップ］画面が表示されます。
2. **［追加］**アイコンをクリックして、［出力先］画面を表示します。
3. **［FTP］**を選択してください。
4. **［次へ］**をクリックします。



5. *［説明］、［サーバ名とディレクトリパスを入力］、［ユーザ名］、［パスワード］*の各フィールドに値を入力します。*［サーバ名とディレクトリパスを入力］*フィールドには、スキャンイメージを保存するFTP サイトのパスをフルパスで設定します。たとえば、ftp*://ftp.acme.com/documents* は FTP サイト *ftp.acme.com* に接続され、フォルダ *［documents］* にスキャンされた文書を配置します。
6. 目的とする**［プロトコルオプション］を選択します。FTP、FTPS、SFTP。**
   - **［FTP］**を選択した場合、次のオプションが使用できます。
     - ポート 21 以外のポートで FTP サイトに接続する場合は、上下の矢印を使用して値を変更します。
     - FTP サーバで必要な場合は、**［パッシブ］**を選択します。**パッシブ**は、ファイアウォールの外側に FTP サイトがある場合に、一般的に使用されています。

     ［プロキシ］の下矢印をクリックして、プロキシ設定を行います。
     - *［プロキシの種類］*に、**［ユーザログイン後］**を選択します。
     - **［プロキシアドレス］**を完全修飾ドメイン名の形式（FTP.acme.com など）または IP アドレスとして入力します。
     - プロキシサーバへのアクセスに必要な**［ユーザ名］**と**［パスワード］**を入力します。
     - ポート 21 以外のポートでプロキシサーバに接続するように設定されている場合は、上下の矢印を使用して値を変更しま

す。

- **［FTPS］**を選択した場合、次のオプションを使用できます。
  - **［暗号化］**オプションを選択します。**［暗示］**または**［明示］**。

    ［明示］に設定すると、Scan Station とサーバはデータを暗号化するかどうか、また使用する暗号形式をネゴシエーションします。明示 FTPS はポート 21 にあります。サーバが暗号データを受け取ることができる場合は、Scan Station はこの選択に対応します。

    ［暗示］に設定されると、Scan Station 常に暗号データの送信が行われます。デフォルトのポートは 990 です。

    適切な暗号化オプションについてはFTPサーバ管理者の指示に従ってください。
  - パッシブネゴシエーションを有効にしたい場合は、**［パッシブ］**をチェックします。
  - ネットワーク環境のセキュリティー意識が高く、証明書が最新で証明機関による承認が必要な場合は、**［検証可能な SSL サーバ証明書を要求］**をチェックしてください。

  ［プロキシ］の下矢印をクリックして、プロキシ設定を行います。
  - *［プロキシの種類］*として **SOCKS** を選択します。
  - **［プロキシアドレス］**を完全修飾ドメイン名の形式（FTP.acme.com など）または IP アドレスとして入力します。
  - プロキシサーバへのアクセスに必要な**［ユーザ名］**と**［パスワード］**を入力します。
  - ポート 1080 以外のポートでプロキシサーバに接続するように設定されている場合は、上下の矢印で値を変更します。
  - プロキシサーバの適切な**バージョン**を選択します。**［SOCKS4］**または**［SOCKS5］**のいずれを使用するか分からない場合は、管理者の指示に従ってください。

- **［SFTP］**を選択した場合、次のオプションが使用できます。
  - ポート 22 以外のポートで SFTP サイトに接続する場合は、上下の矢印で値を変更します。**［SFTP］**を選択すると、ポート値はデフォルト値のポート 22 に自動的に変更されます。
  - プライベートキーファイルは SFTP サーバにアクセスするために使用する暗号化されたキーです。プライベートキーファイルには複数の種類があります。お使いの PC またはネットワークに保管されているプライベートキーファイルを選択する場合**［参照］**ボタンを使用します。適切なプライベートキーファイルについては SFTP サーバ管理者の指示に従ってください。

注：DSA 2048、4096 bits および Putty SSH1 RSA で暗号化されたプライベートキーファイルはサポートされていません。

- プライベート キー ファイルを *[プライベート キー]* フィールドに入力し、ファイルをパスワード保護する場合、パスワードを入力する必要があります。パスワードはプライベート キー ファイルの解読に使用します。

[プロキシ] の下矢印をクリックして、プロキシ設定を行います。SFTP は次の 2 つのプロキシタイプをサポートします。**[HTTP]** と **[SOCKS]**。

HTTP

- プロキシの種類として **HTTP** を選択した場合、**[プロキシアドレス]** にフルドメイン名（FTP.acme.com など）または IP アドレスを入力します。
- プロキシサーバへのアクセスに必要な［**ユーザ名**］と［**パスワード**］を入力します。
- ポート 81 以外のポートでプロキシサーバに接続するように設定されている場合は、上下の矢印で値を変更します。
- プロキシサーバに対して適切な **[認証タイプ]** を選択します。**[LOGIN]** または［**NTLM**］のいずれを使用するか分からない場合は、管理者の指示に従ってください。

SOCKS

- プロキシの種類として **SOCKS** を選択した場合、**[プロキシアドレス]** にフルドメイン名（FTP.acme.com など）または IP アドレスを入力します。
- プロキシサーバへのアクセスに必要な［**ユーザ名**］と［**パスワード**］を入力します。
- ポート 1080 以外のポートでプロキシサーバに接続するように設定されている場合は、上下の矢印で値を変更します。
- プロキシサーバの適切な **バージョン** を選択します。**[SOCKS4]** または **[SOCKS5]** のいずれを使用するか分からない場合は、管理者の指示に従ってください。

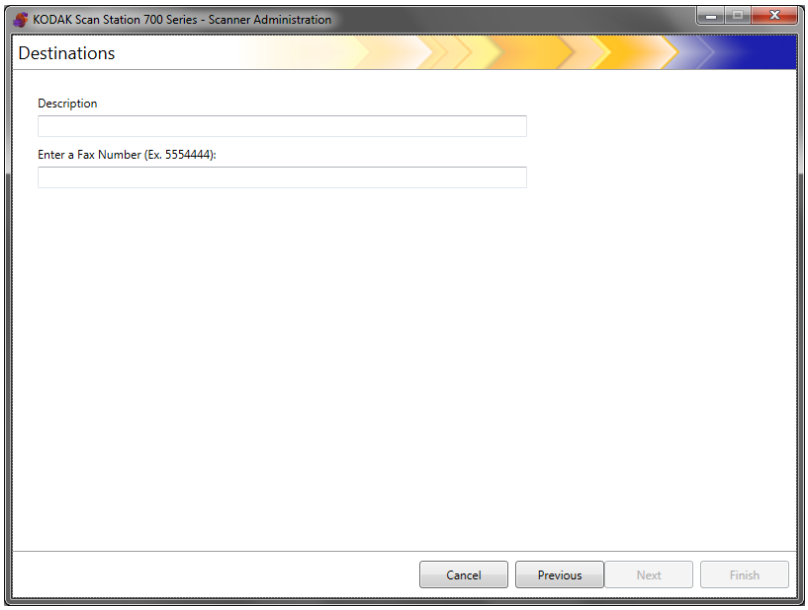
7. **[完了]** をクリックします。
8. 同じ FTP 出力先グループ内でさらに FTP 出力先を追加したい場合、**［追加］** アイコンを選択して手順 5 ～ 8 を繰り返します。
9. 他の FTP 出力先グループを追加するには、FTP 出力先の種類を選択して、**［追加］** アイコンをクリックするか、**［終了］をクリックします。**

Fax 送信先に Fax または E メールをセットアップ

FAX 機器またはメール /FAX の出力先をセットアップできます。いずれの出力先でも手順は同じです。

注：特定の設定に対しては、ファックス送信先または E メールからファックスへの送信先 （両方は不可）のみ設定できます。

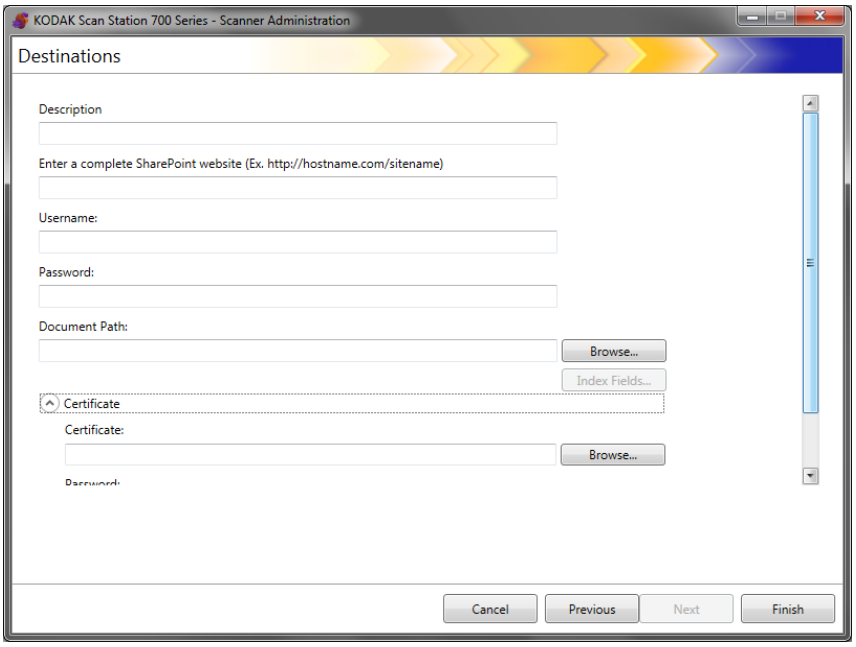
1. **［編集］> ［出力先］を選択します**。［出力先のセットアップ］画面が表示されます。
2. **［追加］**アイコンをクリックして、［出力先］画面を表示します。
3. **［Fax］**または **［E メールから Fax］**を選択します。
4. **［次へ］**をクリックします。



5. *［説明］*フィールドに名前、および *［Fax 番号を入力（E メールから Fax 番号）］*フィールドに FAX 番号（または E メールから Fax 番号）を入力し、**［終了］**をクリックします。
6. 同じ fax 出力先グループ内でさらに fax 出力先を追加したい場合、**［追加］**アイコンを選択して手順 5 ～ 8 を繰り返します。
7. 他の fax 送信先グループを追加するには、fax 送信先の種類を選択して、**［追加］**アイコンをクリックするか、**［終了］をクリックします。**

SHAREPOINT グループの追加

1. **[編集] > [出力先] を選択します。**[出力先のセットアップ] 画面が表示されます。
2. **[追加]** アイコンをクリックして、[出力先] 画面を表示します。
3. **SharePoint** を選択してください。
4. **[次へ]** をクリックします。



5. 詳細を示す *[説明]* フィールドに入力します。
6. SHAREPOINT サーバのアドレスを *[完全な SHAREPOINT Web サイトを入力]* フィールドに入力します。このフィールドには、SHAREPOINT サイトのフルパスを入力する必要があります。
7. *[ユーザ名]* と *[パスワード]* フィールドに入力します。
8. *[ドキュメントパス]* フィールドに、スキャンイメージを保存するフォルダへのパスを入力します。必要に応じて、**[参照]** ボタンを使用してフォルダを指定します。
9. 選択したライブラリに必要なインデックスフィールドがある場合は、**[インデックスフィールド]** ボタンを選択します。選択すると、[インデックスフィールド] ダイアログボックスが開き、選択したライブラリに関連する必須 / オプションのインデックスフィールドが表示されます。

   注：

   - *[インデックスノート]* フィールドには最大 5000 文字を指定可能です。5000 文字を超えて入力すると、入力フィールドの他のエリアをクリックするまでは、警告メッセージは表示されません。この時点で、メッセージの **OK** をクリックすると、*[インデックスノート]* フィールドに入力したすべてのデータは削除されます。

- パスの前部はライブラリで、以後はサブディレクトリです。ライブラリにはインデックスフィールドが含まれます。
- インデックスフィールドを入力する前に、証明書が必要です（ステップ 10 を参照）。
- インデックスフィールドでインデックス値の右側に下矢印がある場合は、クリックすると選択可能な値を表示します。

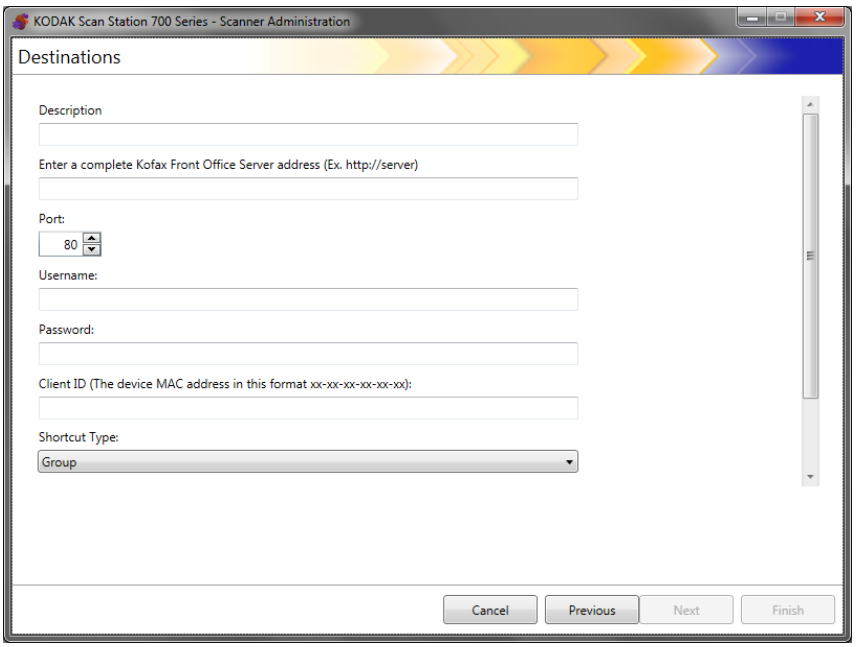
サポートされているインデックスフィールドのタイプは以下のとおりです。

1 行のテキスト	複数行のテキスト
選択	数
通貨	日時
検索	はい / いいえ
個人またはグループ	ハイパーリンクまたは画像

10. ユーザがアクセスする SHAREPOINT サイトがセキュアの場合は、**[証明書]** 矢印をクリックして証明書ファイルを入力する必要があります。SHAREPOINT 証明書のオプションが表示されます。
    - *[証明書]* フィールドに証明書ファイル名を入力します。次のファイル拡張子が使用できます。.cer、.crt、.der、.pfx、.p12、.p76、.p7c。
    - 証明書ファイルを開いて復号化するには証明書パスワードを入力します。
11. SHAREPOINT サイトに接続する前にプロキシサーバを使用する場合は、**[プロキシ]** 矢印をクリックして、使用するプロキシ設定を定義してください。
12. **[プロキシアドレス]** に、フルドメイン名（proxy.mycompany.com など）または IP アドレスを入力します。
13. プロキシサーバへのアクセスに必要な **[ユーザ名]** と **[パスワード]** を入力します。
14. ポート 80 以外のポートでプロキシサーバに接続するように設定されている場合は、上下の矢印かキーボードを使用して値を変更するか、値を入力します。
15. 同じ SharePoint 出力先グループ内でさらに SharePoint 出力先を追加したい場合、**[追加]** アイコンを選択して手順 5 ～ 14 を繰り返します。
16. 他の SharePoint 出力先グループを追加するには、SharePoint 出力先の種類を選択して、**[追加]** アイコンをクリックするか、または **[終了]** をクリックします。

Kofax Front Office Server グループの追加

1. **[編集] > [出力先] を選択します。**[出力先のセットアップ] 画面が表示されます。
2. **[追加]** アイコンをクリックして、[出力先] 画面を表示します。
3. **Kofax Front Office Server** を選択します。
4. **[次へ]** をクリックします。



5. 詳細を示す *[説明]* フィールドに入力します。
6. *[Kofax Front Office Server の完全なアドレスを入力]* フィールドにサーバアドレスを入力します。
7. ポート 80 以外のポートでプロキシサーバに接続するように設定されている場合は、適切な値を選択します。
8. Kofax Front Office Server へのアクセスに必要な **[ユーザ名]** と **[パスワード]** を入力します。
9. *[クライアント ID]* フィールドに、Scan Station の MAC アドレス（アドレス形式：xx-xx-xx-xx-xx-xx）を入力します。この情報は、Scan Station の［バージョン情報］画面にあります。
10. **[ショートカットの種類]** リストから **[グループ]** または *[個人]* を選択します。
11. ショートカット名を検索する場合は **[参照]** をクリックします。［ショートカットの選択］ダイアログボックスが表示されます。目的のショートカットを選択して、**[OK]** をクリックします。

12. **[インデックスフィールド]** をクリックします。[インデックスフィールド] ダイアログボックスが表示されます。導入環境での Kofax Front Office Server の内容によってインデックスフィールドは異なります。
13. Kofax Front Office Server でセキュリティが確保されている場合、*[証明書]* フィールドで証明書ファイル名を入力（または、参照）します。次のファイル拡張子が使用できます。.cer、.crt、.der、.pfx、.p12、.p76、.p7c。
14. 証明書ファイルを開き復号化するには証明書パスワードを入力します。
15. 同じ Kofax Front Office Server の出力先グループ内にさらに Kofax Front Office Server 出力先を追加する場合は、**[追加]** アイコンをクリックし、手順 5 ～ 14 を繰り返します。
16. 他の Kofax Front Office Server 出力先グループを追加する場合は、Kofax Front Office Server の出力先の種類を選択し、**[追加]** アイコンをクリックし、追加しない場合は **[完了]** をクリックします。

8 グループの追加と管理

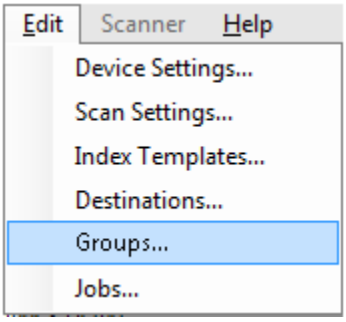
目次

グループの割り当て 8-1
Active Directory グループの追加 8-3
個々のユーザの追加 8-4
グループ設定の終了 8-5

この章では、グループの追加と管理の手順について説明します。

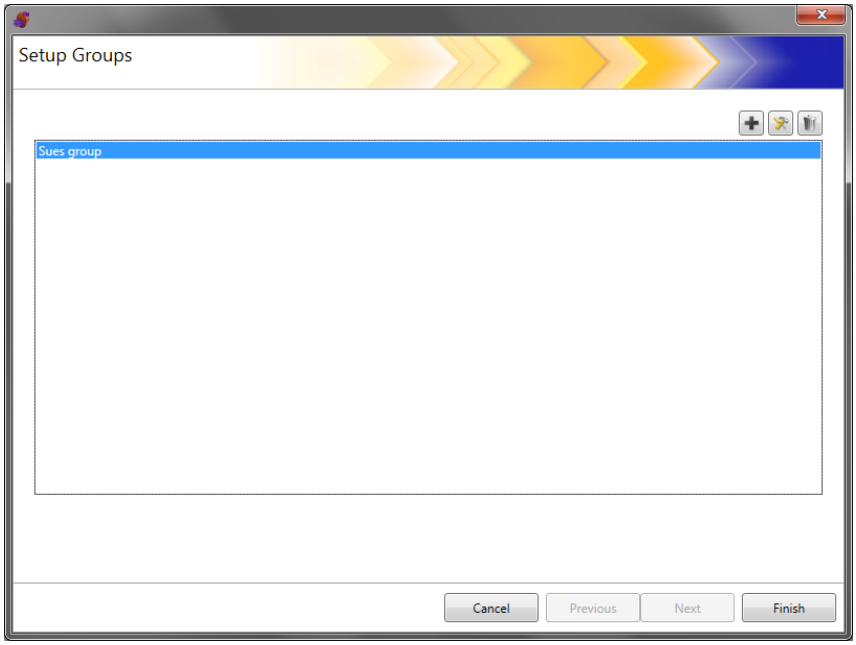
グループは、ネットワークユーザの集合です。ネットワークユーザ名は Active Directory Server から抽出できます。既存の Active Directory Server グループのコンテンツからグループを作成したり、Active Directory Server グループにまだ存在していない個々のユーザを追加できます。詳細については、第 4 章の「Active Directory Server の設定」を参照してください。

グループの割り当て

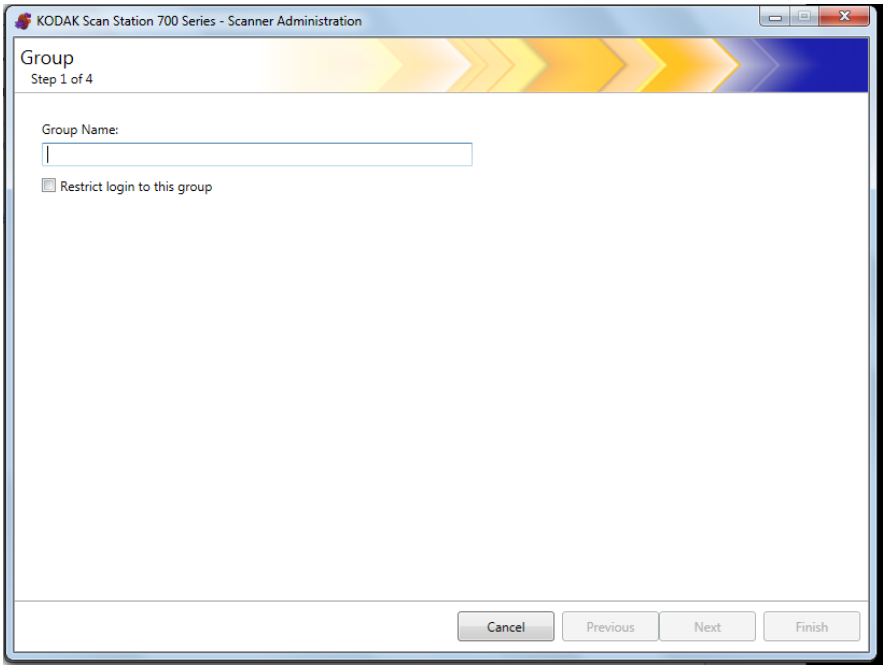


グループをセットアップすると、特定のジョブに対してユーザグループのアクセスの制限が簡単になります。

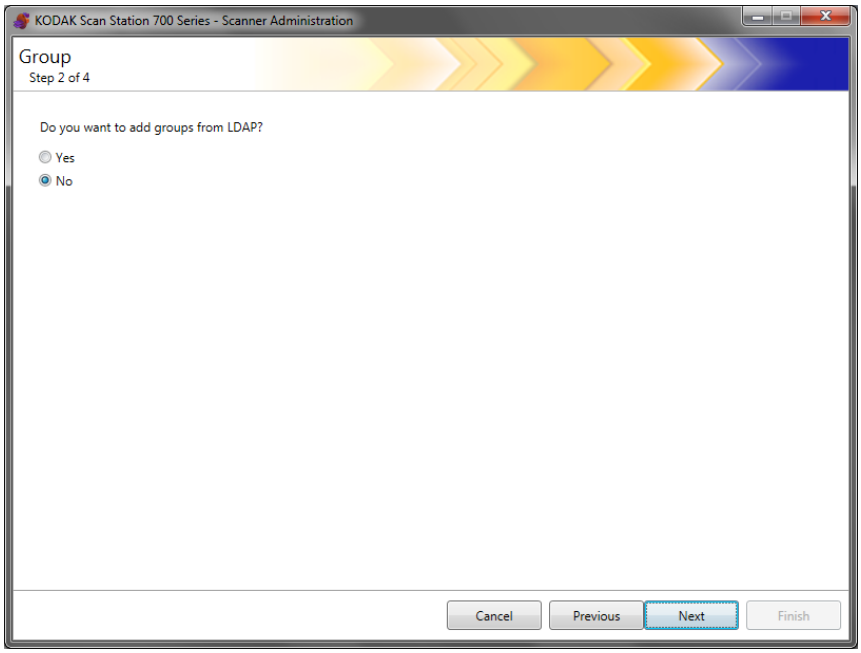
1. **［編集］> ［グループ］を選択します。**［セットアップグループ］画面が表示されます。



2. **［追加］**アイコンをクリックして、［グループ］画面を表示します。

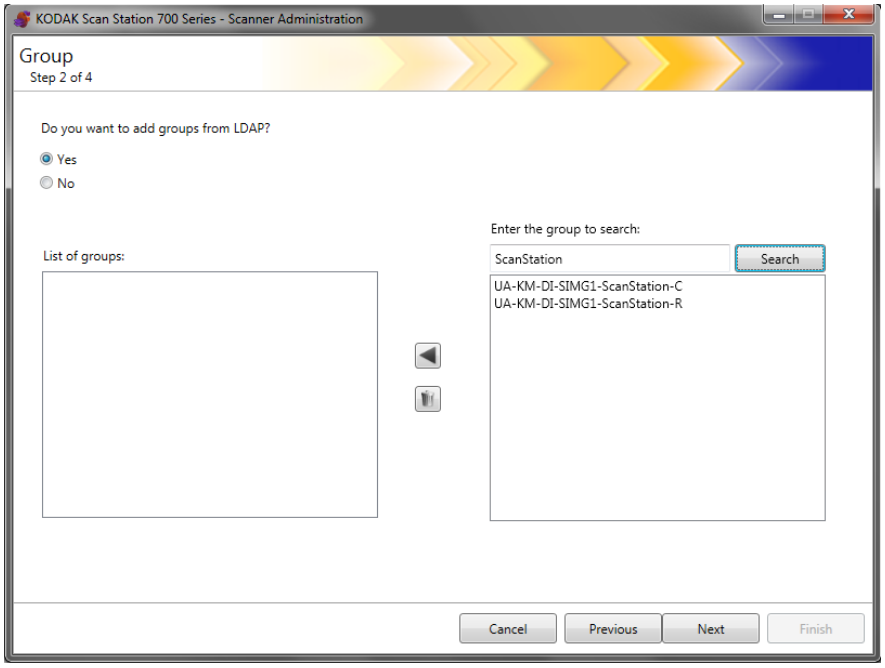


3. グループ名を入力します。
4. Scan Station の使用をグループで定義されたユーザのみに限定する場合、**[ログインをこのグループに制限]** チェックボックスにチェックします。
5. **［次へ］**をクリックします。グループ名は、ユーザのグループを定義する分かりやすいものにします。



Active Directory グループの追加

- Active Directory Server からグループを追加しない場合は、**[いいえ]**、**[次へ]** の順にクリックし、「個々のユーザの追加」へ進みます。
- **[はい]** を選択すると、Active Directory Server (LDAP) からグループ名を検索するための検索フィールドが表示されます。以下の手順へ進みます。



1. *[検索するグループを入力]* フィールドに追加するグループの名前を入力し、**[検索]** をクリックします。

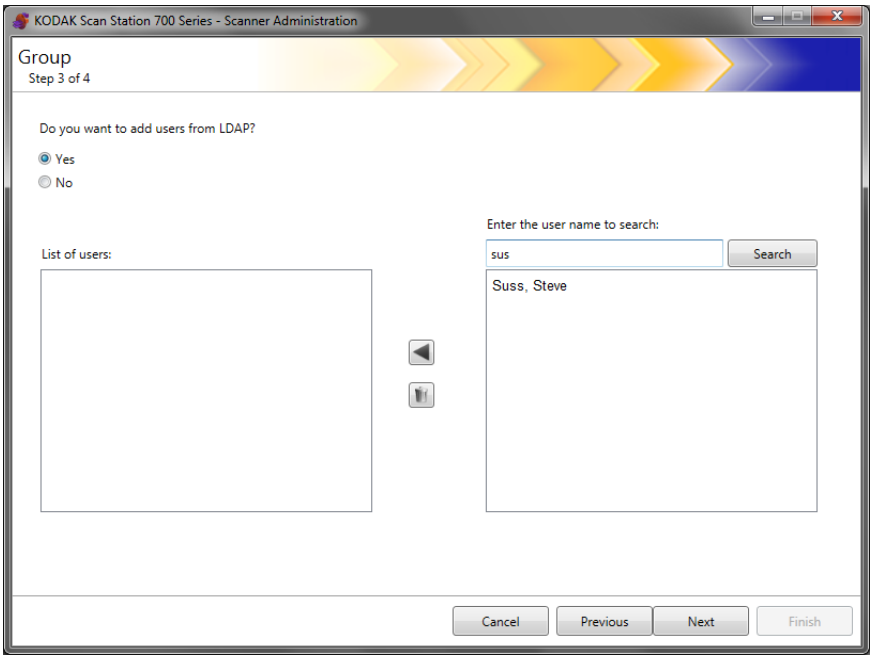
   注：

   - 検索基準に一致するアドレスが大量に検出された場合は、名前などの追加条件を指定することにより、検索結果を絞り込むことができます（例：「smith」ではなく「smith joe」と指定する）。
   - ワイルドカードは検索条件の前後に追加できます。

2. 右側のリストから追加するグループを選択し、左矢印をクリックします。グループが *[グループのリスト]* ボックスに追加されます。
3. 他のグループをリストに追加する場合は手順1と2を繰り返します。

   注：*グループのリスト*からグループを削除する場合は、削除するグループを選択し、**[削除]** アイコンをクリックします。

4. 終了したら、[**次へ**] をクリックします。



個々のユーザの追加

- Active Directory Server からユーザを追加しない場合は、[**いいえ**]、[**次へ**] の順にクリックし、「グループ設定の終了」へ進みます。
- [**はい**] を選択すると、Active Directory Server(LDAP) からユーザ名を検索するための検索フィールドが表示されます。以下の手順へ進みます。

1. グループに追加するユーザの名前を入力し、[**検索**] をクリックします。

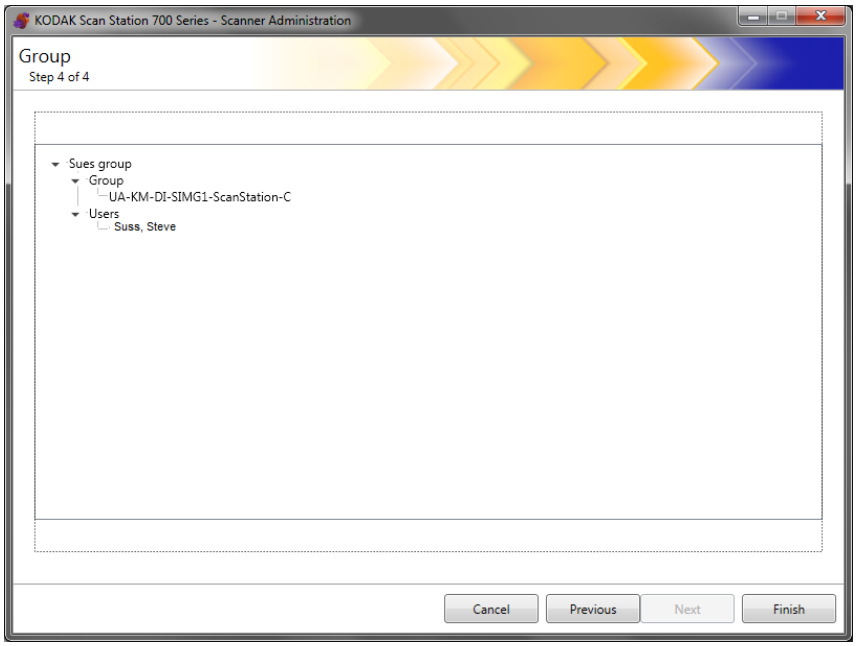
   注：

   - 検索基準に一致するアドレスが大量に検出された場合は、名前などの追加条件を指定することにより、検索結果を絞り込むことができます（例：「smith」ではなく「smith joe」と指定する）。
   - ワイルドカードは検索条件の前後に追加できます。

2. 表示されたリストからグループに追加するユーザを選択し、左矢印をクリックします。
3. グループへのユーザの追加が完了したら、[**次へ**] をクリックします。

グループ設定の終了

グループとユーザのリストが表示されます。

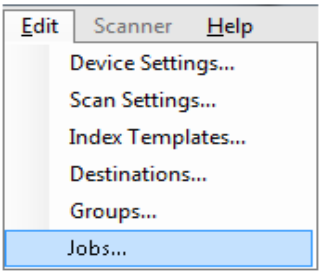


- **［終了］**をクリックします。

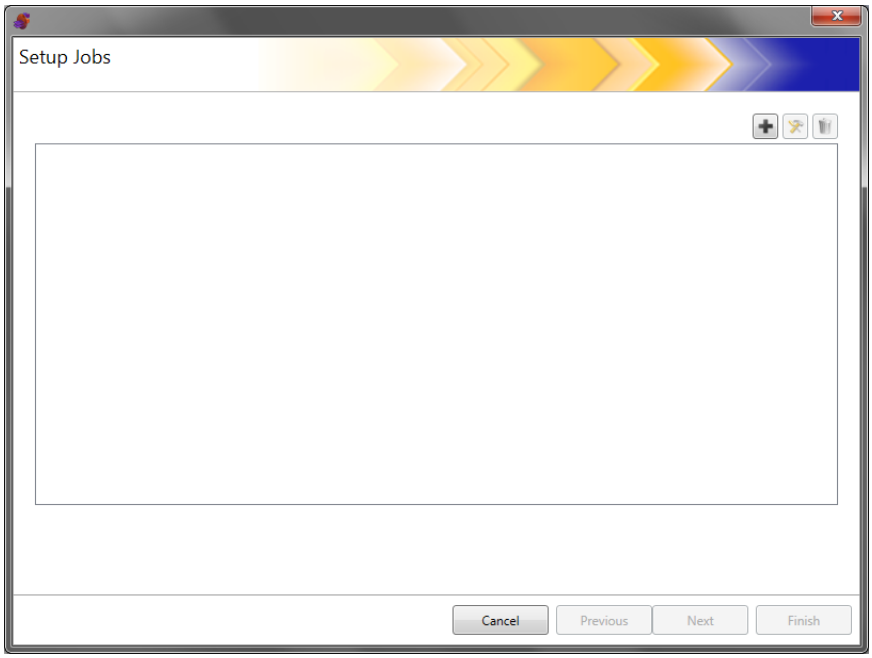
9 ジョブの作成

ジョブはスキャン設定、インデックステンプレート、出力先、ユーザグループの集合なので、これらすべてを設定後にジョブの作成を推奨します。

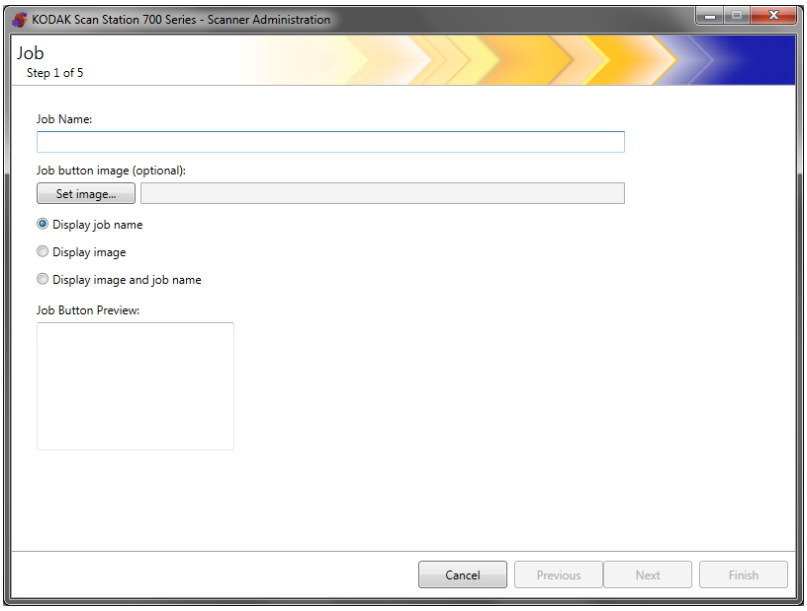
1. **［編集］>［ジョブ］**を選択します。



［ジョブのセットアップ］画面が表示されます。



2. **[追加]** アイコンをクリックします。[ジョブ] 画面が表示されます。

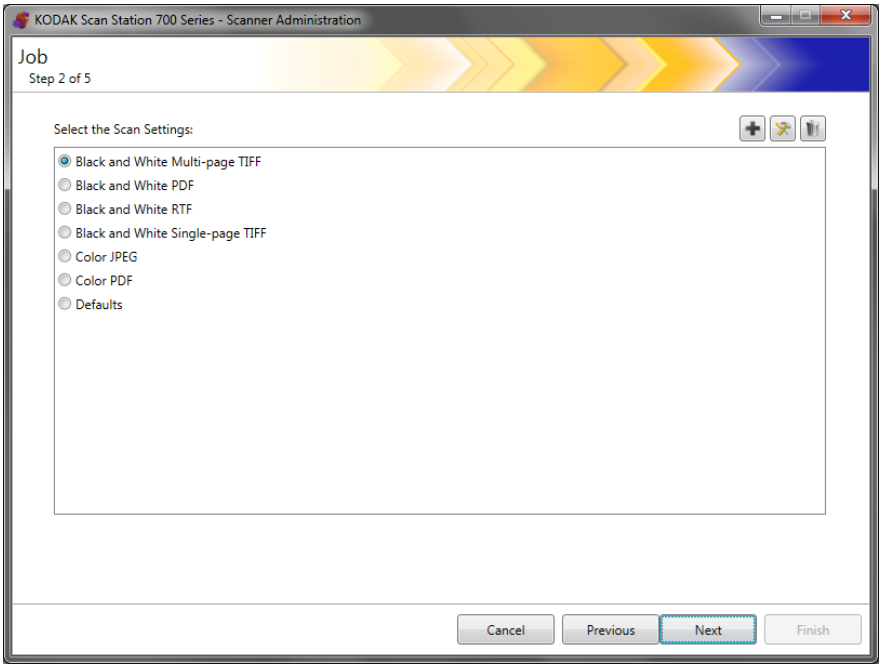


3. ジョブ名を入力します。ジョブ名を入力すると、入力内容が *[ジョブボタンプレビュー]* ボックスに表示されます。この名称が Scan Station のタッチスクリーンに表示されます。
4. 必要に応じて、ジョブ名の背景に使用するイメージファイルを選択できます。イメージファイルを指定する場合は、**[イメージの設定]** をクリックします。

   注：

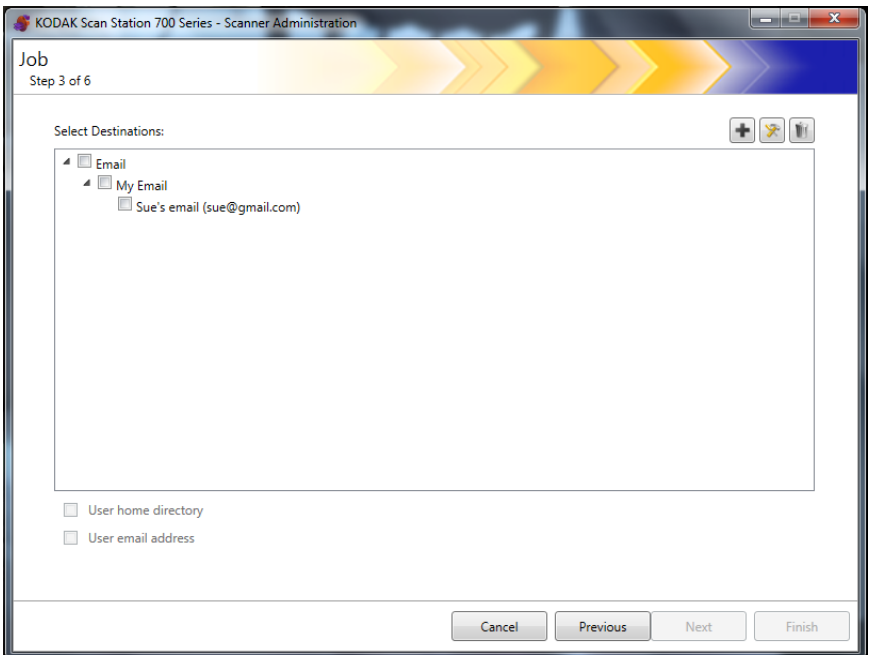
   - イメージの最大の幅は 200 ピクセルで、最大の高さは 130 ピクセルです。イメージは自動的に拡大縮小されます。
   - イメージファイルを選択すると、**[イメージと名前を表示]** オプションが自動的に選択されます。
   - 選択したイメージが設定ファイルにコピーされます。
5. 以下のオプションからいずれかを選択します。
   - **[ジョブ名の表示]** — [ジョブ] ボタンにはジョブ名のみが表示されます。
   - **[イメージの表示]** — [ジョブ] ボタンにはイメージのみが表示されます。
   - **[イメージの表示とジョブ名]** — [ジョブ] ボタンにジョブ名とイメージの両方が表示されます。

6. **[次へ]** をクリックします。以下の画面が表示されます。



7. このジョブに使用したいスキャン設定を選択して、**[次へ]** をクリックします。以下の画面が表示されます。

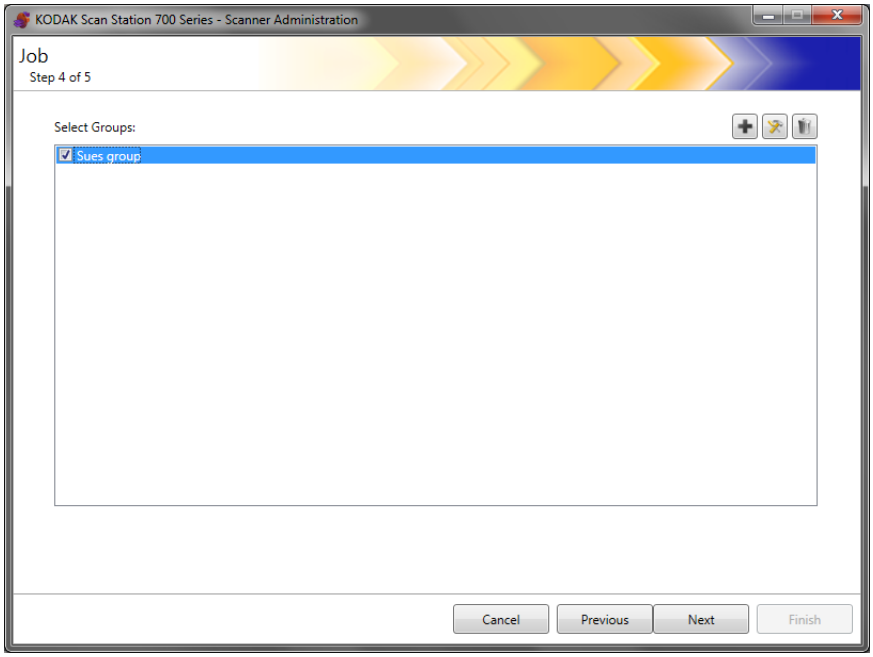
   注：**[追加]** アイコンをクリックして、新規スキャン設定の作成もできます。



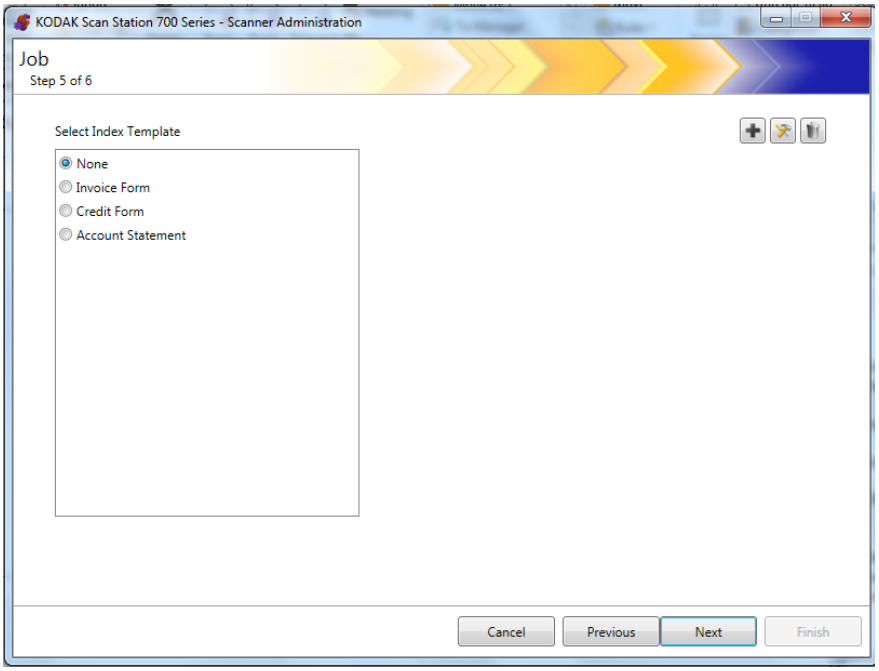
8. このジョブを送信する出力先を選択します。
   - グループの最上位レベルのチェックボックスをクリックすると、グループ全体の出力先を選択できます。
   - グループ名の下に表示される出力先をクリックすると、個別の出力先を選択できます。

- その時点で別の出力先を作成する場合は、**[追加]** アイコンをクリックします。[出力先] 画面が表示され、そこで別の出力先を追加できます。出力先を追加する手順については、第 7 章*「出力先の作成」*を参照してください。

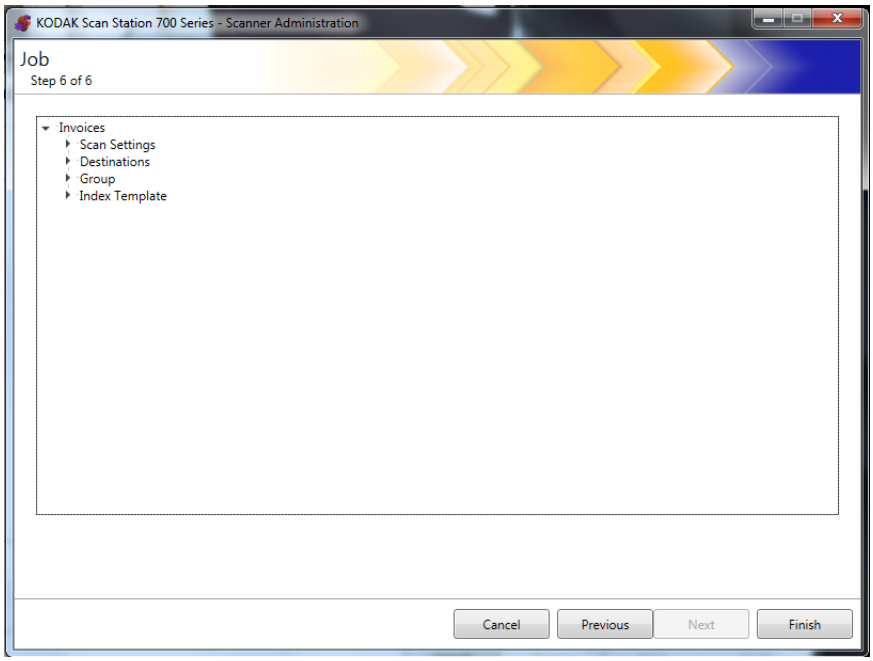
9. Scan Station へのログイン時に、ログインしたユーザのホームディレクトリ（[Active Directory Server 設定] 画面で定義）への出力先を自動的に作成する場合、**[ユーザホームディレクトリ]** をチェックしてください。
10. Scan Station へのログイン時に、ログインしたユーザの E メールアドレス（[Active Directory Server 設定] 画面で定義）への E メール送信先を自動的に作成する場合、**[E メールアドレスを使用]** をチェックしてください。
11. **[次へ]** をクリックします。



12. このジョブと関連付けるグループを選択し、**[次へ]** をクリックすると、［インデックステンプレート］画面が表示されます。

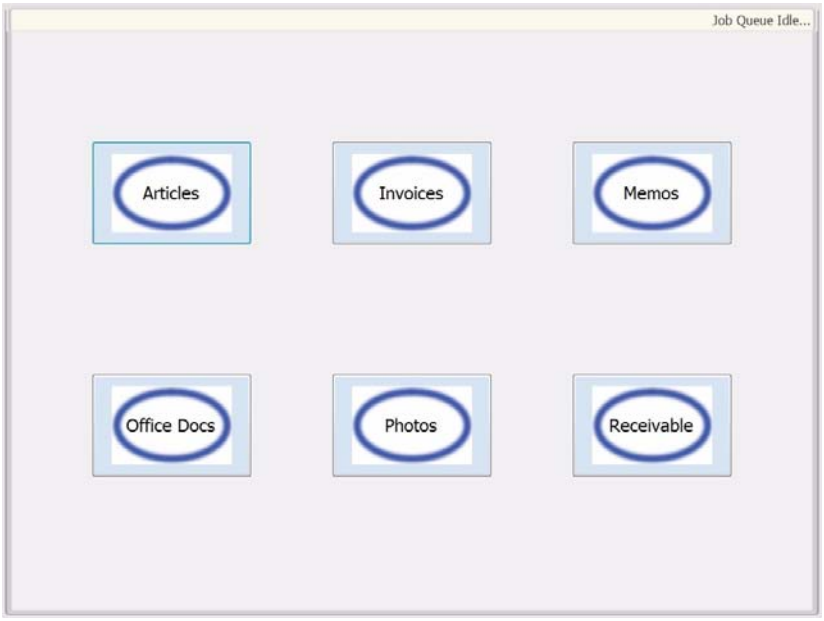


13. ジョブと関連付けるインデックステンプレートを選択します。
14. 終了したら、**[次へ]** をクリックします。ジョブ設定の概要が表示されます。



15. **[完了]** をクリックして前の画面へ戻ります。そして **[完了]** を再度クリックして、*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理メイン画面へ戻ります。

ジョブが定義され設定が Scan Station にアップロードされると、ジョブのみの画面が通常のユーザインターフェースの代わりに Scan Station のタッチスクリーンに表示されます。



10 Scan Station の監視と管理

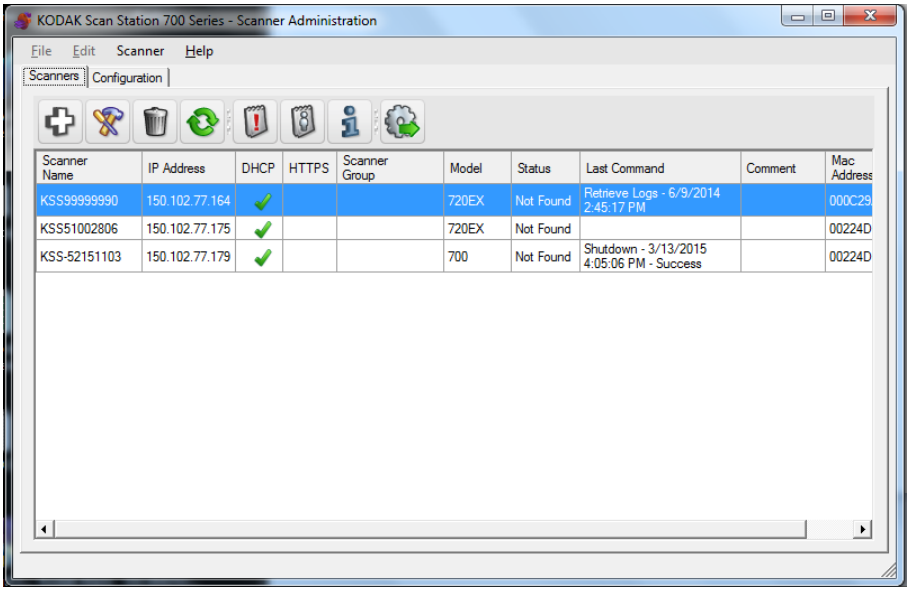
目次

[スキャナー] タブ 10-2
ツールバー 10-2
グリッド表示 10-4
ネットワーク設定オプション 10-5
Scan Station の追加 10-5
機器の検出 10-7
Scan Station の変更 10-8
Scan Station の削除 10-9
パスワードの変更 10-9
設定 / 設定ファイル 10-10
Scan Station の更新 10-10
方法 1 10-11
方法 2 10-13
方法 3 10-15
方法 4 10-16
方法 5 10-17
Scan Station のセキュリティ 10-18
Scan Station のパスワード保護 10-19
ファイルの取得と消去 10-20
Scan Station のログファイルの取得 10-20
ログファイルの消去 10-22
Scan Station のトランザクションログファイルの取得 10-23
トランザクションログファイルの消去 10-24
すべてのログファイルの保存 10-24
Scan Station の詳細 10-25
リモートでの日時の更新 10-25
Scan Station の電源オフ 10-26
Scan Station の再起動 10-26
Scan Station の移動 10-27

この章では、ネットワーク上にある構成済みの Scan Station の監視について説明します。

［スキャナー］タブ

［スキャナー］タブにはネットワーク上の Scan Station の接続用詳細情報が含まれます。



［スキャナー］タブがアクティブの場合、［スキャナー］メニューにアクセスできます。［スキャナー］および［ヘルプ］メニューのオプションは第 3 章の「メニューオプション」で説明しています。

ツールバー

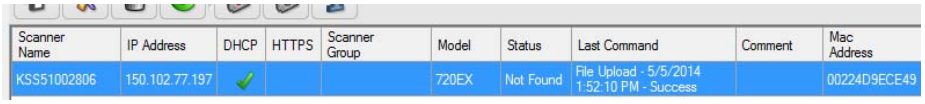
使用頻度の高い機能をすぐに使用できる様にツールバーを設定できます。ツールバーは常時表示されています。ツールバーボタンは追加、削除、移動できません。

アイコン	説明
	［スキャナーの追加］ダイアログボックスが表示され、Scan Station を設定してリモートで管理できます。
	選択した Scan Station の名前を変更したり、ネットワーク設定を設定できます。
	管理下にある Scan Station のリストから選択した Scan Station を削除できます。

	グリッドを更新して Scan Station の現在の状態を表示します。 • 低電力 • スキャン中 • 画像処理中 • E メールを送信中 • 保存中 • 印刷中 • スキャン完了 • エラー • キャンセル • プレビュー • FAX 送信中 • FAX 受信中 • 電源の停止中 • 再起動中 • 更新中 • 使用中 • 見つかりません 詳細については、第 3 章の「メニューオプション」を参照してください。
	選択した Scan Station のログファイルを検索、表示、保存ができます。
	選択した Scan Station にトランザクションログファイルの表示や保存ができます。
	選択した Scan Station の詳細情報が表示されます（ソフトウェアのバージョン、IP アドレスなど）。
	選択した設定を Scan Station にアップロードします。

グリッド表示

以下はグリッド表示の説明です。



Scanner Name	IP Address	DHCP	HTTPS	Scanner Group	Model	Status	Last Command	Comment	Mac Address
KSS51002806	150.102.77.197	✓			720EX	Not Found	File Upload - 5/5/2014 1:52:10 PM - Success		00224D9ECE49

[スキャナー名] — Scan Station の名称を表示します。

IP アドレス — Scan Station に設定された IP アドレスを表示します。

[DHCP] — DHCP を使用して IP アドレスを取得する場合は選択します。固定の IP アドレスを使用して Scan Station を設定する場合は、このフィールドを空欄にします。

HTTPS — HTTPS を使用して接続するように Scan Station を設定する場合は、このフィールドを選択します。

スキャナグループ — Scan Station は、グループ名と関連付けることができます。この列には、Scan Station が属しているグループを表示します。これは Scan Station の追加時に設定されます。

注：これは設定の作成時および修正時に定義されるユーザのグループと同じものではありません。

[モデル] — Scan Station のモデル番号を表示します（730EX、710、5XX など）。

ステータス — Scan Station の現在の状態を表示します（待機中、スキャン中、更新中、再起動中など）。

注：F5 を押すと、検出された Scan Station のステータスが直ちに更新されます。

[最後のコマンド] — 管理者が最後に発行したコマンドを表示します。実行したアクションの日付、時刻、および成否も含まれます。

[コメント] — Scan Station の追加時に管理者が追加したコメントがあれば表示されます。

[Mac アドレス] — ネットワークアダプタのユニークな識別子を表示します。

ネットワーク設定オプション

Scan Station を追加または検索する前に、IP アドレスまたはデバイス名（両方が望ましい）を事前に確認する必要があります。

Scan Station の名前を確認する場合は

1. Scan Station がオンで起動中であることを確認します。

2. ［情報］アイコン をクリックすると、Scan Station の名前、Scan Station がネットワークに接続している場合は IP アドレスが表示されます。

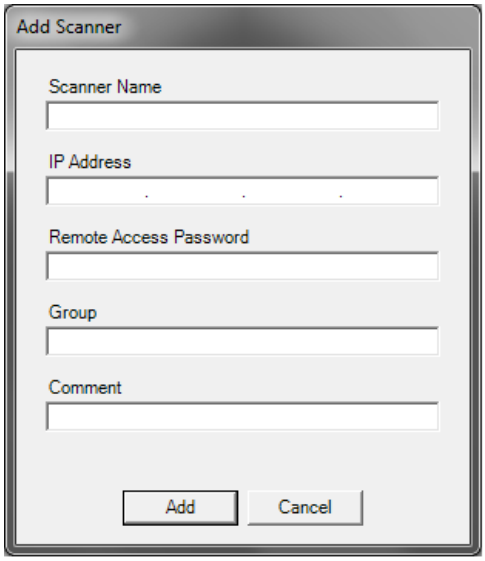
Scan Station の追加

Scan Stationをリモートで管理するように設定する前に、追加するScan Station の名前、IP アドレス、リモートアクセスパスワードを確認することをお勧めします。

注：Scan Stationが設定されたネットワークに接続している場合は、IP アドレスだけ必要です。

Scan Station を追加すると、メイン画面が更新されます。

1. **［スキャナー］>［スキャナー追加］**を選択します。［スキャナー追加］ダイアログボックスが表示されます。



2. Scan Station の名前を［*スキャナー名*］フィールドに入力します。

   注：このフィールドに入力できる値は、英数字とダッシュです。スペースやその他の記号は入力できません。

3. IP アドレスを入力します。IP アドレスは IPv4 形式（xxx.xxx.xxx.xxx）にする必要があります。

4. Scan Station にリモートアクセスパスワードを入力します。詳細については、第 4 章の「デバイスオプションの設定」を参照してください。

   注：このフィールドは空欄にしてもかまいません。スキャンテーションにリモートアクセスパスワードが設定されていない場合、このフィールドは空欄にしてください。

5. 必要に応じて、グループ（または場所）の名前を入力します。この名前はグリッド表示に表示されます。たとえば、Scan Station を導入した本社の名前などを入力します。
6. 必要に応じて、その他の情報を *[コメント]* フィールドに入力します。たとえば、Scan Station を導入した部署名などを入力します。
7. **[追加]** をクリックします。その Scan Station の名前と情報が *Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理メイン画面に表示されます。

   注：

   - Scan Station が検出されない場合または Scan Station を後からネットワークにインストールした場合、***「デバイスとの通信中にエラーが発生しました。強制的に追加しますか？」*** というメッセージが表示されます。**[はい]** をクリックして、Scan Station を追加します。
   - 誤った IP アドレスを入力した場合、スキャナー管理メイン画面から Scan Station 情報を削除後、適切な情報を使用して再度追加します。

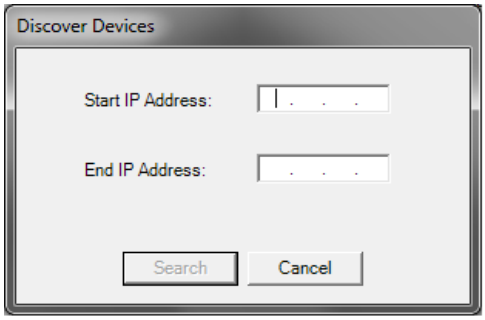
8. 1 から 7 の手順を繰り返します。

機器の検出

［機器の検出］オプションで IP アドレス範囲をスキャンし、定義済みのアドレス範囲内の IP アドレスを持つ特定の Scan Station を検出して、自動的に登録します。

注：［機器の検出］オプションは、リモートアクセスパスワードを設定していない Scan Station のみ機能します。これは、［スキャナ］タブまたは **［スキャナ］> ［リモートアクセスパスワード］**から［**スキャナ］> ［スキャナの追加］**メニューオプションを使って設定されたパスワードです。

1. **［スキャナー］> ［デバイスの検出］**を選択します。［デバイスの検出］ダイアログボックスが表示されます。



2. IP アドレス範囲内で検索を開始する IP アドレスを、*［開始 IP アドレス］*フィールドに入入力します。

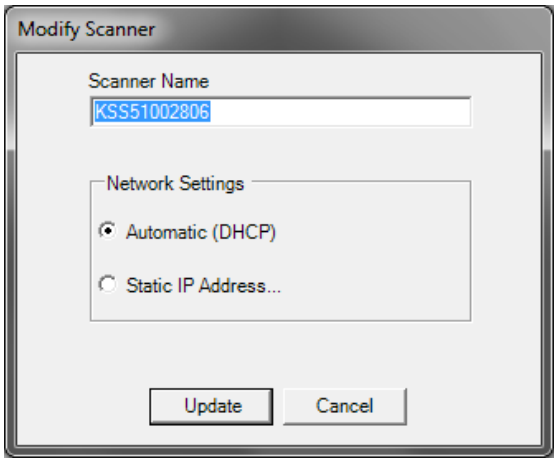
   注：*［終了 IP アドレス］*フィールドをクリックするとすぐに開始 IP アドレスから 10 だけ大きいアドレスが終了 IP アドレスへ自動的に入力されます（例：開始 = 192.168.1.1、終了 = 192.168.1.10）。

3. 検索対象の最後の IP アドレスを *［終了 IP アドレス］*フィールドに入力します。
4. **［検索］**をクリックします。検索が始まります。検索の範囲によっては、この処理は数分かかることがあります。IP アドレスが指定した範囲内にあれば、自動的に登録されます。

   注：IP アドレスの上位 2 つのアドレスセグメントにまたがるアドレスを選択した場合は、非常に時間がかかることがあります（例：192.168.1.1 - 192.169.1.1 または 192.168.1.1 - 193.168.1.1）。

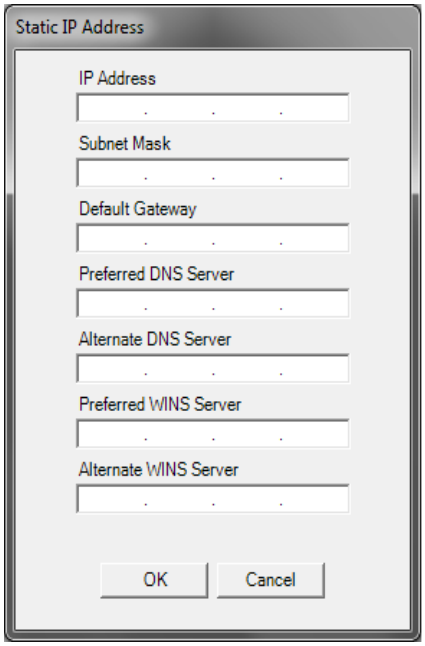
Scan Station の変更

1. **[スキャナー] > [スキャナーの変更]** を選択します。[スキャナーの変更] ダイアログボックスが表示されます。



2. 必要な変更を行います。

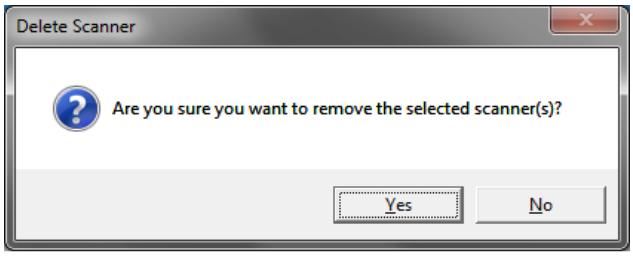
   注：**[固定 IP アドレス]** を選択すると、[固定 IP アドレス] ダイアログボックスが表示され、IP アドレスの設定を変更できます。



3. **[OK]** をクリックします。
4. **[更新]** をクリックします。

Scan Station の削除

1. **[スキャナー] > [スキャナーの削除]** を選択します。[スキャナーの削除] ダイアログボックスが表示されます。

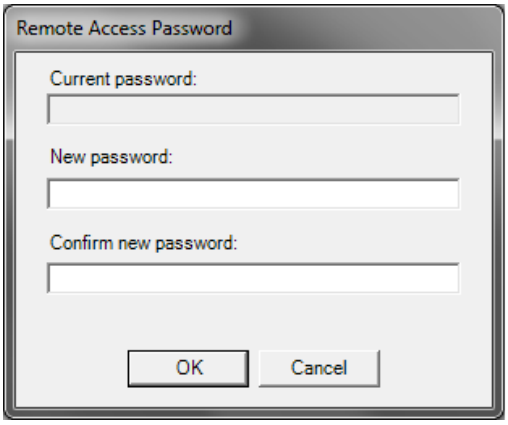


2. **[はい]** をクリックします。

リモートアクセスパスワードの変更

1. **[スキャナ] > [リモートアクセスパスワード]** を選択してください。このパスワードは、*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理と Scan Station との通信に使用します。

   [リモートアクセスパスワード] ダイアログボックスが表示されます。



2. *[現在のパスワード]* フィールドに Scan Station のリモートアクセスパスワードを入力します。

   注：リモートアクセスパスワードが設定されていない場合、このフィールドはグレーアウトします。

3. *[新しいパスワード]* フィールドに新しいリモートアクセスパスワードを入力します。
4. *[新しいパスワードの確認]* フィールドに新しいリモートアクセスパスワードを再度入力します。
5. **[OK]** をクリックします。

設定 / 設定ファイル

設定は、デバイス設定、スキャン設定、出力先、グループ、ジョブの集合です。設定はスキャナー管理アプリケーションを実行しているPC、設定ファイルをアップロードするスキャンステーションに保存されます。設定と設定ファイルの違いについては、第 13 章、*「用語集」*を参照ください。

Scan Station の更新

Scan Station の更新には、以下の 5 通りの方法があります。

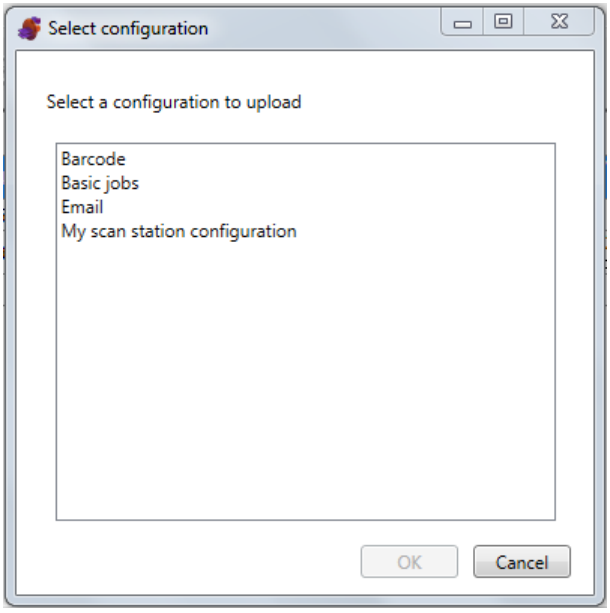
- **方法 1**。Scan Station 700 シリーズスキャナー管理アプリケーションを使用して、設定とファームウェアを更新します。Scan Station は、自動的に新しい設定や更新パッケージを認識して、自動的に更新します。詳細については、この章に後述の「方法 1」を参照してください。
- **方法 2**。設定ファイルとオプションのファームウェア更新パッケージをネットワークドライブに保存します。指定した更新の日時になると、Scan Station がこの共有フォルダをポーリングするように設定します。詳細については、この章に後述の「方法 2」を参照してください。
- **方法 3**。設定ファイルを USB メモリに保存した後、Scan Station に接続します。Scan Station の設定を更新するか確認を要求されます。**[はい]** を選択すると、項目毎に更新が選択できます。詳細については、この章に後述の「方法 3」を参照してください。
- **方法 4**。設定ファイルは Scan Station を手動で設定するために使用する USB メモリにエクスポートできます。USB メモリを使用して設定ファイルをインストールする際、設定ファイルのコンテンツが Scan Station に現在保存されている設定ファイルのコンテンツと一致しなかった場合、USB メモリ内の設定に基づいて Scan Station を更新するように警告されます。**[いいえ]** を選択すると、Scan Station はローカル管理者モードになります。この時点で Scan Station のほとんどの設定を変更できます。USB メモリを取り外すとすぐに更新されます。詳細については、この章に後述の「方法 4」を参照してください。
- **方法 5**。設定ファイルは更新パッケージとともに USB メモリに保存されています。ファームウェアはこの方法でのみ更新されます。詳細については、この章に後述の「方法 5」の項を参照してください。

方法 1

設定ファイルと更新パッケージ（オプション）は、*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションを使用してアップロードします。Scan Station は、自動的に新しい設定ファイルや更新パッケージを認識して、自動的に更新します。

設定ファイルのアップロード

1. ［スキャナー］タブのグリッド表示から設定を送信する Scan Station を選択します。
2. **［スキャナー］ > ［設定のアップロード］**を選択します。［設定の選択］画面が表示されます。



注：選択した設定が変わったら、アスタリスクが設定名の隣に表示されます。設定を Scan Station にアップロードする前に **［ファイル］ > ［保存］**を選択する必要があります。

3. アップロードする設定を選択して、**［OK］**をクリックします。

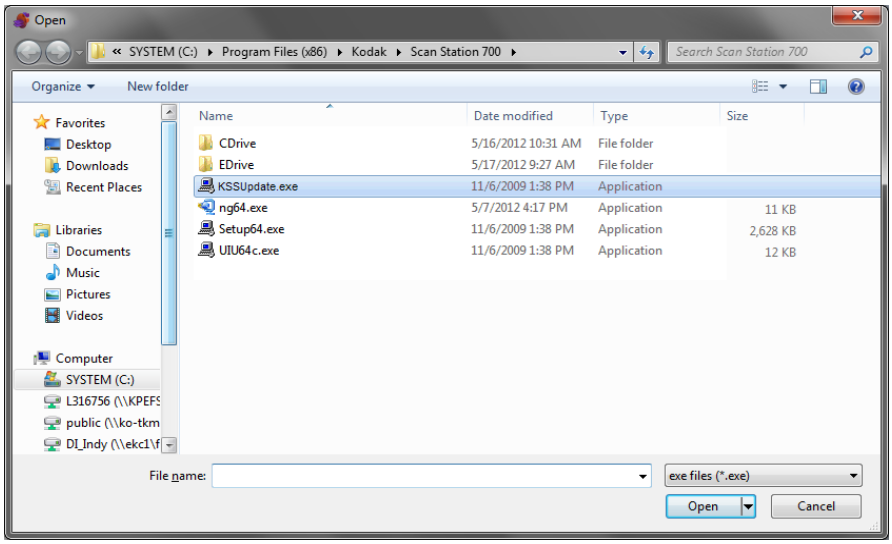
注：変更した設定項目に応じて、アップロード処理後に Scan Station が自動的に再起動する場合があります。

ファームウェアのアップロード

1. 新しいファームウェアを送信する Scan Station を選択します。

   注：複数の Scan Station を選択する場合、Ctrl キーまたはシフトキーを押しながら、マウスボタンをクリックします。選択した Scan Station が強調表示されます。

2. **[スキャナー] > [ファームウェアのアップロード]** を選択します。[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。



3. アップロードする設定ファイルを選択して、**[開く]** をクリックします。

   注：

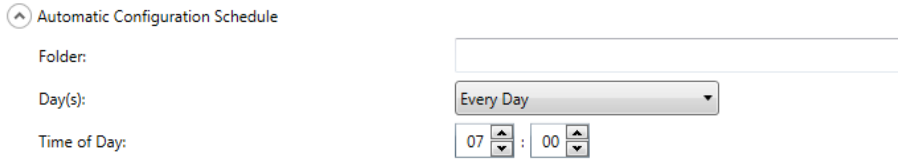
   - KKSSUpdate.exe ファイルが Scan Station に送信されます。
   - *「アップロード中。お待ちください」* というメッセージがファイルのアップロード中に表示されます。
   - Scan Station 本体のファームウェアと KSSUpdate ファームウェアが同じバージョンの場合は、何も起こりません。
   - Scan Station ファームウェアの旧バージョンに「戻し」たり、新バージョンに更新できます。KSSUpdate.exe ファイルの古いバージョンをアップロードする場合、Scan Station は古いバージョンのファームウェアに戻ります。新バージョンをアップロードすると、Scan Station のファームウェアが更新されます。
   - 更新パッケージは、Kodak のサービス担当者から入手できます。更新パッケージのファイル名は、常に KSSUpdate.exe です。

方法 2

設定とファームウェアの更新を保存したネットワークフォルダを監視するように、Scan Station を設定できます。

注：Scan Station 710 をお持ちの場合は、この方法を使用しないでください。それは低電力モードに移行するからです。

1. ［設定］タブを選択します。
2. 変更したい設定を選択します。
3. **［編集］>［デバイス設定］**を選択します。
4. **［デバイスオプション］**を選択し、**［次へ］**をクリックします。
5. **［自動設定スケジュール］**矢印をクリックし、以下の値を定義します。



- 更新ファイルのあるフォルダのパス。
- 曜日（毎日、毎週月曜日など）。
- 更新を確認する時刻（24 時間表示）

*たとえば、フォルダ \\myserver\updates\myscanstationID を毎週月曜日の午前 7 時*に確認するとします。

Scan Stationをリモートで設定して更新するには、2つの方法があります。

- **ファイルやフォルダを 1 つ更新** — すべての Scan Station が接続されたネットワーク上に、管理者がフォルダを 1 つ作成し、更新設定ファイルを監視させます。これにより、1 度でネットワーク上のすべての Scan Station に設定ファイルを送信できます。すべての Scan Station が同じ設定を共有している場合は、この方法をお勧めします。

  注：リモートで更新する場合、ネットワーク上に複数のデバイスが作成されないように、設定の一部（スキャナ名、IP アドレス、リモートアクセスパスワード）が無視されます。

- **［複数のファイルやフォルダを更新］** — Scan Station ごとに異なる設定が必要な場合は、ネットワーク上に共通のフォルダを作成し、直下にサブフォルダを作成して、ネットワーク上の Scan Station に個々の設定ファイルを保存することを推奨します。各 Scan Station は、更新時に適切なフォルダを監視するように設定する必要があります。

定義された曜日の時刻に、Scan Station がネットワーク上の指定のフォルダを確認します。そのフォルダが見つかったら、フォルダ内の KSS.xml ファイルとオプションで KSSUpdate.exe ファイルを探します。KSS.xml ファイル、または KSSUpdate.ex ファイルが見つかったら、その変更日時と Scan Station で実行した設定の最終時刻を比較します。KSS.xml ファイルまたは KSSUpdate.exe ファイルの方が最新の場合、設定ファイルやファイル内の新しいファームウェア更新は Scan Station に適用されます。

注：

- 更新パッケージは、Kodak Alaris の Web サイトまたはサービス担当者から入手できます。更新パッケージは常に KSSUpdate.exe ファイルです。
- 設定およびファームウェア更新用にネットワークフォルダの設定（自動設定スケジュール：手順 5 で指定したフォルダ）：
  1. ［設定］タブを選択します。
  2. 設定ファイルを選択してネットワークフォルダに書き込みます。
  3. **［ファイル］>［エクスポート］**と選択して設定ファイルをネットワークフォルダに書き込みます。［名前を付けて保存］ウィンドウが表示されます。
  4. 名前を **KSS.xml** としてネットワークフォルダのファイルを保存し、**［保存］**をクリックします。
  5. KSSUpdate.exe をネットワークフォルダにコピーします。

方法 3

この方法では、設定ファイルを USB メモリにコピーする必要があります。USB メモリを Scan Station に挿入して認識されると、Scan Station 設定の更新を確認するメッセージが表示されます。

注：ローカルアクセスパスワードが設定されている場合、ローカルアクセスパスワードの入力を要求されます。

[はい] を選択すると、個別の項目を更新するよう求められます。設定が完了したら、**[OK]** をクリックするか、USB メモリを取り外すと、Scan Station が自動的に再起動します。

この方法は Scan Station ごとに同じ作業を繰り返す必要があります。

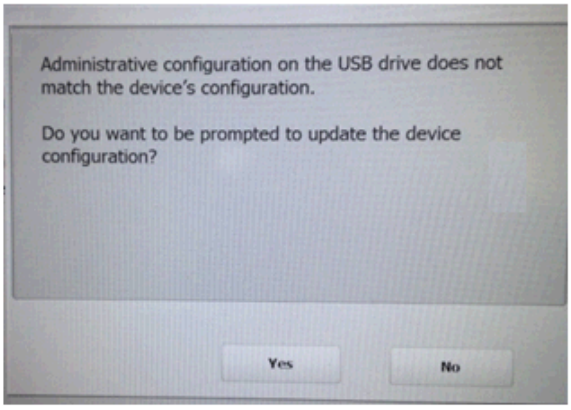
設定更新用に USB メモリを設定するには：

1. ［設定］タブを選択します。
2. 設定ファイルを選択して USB メモリに書き込みます。
3. **［ファイル］>［エクスポート］** と選択して設定ファイルを USB メモリにファイルを書き込みます。［名前を付けて保存］ウィンドウが表示されます。
4. 名前を **KSS.xml** として USB メモリのファイルを保存し、**[保存]** をクリックします。

方法 4

この方法では、タッチスクリーンの設定モードで利用できる Scan Station 設定を対話形式で選択し、値を変更できます。設定ファイルのある USB メモリを Scan Station に挿入して認識されると、Scan Station 設定の更新を確認するメッセージが表示されます。

注：ローカルアクセスパスワードが設定されている場合、ローカルアクセスパスワードの入力を要求されます。



[いいえ] を選択すると、Scan Station はローカル管理者モードになります。この時点で Scan Station のほとんどの設定を変更できます。USB ドライブを取り外すと更新されます。

設定更新用に USB メモリを設定するには：

1. ［設定］タブを選択します。
2. 設定ファイルを選択して USB メモリに書き込みます。
3. **［ファイル］>［エクスポート］** と選択して設定ファイルを USB メモリに書き込みます。［名前を付けて保存］ウィンドウが表示されます。
4. 名前を **KSS.xml** として USB メモリのファイルを保存し、**[保存]** をクリックします。

詳細については、Kodak Alaris 発行の『ユーザ設定方法』を参照してください。

方法 5

この方法では、更新パッケージと設定ファイルを USB メモリにコピーする必要があります。USB メモリを Scan Station に挿入して認識されると、更新パッケージが現在インストールされているバージョンとは異なる場合、Scan Station ファームウェアの更新を求めるメッセージが表示されます。現在のバージョン番号と更新パッケージのバージョン番号の両方が表示されます。ファームウェアの更新を決定した場合は、更新パッケージにあるすべてのデータが Scan Station にコピーされてインストールされます。インストールが完了したら、[**OK**] をクリックするか、USB メモリを取り外すと、Scan Station が自動的に再起動します。

Scan Station が設定ファイル (kss.xml) を検出すると、***[デバイス設定の更新をしますか？]*** というメッセージが表示されます。更新パッケージ (KSSUpdate.exe) も USB メモリにあり、Scan Station のファームウェアを更新したい場合、[**はい**] を選択して Scan Station のメッセージに従ってください。

注：更新パッケージは、Kodak のサービス担当者から入手できます。更新パッケージは常に KSSUpdate.exe ファイルです。

ファームウェア更新用に USB メモリを設定するには：

1. ［設定］タブを選択します。
2. 設定ファイルを選択して USB メモリに書き込みます。
3. ［**ファイル**］**>**［**エクスポート**］と選択して設定ファイルを USB メモリに書き込みます。［名前を付けて保存］ウィンドウが表示されます。
4. 名前を **KSS.xml** として USB メモリのファイルを保存し、[**保存**] をクリックします。
5. KSSUpdate.exe を USB メモリにコピーします。

Scan Station のセキュリティ

セキュリティは日々のビジネスにとってとても重要です。ネットワークデバイスは外部ソースからの侵入を許さないことが大事です。Scan Station 700 シリーズは、インターネットからの外部攻撃を防ぎ、ユーザが直接アクセスできないように設定されています。以下のセキュリティ手順で、Scan Station のオペレーティングシステムへのアクセスをブロックします。

- Scan Station はファイアウォールを使用して、受信するほとんどすべてのネットワークトラフィックをブロックします。受信ポートの大半はブロックされ、ネットワークからのクエリには応答しません。
- また、エコー（別名 *ping*）に応答するように Scan Station は設定されています。これは接続の問題を診断する際に便利です。
- また、Scan Station は、Scan Station の USB ポートを介した外部の侵入からも保護されています。オペレーティングシステムは自動実行が無効に設定されているため、システムに新しい USB デバイスが接続されても自動的に起動することはありません。Scan Station は、USB メモリデバイスを認識し、Scan Station 用に暗号化されたファイルのみを開き読み取ります。USB メモリ内で正しく暗号化されていないファイルは無視されます。これにより、ウィルス感染した実行ファイルが保存された USB メモリを挿入しても、ウィルスの侵入はほとんど不可能になります。
- ウィルスは頻繁にEメールを介してネットワークに接続したコンピュータに侵入することがあります。ほとんどのウィルスは E メールの添付ファイルとして送信され、E メールを開いて添付ファイルを実行するとコンピュータに感染します。Scan Station では、メールを受信しないため、この方法で感染することはありません。
- Scan Station は、正しく暗号化された設定ファイルのみを読み取ります。
- 内部のオペレーティングシステムは、管理者やユーザは使用できません。オペレーティングシステムおよび Scan Station ファームウェアの更新は、必要に応じて、Kodak Alaris の Web サイト (http://www.kodakalaris.com/go/IMsupport) を参照してください。
- Scan Station のセキュリティを確保するには、リモートアクセスパスワードを設定します。詳細については、第 3 章の「スキャナーメニュー」を参照してください。
- スキャン前にユーザに対してログインを要求することができます。詳細については、第 4 章の「デバイスオプションの設定」を参照してください。

Scan Stationのパスワード保護

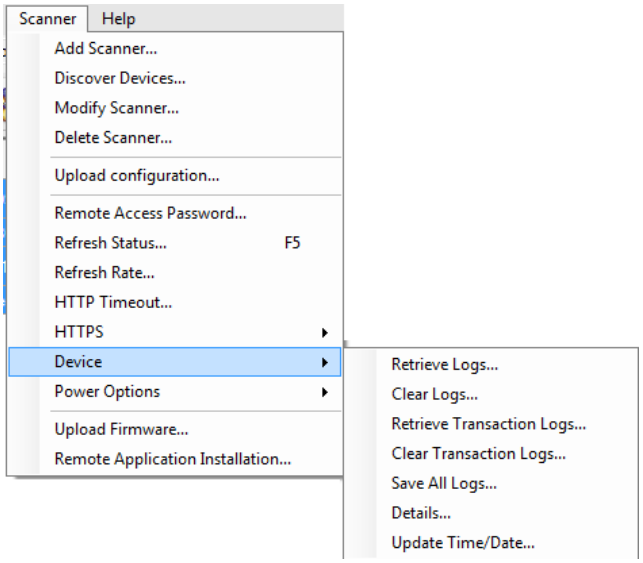
スキャン前にユーザに対して Scan Station へのログインを要求できます。ローカルアクセスパスワードを割り当てる場合は、第 4 章の「デバイスオプションの設定」を参照してください。このセキュリティ機能は、機密情報のスキャンと配信の管理を必要とする企業や部署で使用することを前提としています。ローカルアクセスパスワードを割り当てると、パスワードを知らない全ユーザに対してアクセスが拒否されます。パスワード保護された Scan Station では、パスワードの入力を 3 回まで再試行できます。入力に 3 回失敗すると、Scan Station に数分間警告メッセージが表示され、ローカルアクセスパスワード入力画面に戻ります。

また、ローカルアクセスパスワードは、Scan Station に組み込まれた、非アクティブ状態のタイマーと連動して動作します。通常の操作では、Scan Station が待機状態になって 30 秒が経過すると、Scan Station 設定をデフォルトの状態にリセットするかを確認する警告画面が表示されます。何も選択しないで、非アクティブ状態でさらに 2 分が経過すると、デバイスがデフォルトの状態に戻ります。この時点で、ユーザは、Scan Station を使用するためにローカル管理モードを再入力する必要があります。

注：セキュリティの追加対策として、個別ユーザは Scan Station にログインすることを要求することができます。第 4 章の「Active Directory Server の設定」を参照してください。

ファイルの取得と消去

ログファイルの取得と消去のオプションは **[スキャナー] > [デバイス] を選択すると使用できます。**



Scan Stationのログファイルの取得

[ログの取得] オプションでは、選択した Scan Station のログファイルを保存できます。ログ ファイルの拡張子は .log です。ログファイルには、Scan Station に関する情報（紙詰まりなど）が含まれています。

ログファイルの保存には、2 つの方法があります。

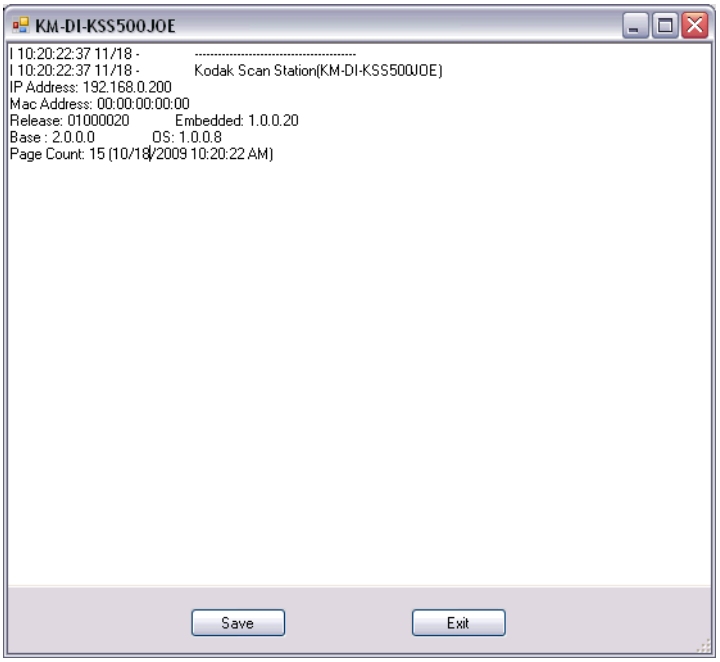
- 方法 1。*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションを使用。
- 方法 2。USB メモリを使用。

方法 1

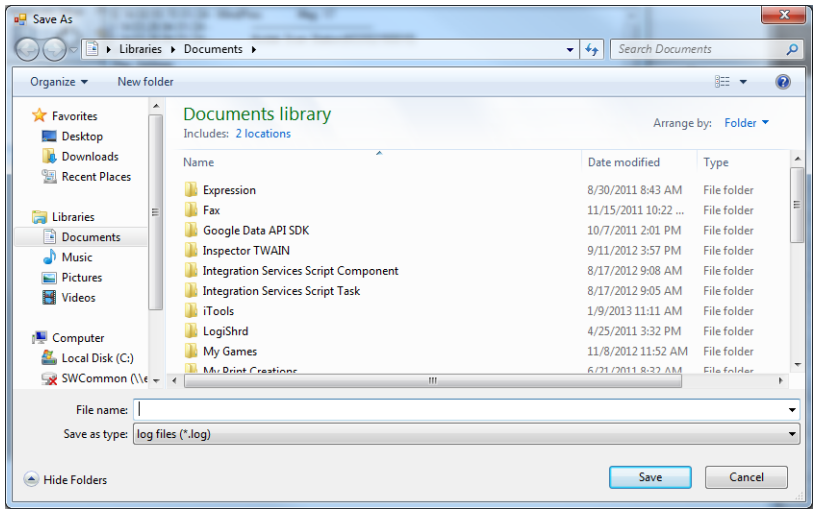
1. Scan Station を選択します。

   注：複数の Scan Station を選択する場合、Ctrl キーまたはシフトキーを押しながら、マウスボタンをクリックします。選択した Scan Station がハイライト表示されます。

2. **[スキャナー] > [デバイス] > [ログ取得]** を選択します。選択した Scan Station のログファイルが表示されます。



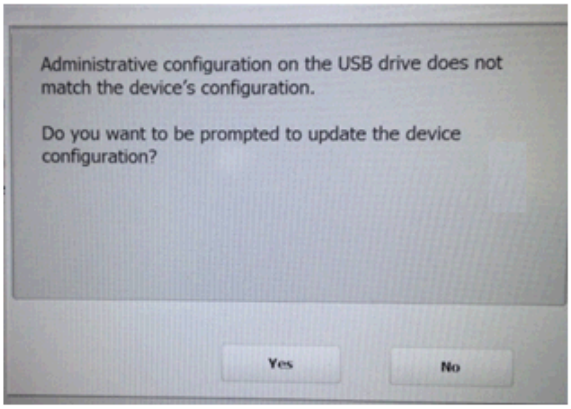
3. **[保存]** をクリックします。[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。



4. ログファイルの名前を入力して、**[保存]** をクリックします。

方法 2

1. 新しい USB メモリに設定ファイル (kss.xml) を作成します。
2. Scan Station の USB ポートにメモリを差し込み、Scan Station をローカル管理者モードにします。以下のメッセージが表示されます。



3. **［いいえ］**を選択してください。Scan Station に［設定］アイコンが表示されます。
4. 矢印を使用して、[診断] アイコン が表示されるまでスクロールし、選択します。
5. **［ログを保存します］**をクリックしてから［**はい**］をクリックし、ログファイルを USB メモリに保存します。

analog.log、kss.xml.log および NTBT.log.txt ファイルは USB メモリに保存されます。

ログファイルの消去

ログファイルを消去するには

1. トランザクションログを消去する Scan Station を選択します。
2. **［スキャナー］> ［デバイス］> ［ログ消去］**を選択します。***「選択したスキャナーのログファイルを削除してもよろしいですか？」というメッセージが表示されます***。
3. **［はい］**をクリックします。

Scan Station のトランザクションファイルの取得

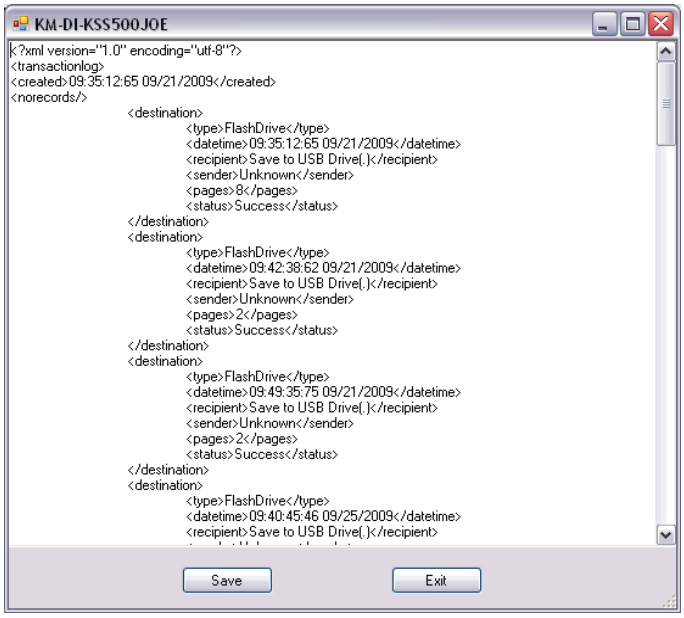
[トランザクションログの取得]オプションでは、選択した Scan Station のトランザクションログファイルを保存できます。トランザクションログファイルの拡張子は ,xml です。トランザクションログファイルには、Scan Station で実行したトランザクションに関する情報（トランザクションの宛先と時間、受信者、送信者、トランザクションのステータス、スキャンしたページ数）が含まれます。

ログファイルの保存には、2 つの方法があります。

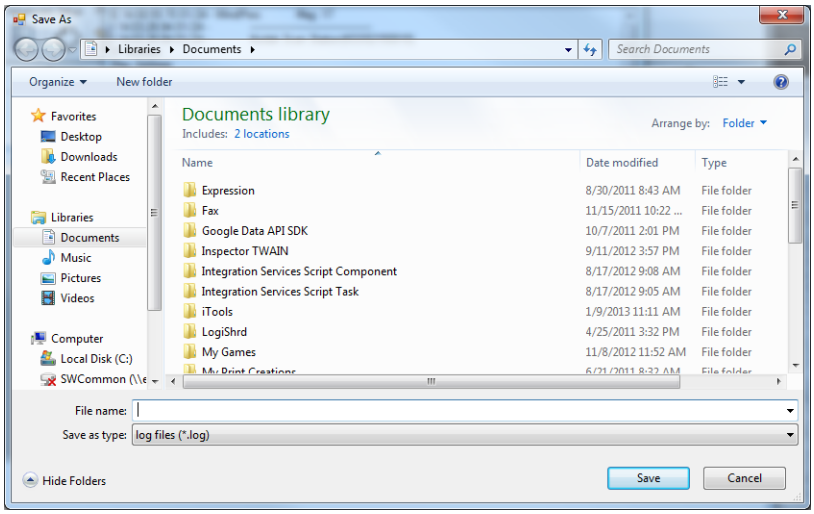
- 方法 1。*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションを使用。
- 方法 2。USB メモリを使用。

方法 1

1. Scan Station を選択します。
2. **[スキャナー] > [デバイス] > [トランザクションログの取得]** を選択します。選択した Scan Station のログファイルが表示されます。



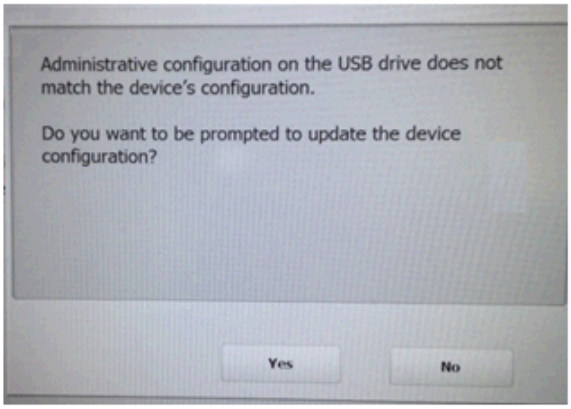
3. **[保存]** をクリックします。[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。



4. ファイル名を入力し、**[保存]** をクリックします。

方法 2

1. 新しい USB メモリに設定ファイル (kss.xml) を作成します。
2. Scan Station の USB ポートにメモリを差し込み、Scan Station をローカル管理者モードにします。以下のメッセージが表示されます。



3. **［いいえ］**を選択してください。Scan Station に［設定］アイコンが表示されます。
4. 矢印を使用して、［診断］アイコン が表示されるまでスクロールし、選択します。
5. **［トランザクションログを保存］**を選択して、**［はい］**をクリックし、トランザクションログファイルを USB メモリに保存します。***トランザクションログが USB メモリにコピーされました、というメッセージが表示されます。トランザクションログを消去しますか？***
6. **［はい］**をクリックすると、ロギが消去されます。

<Time>_<Date>_TransactionLog.xml ファイルが USB メモリに保存されます。

トランザクションログファイルの消去

トランザクションログファイルを消去する場合は

1. トランザクションログを消去する Scan Station を選択します。

   注：複数の Scan Station を選択する場合、Ctrl キーまたはシフトキーを押しながら、マウスボタンをクリックします。選択した Scan Station がハイライト表示されます。

2. **［スキャナー］> ［デバイス］> ［トランザクションログの消去］**を選択します。***「選択したスキャナーのトランザクションログファイルを削除してもよろしいですか？」***というメッセージが表示されます。
3. **［はい］**をクリックします。

すべてのログファイルの保存

［すべてのログを保存］オプションでは選択した Scan Station 上で検出されたすべてのログを取得できます。ログファイルを保存するディレクトリを選択します。ディレクトリの名前には選択した Scan Station の名前が含まれ、そのフォルダに取得されたログファイルが保存されます。

Scan Station の詳細

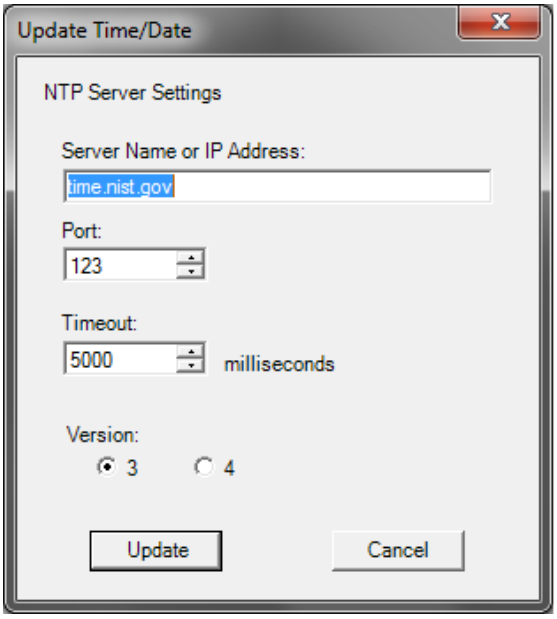
選択した Scan Station の詳細を表示するには

- **［スキャナー］> ［デバイス］> ［詳細］**を選択します。選択した Scan Station に関する詳細情報（ソフトウェアのバージョン、IP アドレスなど）が、［詳細］ダイアログボックスに表示されます。

リモートでの日時の更新

使用中のネットワークから NTP サーバにアクセスできる場合は、［日時の更新］オプションを使用してすべての Scan Station の内部クロックを NTP サーバと同期させることができます。

1. **［スキャナー］> ［デバイス］> ［日時の更新］**を選択します。以下のダイアログボックスが表示されます。



2. Scan Station のクロックを同期する NTP サーバのサーバ名、または IP アドレスを入力します。
3. NTP サーバのポートを選択します。デフォルト値は 123 です。
4. Scan Station が内部クロックの同期を停止するまでの時間（ミリ秒単位）を入力します（500 ミリ秒 = 1/2 秒）。問題が無い場合は初期設定を変更しないでください。
5. NTP サーバのバージョン **3** または **4** を選択します。
6. **［更新］**をクリックします。

Scan Station の電源オフ

Scan Station は特別な理由（ネットワークの定期的なダウンタイム、定期的な停電または特定の Scan Station の保守）により、電源のオフが必要になることがあります。必要の場合は、リモートで電源オフにできます。

1. トランザクションログを消去する Scan Station を選択します。
2. **[スキャナー] > [電源オプション] > [電源オフ]** を選択します。***「選択したスキャナーの電源をオフしてもよろしいですか？」*** というメッセージが表示されます。
3. **[はい]** をクリックして、Scan Station の電源をオフにします。

注：また、電源ボタンを押して、Scan Station の電源オフや、再起動ができます。

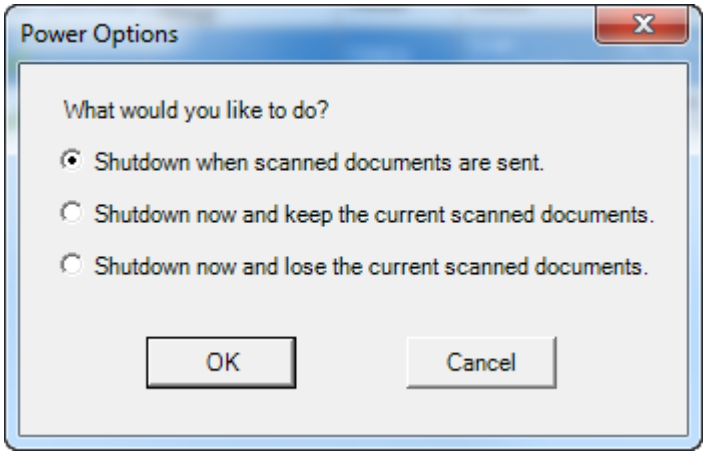
1 つまたは複数の Scan Station の再起動

Scan Station は特別な理由（新しいファームウェアの読み込み後など）により、再起動が必要になることがあります。必要な場合、Scan Station はリモートで再起動できます。

1. **[スキャナー] > [電源オプション] > [再起動]** を選択します。***「選択したスキャナーを再起動してもよろしいですか？」*** というメッセージが表示されます。
2. **[はい]** をクリックして、Scan Station を再起動します。

注：また、電源ボタンを押すことで Scan Station の電源オフや、再起動ができます。

Kodak Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーション（**[スキャナー] > [電源オプション]**）を使用して Scan Station を再起動またはオフにする場合、バックグラウンド処理キューにジョブがあると、オプションのリストが表示されます。



- 目的のオプションを選択して、**[OK]** をクリックします。

Scan Station の移動

Scan Station をネットワーク間で移動する必要がある場合、

1. Scan Station の電源を切ります。
2. 電源コードとネットワークケーブルを取り外します。
3. Scan Station を移動します。
4. 電源コードとネットワークケーブルを接続します。
5. Scan Station の電源を入れます。

11 メンテナンス

目次

カバーを開く 11-1
清掃手順 11-2
　ローラの清掃 11-2
　セパレーションモジュールの清掃 11-3
　フィードモジュールの清掃 11-4
　掃除機を使用した清掃 11-5
　イメージングガイドの清掃 11-6
　トランスポートクリーニングシートによる清掃 11-6
交換手順 11-7
　セパレーションモジュールタイヤの交換 11-7
　プリセパレーションパッドの交換手順 11-9
　フィードモジュールタイヤの交換 11-10
プリセパレーションローラのテンションの調整 11-12
アクセサリと消耗品 11-13

Scan Station のカバーを開く

1. Scan Station カバーを開く前に、出力カバーが下がっていることを確認してください。

2. Scan Station カバーリリースレバーを押しながら、Scan Station カバーを開きます。

3. Scan Station の清掃や部品の交換が完了したら、Scan Station カバーを両手で閉じます。

清掃手順

Scan Station は定期的に清掃する必要があります。書類がうまく給紙できなかったり、複数の書類が一度に給紙されたり、画像に線が入る場合は、Scan Station を清掃する必要があります。この章で後述の「消耗品」で、Scan Station の清掃用消耗品を一覧にまとめてあります。

重要： Kodak パーツサービスから購入したクリーナなど、不燃性のクリーナを使用してください。家庭用クリーナは使用しないでください。

清掃前に、室温になるまで表面を冷ましてください。高熱面にクリーナを使用しないでください。

換気を行ってください。狭い場所でクリーナを使用しないでください。

エアー、液体、ガススプレークリーナを使用しないでください。これらのクリーナは、ほこり、汚れ、ゴミを Scan Station 内の別の場所に広げてしまいます。

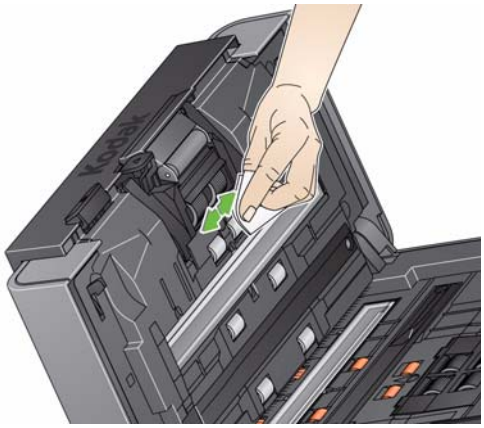
タイヤまたはイメージングガイドにはアルコールベースのクリーナを使用しないでください。

注：

- 清掃開始前に、Scan Station のの電源をオフにして、電源コードを外してください。
- メンテナンス作業が終わったら、石鹸と水で手を洗ってください。

ローラの清掃

1. Scan Station のカバーを開きます。
2. ローラクリーニングパッドを使って、フィードローラを磨くように拭きます。フィードローラを回しながら、全面を清掃します。

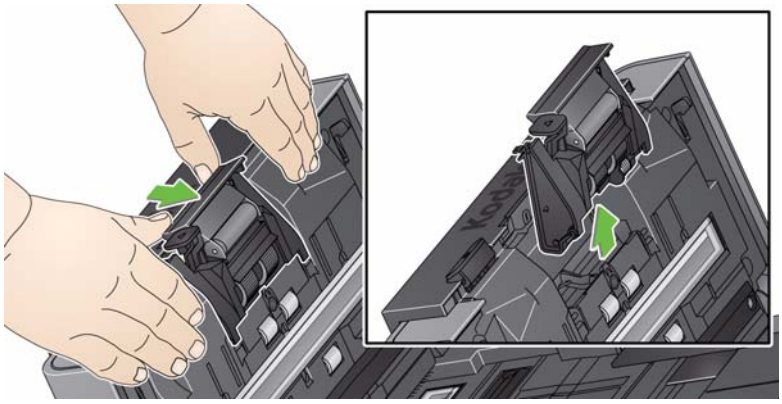


3. チリの出ない布でローラを乾拭きします。

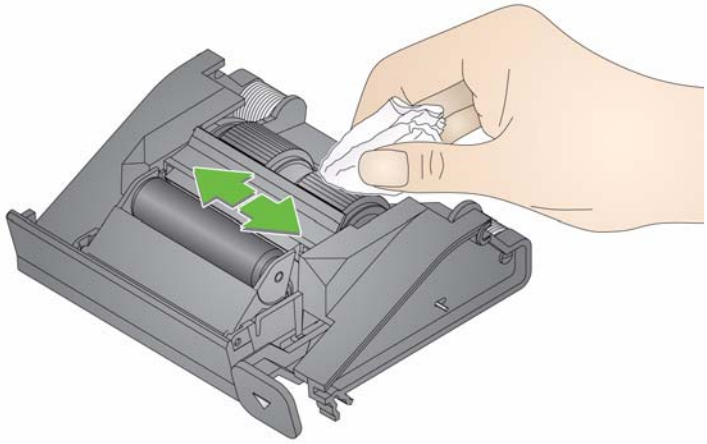
セパレーションモジュールの清掃

正しくクリーニングするには、Scan Station からセパレーションモジュールを取り外す必要があります。

1. セパレーションモジュールを押し上げて取り外します。



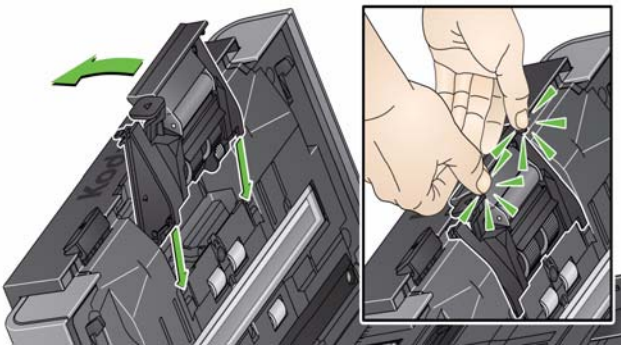
2. セパレーションモジュールタイヤを回しながらローラクリーニングパッドで拭きます。



3. セパレーションモジュールを確認します。

   セパレーションモジュールタイヤに消耗や損傷している兆候が見える場合には、セパレーションモジュールを交換します。詳細は「交換手順」を参照してください。

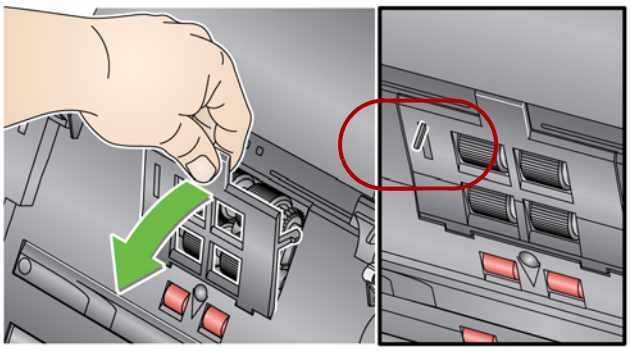
4. セパレーションモジュールのタブと溝の位置を合わせて、押し込みます。



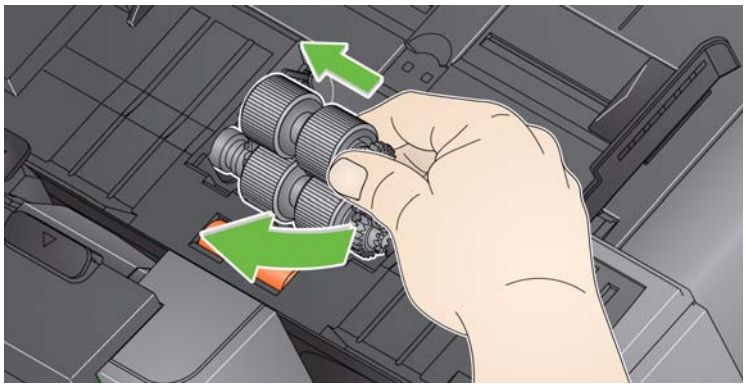
フィードモジュールの清掃

注：用紙センサはフィードモジュールの左側にあります。フィードモジュールを取り外したり、フィードモジュールの周囲をクリーニングする場合、用紙センサを傷つけないように注意してください。

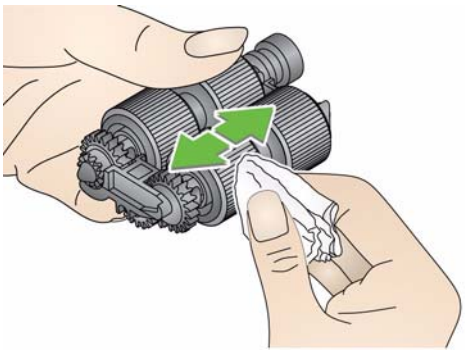
1. フィードモジュールカバー中央の先端をつまみ、持ち上げながら外します。



2. フィードモジュールを起こし、左側に押込みながら外します。



3. フィードモジュールタイヤを回しながら、ローラクリーニングパッドで拭いてください。

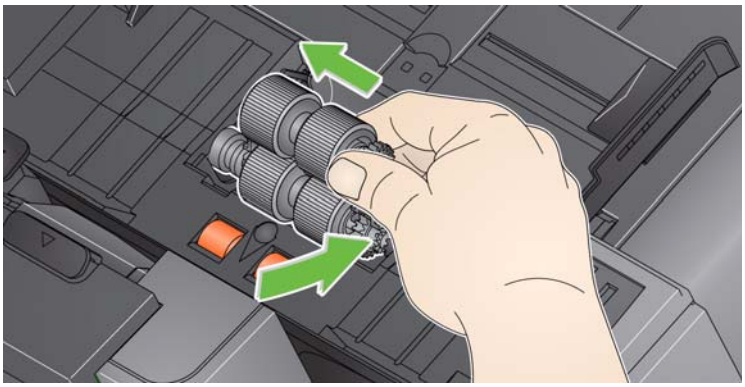


4. フィードモジュールを確認します。

   フィードモジュールタイヤに磨耗や損傷の兆候が見える場合は、タイヤまたはフィードモジュールを交換します。詳細は「交換手順」を参照してください。

5. 掃除機やクリーニングパッドを使って、フィードモジュールのゴミやホコリを取り除きます。

6. フィードモジュールピンを合わせ、左に押込みながら定位置に戻します。歯車が正しくかみ合うように取り付けてください。フィードモジュールを元の位置に戻します。



7. タブを溝に合わせてフィードモジュールカバーを正しい位置に押し込み、しっかりと取り付けてください。

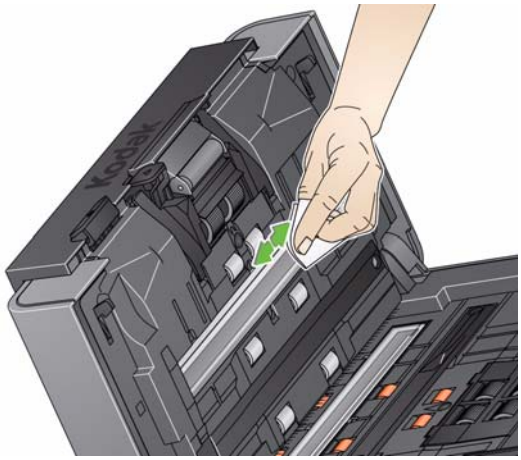
掃除機を使用した清掃

イメージングエリアをクリーニングする前に、Scan Station 内部を掃除機を使って、ゴミやほこりを取り除きます。

イメージングガイドの清掃

1. 上下のイメージングガイドを静電クリーニングクロスで拭きます。イメージングガイドに傷を付けないように注意してください。

重要：静電クリーニングクロスには、目に刺激を与え、肌の乾燥の原因となるイソプロパノールが含まれています。メンテナンス作業が終わったら、石鹸と水で手を洗ってください。詳細については、MSDS（製品安全データシート）を参照してください。



2. 拭き痕を残さない様に乾燥した静電クリーニングクロスを使って、もう一度上下のイメージングガイドを拭きます。
3. 完了したら、カバーを両手で閉じます。

トランスポートクリーニングシートによる清掃

1. トランスポートクリーニングシートの台紙を取り除きます。
2. クリーニングシートに合わせてサイドガイドを調整します。
3. 入力トレイにトランスポートクリーニングシートを（粘着面を手前に向けて）縦にセットします。
4. ジョブを選択するか、または出力先を選択して緑色の［スキャン］ボタンをタッチします。
5. トランスポートクリーニングシートのスキャンが終了したら、裏返して（粘着面を入力トレイに伏せる）もう一度スキャンします。
6. カバーを開け、繊維くずの出ない布でイメージングガイドを拭きます。
7. カバーを両手で閉じます。
8. イメージ品質を確認します。
9. 必要に応じて、この手順を繰り返し、ローラの汚れをすべて取り除きます。

注：クリーニング シートがかなり汚れたら、破棄して新しいシートを使用してください。

交換手順

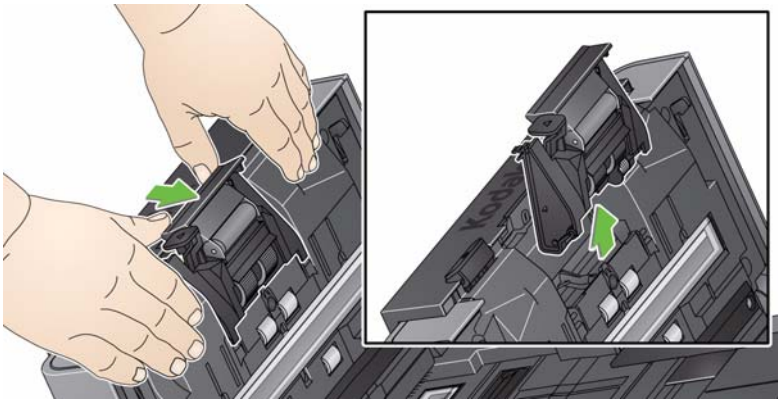
Kodak Scan Station は、さまざまな種類、サイズ、厚みの原稿を給紙できる、交換可能なタイヤを使用しています。タイヤの寿命とパフォーマンスは、原稿の種類、搬送路とタイヤの清掃の頻度、推奨するタイヤ交換スケジュールに従っているかどうか、などの条件により異なります。タイヤ平均寿命は、約 125,000 枚です。耐用年数については保証されていません。運用環境、原稿の種類、スキャン原稿の状態、推奨する清掃 / 交換手順の遵守状況によって、消耗品の寿命は異なります。清掃手順に従って作業を行っても、重送、紙詰まり、フィーダパフォーマンスの低下などの問題が頻発する場合は、タイヤを交換してください。

注：

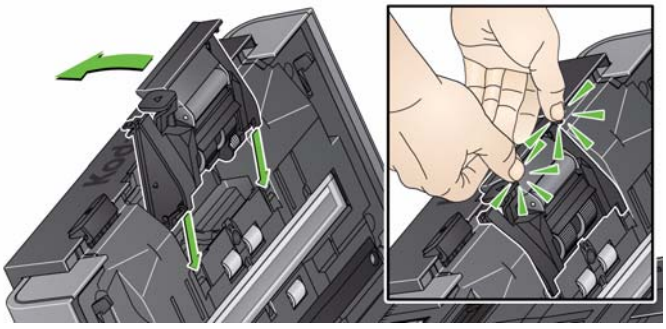
- 交換作業開始前に、Scan Station の電源をオフにして、電源コードを外してください。
- 特定の用紙タイプ（ノンカーボン紙や新聞紙）を使用した場合、清掃を定期的に行わなかった場合、推奨品以外のクリーニング液を使用した場合などは、ローラの寿命が短くなる場合があります。

セパレーションモジュールタイヤの交換

1. セパレーションモジュールを押し上げて取り外します。



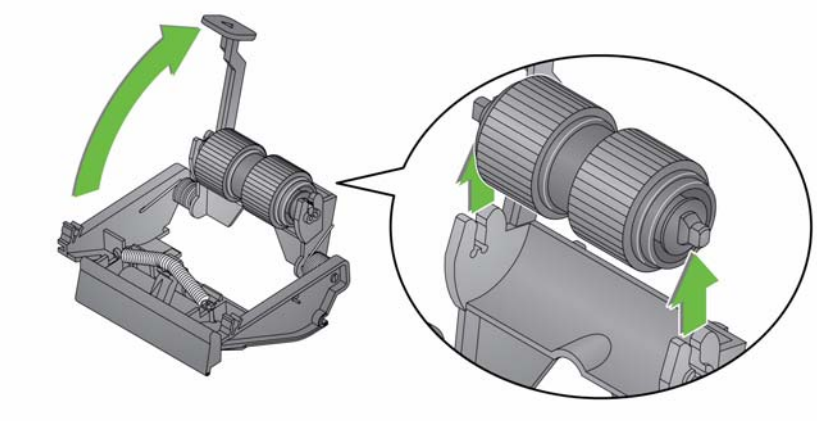
- セパレーションモジュールを交換する場合、新しいセパレーションモジュールのタブと溝の位置を合わせて、押し込みます。



- タイヤを交換する場合は、手順 2 に進みます。

2. セパレーションモジュールを持ったまま、リリースレバーを後ろに回し、セパレーションローラーを取り出します。

注意：リリースレバーにはスプリングが付いているので、正しく保持しないと跳ね返るおそれがあります。充分に注意してください。

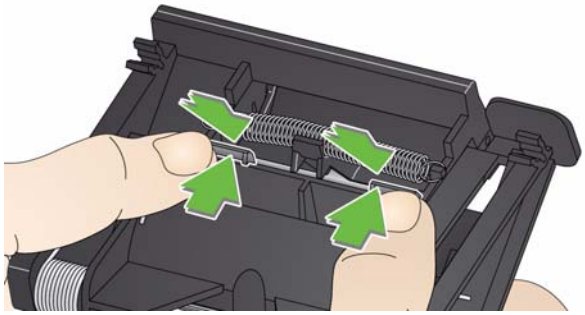


3. セパレーションモジュールからセパレーションローラーを取り外します。
4. 各タイヤを軸から外します。
5. 新しいタイヤを軽く引き伸ばしながら軸に取り付けます。

   重要：タイヤを引き伸ばし過ぎないでください。破損する場合があります。
6. セパレーションローラを元の位置に取り付けます。正しい位置にセパレーションローラを取り付けてください。
7. セパレーションモジュールのタブと溝の位置を合わせて、押し込みます。

プリセパレーションパッドの交換手順

1. 「セパレーションモジュールタイヤの交換」で説明されている手順に従って、Scan Station からセパレーションモジュールを取り外します。
2. 両手でセパレーションモジュールを持ち、セパレーションモジュールの後部からわずかに出ている、2 つのタブを確認します。
3. タブを、プリセパレーションパッドがセパレーションモジュールの前面から少し出るまで押し出します。
4. プリセパレーションパッドをつまみ、セパレーションモジュールから引き出します。

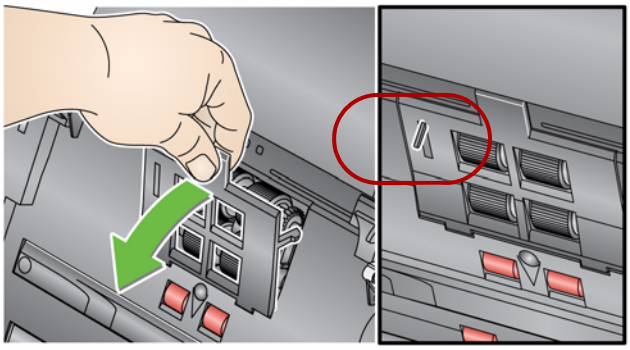


5. 使用済みのプリセパレーションパッドを破棄します。
6. 新しいプリセパレーションパッドのタブと、セパレーションモジュールの溝を合わせます。
7. プリセパレーションパッドフラップがセパレーションモジュールタイヤに軽く付くまで、しっかりと押し込みます。
8. セパレーションモジュールのタブと溝の位置を合わせて、押し込みます。

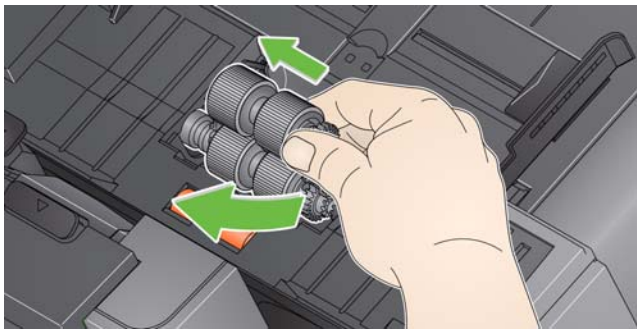
フィードモジュールタイヤの交換

注： 用紙センサはフィードモジュールの左側にあります。フィードモジュールを取り外したり、フィードモジュールの周囲をクリーニングする場合、用紙センサを傷つけないように注意してください。

1. フィードモジュールカバー中央の先端をつまみ、持ち上げながら外します。

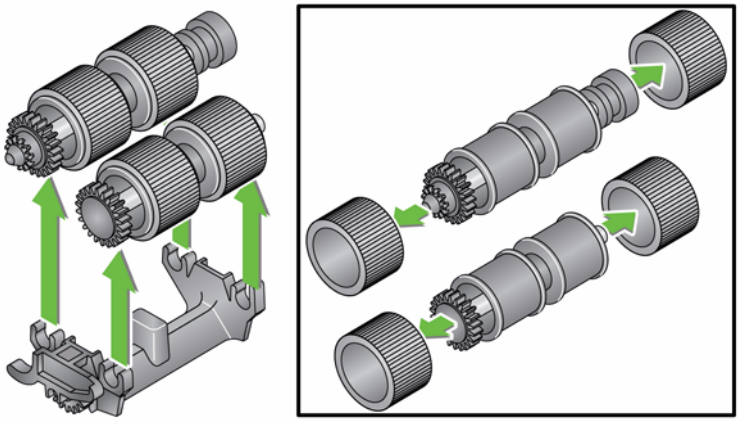


2. フィードモジュールを起こし、左側に押込みながら外します。



- フィードモジュールを交換する場合、新しいフィードモジュールピンを合わせ、左に押し込みながら定位置に収めます。ギアが正しい位置にはめ込まれていることを確認し、手順 8 に進みます。
- タイヤを交換する場合は、手順 3 に進みます。

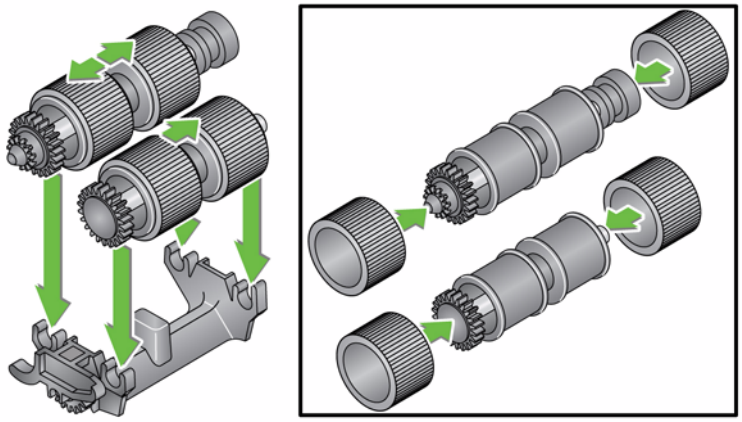
3. コアアセンブリを持ち上げて取り外します。
4. 各タイヤを軸から外します。



5. 新しいタイヤを軽く引き伸ばしながら軸に取り付けます。

   重要 : タイヤを引き伸ばし過ぎないでください。ちぎれる場合があります。

6. フィードモジュールにコアアセンブリを取り付けます。フィードモジュールを正しく取り付けるために、シャフトを右か左にずらす必要があることもあります。
7. 上記の交換手順を繰り返し、もう一方のコアアセンブリのタイヤを交換します。
8. フィードモジュールピンを合わせ、左に押込みながら定位置に戻します。

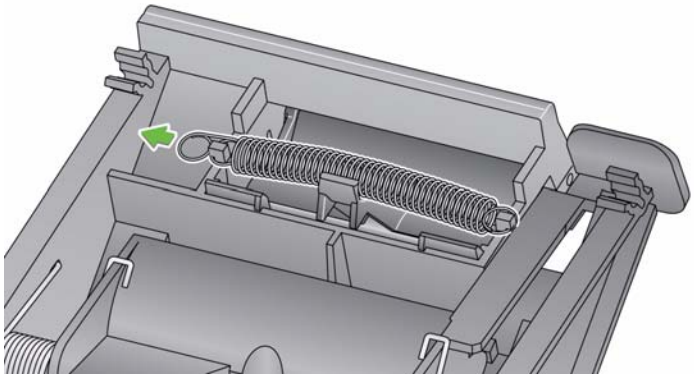


9. タブを溝に合わせてフィードモジュールカバーを正しい位置に押し込み、しっかりと取り付けてください。

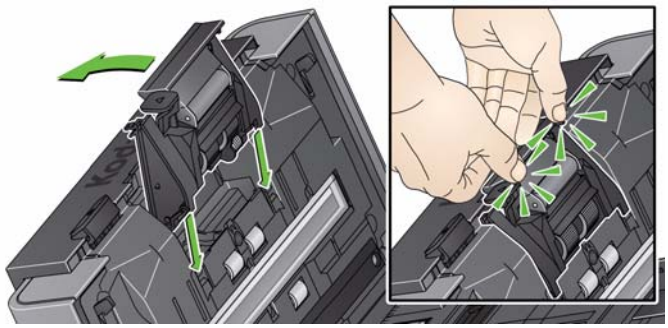
プリセパレーションローラのテンションの調整

重送または原稿詰まりが発生している場合は、プリセパレーションローラのテンションの調整が必要になります。

1. 「セパレーションモジュールとタイヤの交換」で説明されている手順に従って、セパレーションモジュールを取り外します。
2. セパレーションモジュールのスプリングを確認します。
3. このスプリングをホルダから持ち上げて左か右に動かし、テンションを調整します。



4. 完了したら、セパレーションモジュールのタブと溝の位置を合わせて、押し込みます。



消耗品

消耗品を注文する場合は、最寄りの Scan Station 販売代理店にご連絡ください。

説明	カタログ番号
Kodak フィードローラ（数量：12）	148 4864
セパレーションモジュール	173 6115
フィードモジュール	826 9607
Kodak ローラクリーニング パッド （数量：24）	100 2716
Kodak Digital Science トランスポートクリーニング シート（数量：50）	169 0783
静電クリーニングクロス（数量：24×6 箱）	896 5519

注：品名とカタログ番号は、変更される場合があります。

化学製品の化学物質安全データシート (MSDS) は、次の Kodak Alaris Web サイトで入手できます。www.kodakalaris.com/go/msds ウェブサイトから MSDS にアクセスする場合、消耗品のカタログ番号を提示する必要があります。

12 トラブルシューティング

目次

問題の解決 12-1
インジケータライト 12-6
エラーログファイルの保存 12-6
サービスセンターへの問い合わせ 12-6

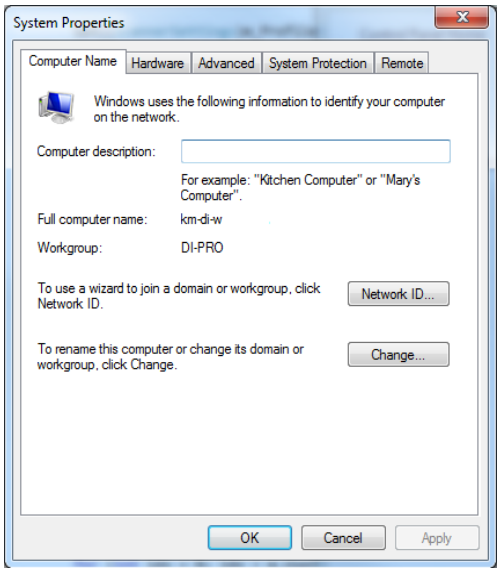
問題解決

スキャナーの使用状況によっては、Scan Station が正常に動作しない場合があります。以下のチャートを参照して、サービス＆サポートに問い合わせる前にご自分で問題を解決できるか確認してください。

問題	解決方法
Scan Station では、原稿をスムーズにスキャンして最適な画質を得るために、定期的にクリーニングとメンテナンスが必要です。Scan Station で最高のパフォーマンスを発揮するには、第 11 章*「メンテナンス」*で説明した清掃手順を実施して下さい。	
紙詰まりになる。または原稿が重送する	以下を確認してください。 • サイドガイドが原稿の幅に正しく調整されている。 • 入力トレイに 80 g/m^2（20 ポンド）原稿を 75 枚以上載せていない。 • スキャンする原稿の長さに合わせて出力トレイが調整されている。 • すべての原稿が付録 A*「仕様」*に挙げられたサイズ、重量、タイプに適合しているか確認する。 • Scan Station とローラが清掃されている。 • ローラが磨耗していない。交換の必要がないこと。 • プリセパレーションモジュールのスプリングのテンションが適切に調整されている。手順については、第 11 章*「メンテナンス」*を参照してください。 • フィードモジュールとプリセパレーションモジュールが正しく取り付けられ、確実に固定されている。手順については、第 11 章*「メンテナンス」*を参照してください。 **紙詰まりを解消するには**： *重要：カバーを開く前に、必ず出力トレイが**開いている**ことを確認してください。詰まった原稿は Scan Station から引き出さないでください。まず Scan Station のカバーを開きます。* • Scan Station カバーリリースレバーを押しながら、Scan Station カバーを開きます。 • 詰まっている原稿を Scan Station 内部から取り出します。 • Scan Station カバーを閉じ、スキャンを再開します。
Scan Station が原稿をスキャンしない、または給紙しない	以下を確認してください。 • 電源コードが Scan Station 本体と電源コンセントに確実に接続されている。 • 電源スイッチがオンの状態で、LED が青である。 • 電源コンセントに問題がない（資格のある電気技術者にお問い合わせください）。 • 原稿がフィードローラに接触している。

問題	解決方法
画像が表示されない。	スキャンする原稿はジョブの設定に基づいて入力トレイに適切にセットするようにしてください。たとえば、**片面 - 原稿を伏せて**スキャンするようにジョブがセットアップされている場合は、スキャンする面を入力トレイに向けて（伏せて）セットします。ジョブの設定が不明な場合は、システム管理者に問い合わせてください。
スキャン後に、ローラの跡が原稿に付着する	ローラを清掃してください。手順については、第 11 章*「メンテナンス」*を参照してください。
イメージの背景に黒いにじみがある	半透明の原稿をスキャンするとき、黒いにじみが画像に現れる場合があります。最小限に抑えるため、［スキャン設定］画面で［コントラスト］の値を調節してください。
赤、緑、青の線がカラー写真に入っている	スキャナーが汚れているので清掃が必要です。手順については、第 11 章*「メンテナンス」*の「清掃手順」を参照してください。
イメージ品質が悪い、または低下している	Scan Station を清掃します。手順については、第 11 章*「メンテナンス」*の「清掃手順」を参照してください。
ネットワーク認証問題	**解決方法**
Scan Station起動中にアイドルモードで 15 分（または設定値）以上経過し省電力モードになっている場合は、Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションは Scan Station と通信できません。	Wake On LAN (WOL) は、ブロードキャストアドレスを使用して作動するように設計されているため、Scan Station とスキャナ管理アプリケーションが同じサブネットを使用している場合はより確実に作動します。これはサブネット全体で使用可能ですが、ネットワーク上のルーター / スイッチの ARP テーブルに Scan Station の情報が残っている場合にのみ作動します。これは揮発性情報であり、Scan Station の省電力モード状態が長くなればなるほど作動しにくくなります。ただし、Scan Station のダウンタイムが短い場合は、多くの場合問題なく作動します。 これらの制限は Scan Station に限定されません。これはネットワークインフラを制限しています。 Scan Station に固定 IP アドレスを割り当てることを推奨します。
Scan Stationが正しく設定されていてもFAX の受信ができない	• （デジタル電話回線ではなく）アナログ電話回線に接続してください。 • 以下を確認してください。 1. ケーブルが Scan Station 後部の RJ11 ポートに接続されていることを確認してください。 2. Fax オプションが Fax 受信のために正しく設定されていることを確認してください。詳細については、第 4 章「Fax の設定」を参照してください。
ドメイン認証	次の設定を確認して、ネットワークドメインに適切に接続されているかを検証してください。 これらの設定は、［設定］タブを選択し、**［編集］> ［デバイス設定］**を選択して開きます。**［デバイスオプション］**を選択し、**［次へ］をクリックします。［ネットワーク出力先証明書］**オプションを開き、ネットワークの *［ユーザ名］、［パスワード］、［ドメイン］名を確認します。* 適切に設定されていないと、Scan Station はドメインにアクセスできません。
デバイス名はユニークではありません。	すべての Scan Station には、工場で割り当てられたデフォルトの名前があります。デフォルト名は、**KSSxxxxxxxx** です（xxxxxxxx は、Scan Station のシリアル番号を示します）。これにより、すべての Scan Station のデバイス名がユニークであることが確認できます。デバイス名の設定時にこのオプションを空白にすると、Scan Station は工場でインストールされたデフォルトのデバイス名を使用します。デフォルトのデバイス名を変更する場合は、**ユニーク**な名前を入力する必要があります。

ネットワーク認証問題	解決方法
アカウント名とパスワードの確認	Scan Station がスキャンイメージをネットワークフォルダに送信しなかったり、スキャンが停止する場合は、Scan Station に登録したログイン証明書に問題がある可能性があります。Scan Station に割り当てるネットワークアカウントの作成時に、*最初のログインでパスワードを変更*してから xx 日ごとに*パスワードを変更する*、*などの特定のプロパティがアカウントに適用されてることがあります。*この種の制限は、Scan Station で使用するアカウントには適用しないことをお勧めします。 ネットワーク管理者は、通常のネットワークコンピュータにログインするための証明書を使用して、Scan Station に割り当てられたアカウント設定を検証できます。これらの証明書を使用して自分のネットワークにログインできない場合は、アカウントに問題がある可能性があります。設定を変更できるのはネットワーク管理者です。パスワードのリセットが必要になる場合もあります。
ワークグループ認証	ワークグループ内のローカルにある共有フォルダへの書き込み時に問題が発生した場合は、フォルダを共有しているネットワーク上の PC からフォルダに付与されたアクセス権限を確認してください。Scan Station がアクセスできる権限がフォルダにあることを確認します。
E メール認証	Scan Station 設定で定義された認証方法が、SMTP サーバの認証方法と一致していることを確認します。現在 Scan Station でサポートする設定は、シンプルパスワード、NTLM、チャレンジレスポンスです。これらの設定を確認するには、Outlook Express などの Windows メールクライアントを使用し、Scan Station に割り当てられたユーザ名とパスワードを使用してメールアカウントを作成します。
SMTP サーバの問題	SMTP サーバアドレスの問題を解決するには、次の処理を実行します。 • 別のデバイス上にある他の E メールクライアントを使用して、メールを送信でき、SMTP サーバーに到達できることを確認します。 • 設定ファイルを変更して、完全ドメイン名 (FQDN) の代わりに IP アドレスを持つ SMTP サーバを識別します。FQDN ではなく IP アドレスを持つ SMTP サーバに到達できる場合は、DNS に問題があります。DNS サーバに到達でき、それから FQDN を適切に解決できることを確認してください。 • SMTP サーバでは SSL または TLS が必要になる場合があります。いずれかのオプションを選択する必要がある場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
SMTP サーバのアドレスを調べる	SMTP サーバアドレスを調べるには、次のようにします。 • ワークステーションで使用するメールクライアントの設定を調べ、SMTP サーバの IP アドレスか、ドメイン名を探します。または、 • 内部のメールクライアントから送信したメールを調べ、メールのヘッダーをすべて表示します。または、 • メールサーバの管理者に、この情報を問い合わせます。
SMTP サーバのアドレスを確認する	*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションで、[**テスト接続**] を使用します。 Scan Station と同じネットワークに接続されているメールクライアント PC のメールアプリケーションを使用して、SMTP サーバーにメールを送信します。 • メールの送受信が正常に終了したら、SMTP サーバのアドレスは有効です。 • SMTP サーバーにメールを送信できない場合は、受信したエラーメッセージを確認してください。SMTP サーバのアドレスが有効でも、認証証明書が無効である可能性があります。

ネットワーク認証問題	解決方法
FTP の認証	FTP サイトへのスキャンでは、プロキシ証明書と FTP サーバ証明書の 2 セットの設定が必要になることがあります。 ネットワーク環境で外部FTPサイトへのアクセスにプロキシサーバを使用する場合、ユーザ名、パスワード、認証方法を含む適切なプロキシ証明書を設定する必要があります。プロキシ認証手段には、**ログイン後のユーザ**または**無し**があります。また、FTP サーバにアクセスするには、ユーザ名とパスワードの設定が必要になることもあります。Scan Station では、anonymous（匿名）FTP もサポートしています。
ネットワークドメイン名	Scan Station で使用するドメイン名を見つけて、設定する場合は、次のようにします。 1. Scan Station で使用する同じネットワークまたはドメインにログインした PC で、**[コンピュータ]** を右クリックして［**プロパティ**］を選択します。次の画面で［**システムの詳細設定**］を選択して、システムのプロパティウィンドウを表示します。 2. ［コンピュータ名］タブを選択します。  ドメイン上にいる場合は、*[ドメイン]* フィールドにドメイン名が表示されます（上図を参照）。 3. **ドメイン名**をコピーします。 Scan Station でドメイン名を設定する場合は、 4. *Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションで、［設定］タブを選択します。 5. **［編集］>［デバイス設定］**を選択します。 6. **［デバイスオプション］**を選択し、**［次へ］をクリックします。** 7. **［ネットワーク出力先証明書］**下矢印をクリックし、ドメイン名を入力します。

ネットワーク共有先へのスキャンの問題	解決方法
ネットワークフォルダへスキャンできない	Windows 7、Windows 8、Windows 10 搭載のネットワークの別のコンピュータを使用して、共有保存先の NETBIOS コンピュータ名を ping します。たとえば、保存先が **\\Servername\Sharename** の場合は、*Servername* を ping します。 • ping に応答があった場合は、NETBIOS 名の解決法が使えます。共有名または共有するためのアクセス権限が問題である可能性があります。 • 応答が**ない**場合は、NETBIOS 名の解決法は機能しません。有効な共有フォルダが判明している場合は、サーバ名の代わりに IP アドレスや、状況によって権限のあるドメイン名のいずれかを使用できます。たとえば、共有サービスを提供しているコンピュータの IP アドレスが *100.100.100.1* で、完全修飾ドメイン名が *server.company.com* の場合、**\\100.100.100.1\Sharename** または **\\server.company.com\sharename** のいずれかを試すことができます。通常、どちらかが NETBIOS 名の代わりに、共有の宛先アドレスの役割を果たします。 • NETBIOS 名の解決法が機能せず、これがネットワークパスを定義する唯一の方法の場合は、ルーターの設定の変更について、ネットワーク管理者にお問い合わせください。通常では、TCP/IP トラフィックのポート 137 と 139 をブロックしています。これらのポートは、Microsoft が TCP/IP 上で NETBIOS 用に使用する TCP ポートです。これらのポートがブロックされると、宛先アドレスまでのパスがルーター（サブネットなど）の境界を通過する場合、NETBIOS 名を解決できません。 • Windows 7、Windows 8、Windows 10 搭載のネットワークの別のコンピュータを使用して、Windows エクスプローラを起動し、ネットワークドライブを \\Servername\Sharename にマップしてください。これも機能しない場合は、ホストコンピュータ上の共有フォルダのアクセス権限を確認します。Scan Station のユーザまたはユーザアカウントに、共有フォルダの読み込みと書き込みのアクセス権限があることを確認します。 • ネットワークからネットワーク共有フォルダにアクセスできるかどうかを確認するには、ネットワーク上の他の PC から **[スタート] > [ファイル名を指定して実行]** をクリックします。*[開く]* フィールドでサーバ名（例：\\servername）を入力して、**[OK]** をクリックします。サーバにアクセスできる場合は、利用可能な共有リソースがすべて表示されます。これらの共有リソースのうち、1 つを選択してアクティブであることを確認します。アクティブでない場合は、Scan Station からフォルダにアクセスする前に、共有フォルダの *アクセス権限* を修正します。
選択した証明書の読み取り中にエラーが発生しました。他の証明書を選択するか、詳細情報についてはシステム管理者までお問い合わせください	これでアクセスできないドライブの証明書が特定されます。*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションへ戻り、**[出力先]** を選択し、出力先に **SharePoint** を選択して *[証明書]* フィールドをアクセス可能なドライブに設定します。

インジケータライト

Scan Station が起動中の場合、電源ボタンは青く点灯します。LED の状態を以下に説明します。

LED	ステータス
青色で点灯	• Scan Station の電源が最初に入ったときに一時的に表示されます。 • 起動中。
青色で点滅	• 電源を入れたか、ウォームアップから復帰し、初期化処理中です。 • 低電力モード。
赤色で点滅 / 点灯	• Scan Station の電源オンの際に一時的に表示されます。 • Scan Station のエラーを表します（カバーが開いている状態など）。

エラーログファイルの保存

サービス担当者が状況を詳しく調べるために、ログファイルを E メールに添付して送信するように依頼させて頂く場合があります。新しい USB メモリに設定ファイルを作成します。

1. Scan Station の USB ポートにメモリを差し込み、Scan Station をローカル管理者モードにします。Scan Station に［設定］アイコンが表示されます。
2. 矢印を使用して、［診断］アイコン が表示されるまでスクロールし、選択します。
3. **［ログを保存します］**をクリックしてから［**はい**］をクリックし、ログファイルを USB メモリに保存します。

analog.log および kss700.xml.log ファイルは USB メモリに保存されます。

また、*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションを使用してログファイルを保存できます。

1. *Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションを起動します。
2. **［スキャナー］**タブをクリックします。
3. **［スキャナー］> ［デバイス］**を選択し、保存するファイルのタイプを選択します。

サービスセンターへの問い合わせ

1. www.kodakalaris.com/go/IMsupport にアクセスして、お住まいの国の最新の電話番号を入手してください。
2. お電話の際は、次の情報をお手元にご用意ください。
   - 障害の内容。
   - Scan Station のシリアル番号。

13 用語集

DFS（分散ファイルシステム）— 複数のサーバに存在している共有フォルダを 1 つ以上の DFS 名前空間に透過的に接続することで共有フォルダをグループ化できます。DFS 名前空間は、組織内の共有フォルダの仮想ビューです。DFS ツールを使用すると、名前空間内に存在している共有フォルダを選択したり、フォルダが表示される階層を設計したり、名前空間内に示される共有フォルダの名前を決定できます。名前空間が表示された場合、ユーザからはフォルダが 1 つの大容量ハードディスクに存在しているように見えます。

DHCP (Domain Host Control Protocol) — コンピュータや他のネットワークデバイスに、ネットワークアドレス（IP アドレス）を動的に割り当てるネットワークプロトコル。

FQDN（*Fully Qualified Domain Name*、*完全修飾ドメイン名*）— コンピュータの IP アドレスにリンクされた、人間が読める（可読）名前。この名前には、コンピュータのホスト名とドメイン名が含まれます。

FTP（*File Transfer Protocol*、*ファイル転送プロトコル*）— 標準的なインターネットプロトコル。インターネットにアクセスしているコンピュータ間でファイルを送受信する簡単な方法です。同種のプロトコル（通信規約）には、表示可能な Web ページと関連ファイルを転送する HTTP（Hypertext Transfer Protocol、ハイパーテキスト転送プロトコル）、E メールを転送する SMTP（Simple Mail Transfer Protocol、簡易メール転送プロトコル）があります。FTP は、インターネットの TCP/IP プロトコルを使用するアプリケーションプロトコルです。FTP は一般的に、作成者から、インターネット上にある全ユーザのサーバの役割をするコンピュータに Web ページファイルを転送するのに使用されます。また、他のサーバから使用しているコンピュータに対して、プログラムやその他ファイルのダウンロードにも、一般的に使用されます。

IP アドレス（*Internet Protocol*、インターネットプロトコル）— ネットワーク上のコンピュータの参照に使用。アドレスは、3 桁の数字 4 個で構成される、国際フォーマットの値で、ピリオドで区切られます。例 : 192.168.1.1 個々のアドレスセグメントの範囲は 0 ～ 255 です。

***Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーション** — ネットワーク上のScan Stationのセットアップ、設定、管理に使用します。

NETBIOS（*Network Basic Input Output System*）— ローカルエリアネットワーク内で、異なるコンピュータ上のアプリケーション間の通信を可能にするネットワーク層。NETBIOS は物理的トポロジとして最もよく使用され、Windows NT ネットワークで不可欠です。ルーティングメカニズムをサポートしない、ブロードキャスト " プロトコル " である NETBIOS は、他のプロトコルが、より大規模な最新の（ルーティング）ネットワークで継続使用されることを可能にするために、そのプロトコルを引き継ぎます。

NETBIOS 名 — Microsoft Windows での別名、*コンピュータ名*。NETBIOS 名は、デバイスのユニークな名前です。15 文字（15 バイト）までに限定されます。

NTLM — メールサーバへのアクセスに対する認証アルゴリズム。

NT ドメインサーバ — ネットワークドメインを定義する、Microsoft Windows ベースのサーバ。ネットワークドメインは、コンピュータ、プリンタ、メールサーバ、ファイルサーバなどのコンピュータリソースのグループ化を定義します。

Ping — ユーザや管理者が、ネットワーク上の特定のデバイスがアクティブであるか、応答可能であるかを確認できる、一般的なコマンドラインプログラム。たとえば、*ping 127.0.0.1* を実行すると、（使用している）ローカルコンピュータがネットワーク要求に応答できるか確認するテストをします。

SMTP（*Simple Mail Transfer Protocol*、簡易メール転送プロトコル）— E メールの送受信に使用するプロトコル。

TCP/IP（*Transmission Control Protocol / Internet Protocol*、*伝送制御プロトコル/インターネットプロトコル*）— 高度なネットワークの特定の必要性に適合させたプロトコルの組み合わせ。TCP と IP の複合プロトコルの組み合わせが一般的で命名されました。TCP/IP は、インターネット上の通信に対する基本規格を形成します。

TCP ポート — ネットワークデータパケットのヘッダの特別な番号。TCP ポートは、データの、コンピュータプロセスまたはアプリケーションへのマッピングに使用されます。たとえば、ヘッダに番号 21 が設定された受信 TCP データパケットを受け取ったサーバは、通常、データをサーバで稼動している FTP プロセスにデータをマッピングします。番号 21 はクライアントで FTP セッションを開始するための標準的ポートです。

UNC（*Universal Naming Convention*（汎用命名規則））— ネットワークのサーバ、プリンタ、他のリソースを特定する規格。UNC パスは、コンピュータの名前の前にダブルスラッシュまたはバックスラッシュ、そしてアクセスするリソースの名前の前に単一のスラッシュを使用します。Windows オペレーティングシステムでは、UNC 名は次のようになります。

```
\\servername\sharename\path\filename
```

インデックステンプレート — スキャン原稿の*インデックスフィールド*を定義し、ファイル名やディレクトリパスにインデックスフィールドを指定するために使用します。

インデックスフィールド — スキャンした文書を特定の順序で分類、ソート、保存（*インデキシング*と呼びます）する際に使用する情報があります。インデックスフィールドは 1 ～複数のバーコードやテキスト (OCR データ）になります。

ジョブ名 — スキャン設定、インデックステンプレート、出力先、グループをまとめた総称。スキャン設定、出力先、ユーザグループをグループ化することで、Scan Station 管理者は複雑なタスクを簡素化できます。これにより、ユーザは、ワンタッチでジョブを選択できます。Scan Station のタッチスクリーンに表示されるボタン名になります。

チャレンジレスポンス (*CRAM-MD5*) — E メールサーバへのアクセスを認証するために使用する暗号化アルゴリズム。

プロキシサーバ — ワークステーションユーザとインターネットの中継として機能するサーバ。企業における安全性、運営管理コントロール、キャッシュサービスを確保するために設置されます。プロキシサーバは、企業のネットワークを外部のネットワークから切り離すゲートウェイサーバ、および、企業のネットワークを外部からの侵入に対して保護する、ファイアウォールサーバに関連付けられるか、これらの一部として機能します。

リモートアクセスパスワード — *Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションから Scan Station へのアクセスを制御するパスワードです。詳細については、第 3 章の「スキャナメニュー : リモートアクセスパスワード」を参照してください。

ルーター — 複数のコンピュータやデバイスから、ローカルエリアネットワークへの接続を可能にするデバイス。また、1 台のルーターを、ワイドエリアネットワーク (WAN) を構成する複数のルーター内の 1 つとして使用できます。

ローカルアクセスパスワード — Scan Station へアクセスするパスワードです。詳細については、第 4 章の「デバイスオプションの設定」を参照してください。

ローカル管理モード — Scan Station で管理機能を直接実行します。ローカル管理モードは、有効な設定ファイルを保存した USB メモリを Scan Station の USB ポートに挿入すると使用できます。

ワークグループ — 複数のコンピュータとコンピュータリソースをグループ化する、Microsoft のネットワークメカニズム。実際のネットワークドメインは使用しません。

自動設定スケジュール — ネットワークのリモート位置から Scan Station にファームウェアおよび設定のアップデートをスケジュールする機能。

設定 — デバイス設定、スキャン設定、出力先、グループ、ジョブ設定のをまとめた物。設定はコンピュータのハードディスクに格納されます。定義する追加の情報が含まれており、Scan Station に内容が反映されます。設定はハードディスク上の 1 つのファイルでは示されませんが、Scan Station を手動で設定する際に暗号化された .xml ファイルへのエクスポートが可能です。

設定ファイル — Scan Station のすべての設定が記述され、暗号化された .xml ファイル。基本的に設定ファイルは Scan Station の固有名、スキャン方法、イメージファイルの送信先などを指示します。

設定名 — デバイス設定、スキャン設定、インデックステンプレート、出力先、グループ、ジョブ設定の集合物の名前です。

認証証明書 — Scan Station がネットワークリソースにアクセスすることを許可する、ユーザ名、パスワード、ドメイン名（省略可）。

付録 A　　仕様

この付録では、Scan Station の仕様とシステム要件について記載しています。

インタフェース	10/100/1000 Mb/ 秒 イーサネット LAN、RJ-45 **Scan Station 730EX のみ**：56K FAX モデム搭載、RJ-11
出力方法	ネットワーク共有、プリンタ、電子メール、Fax、USB メモリ、FTP（匿名、認証、プロキシサポート）、SHAREPOINT、Kofax Front Office Server グループへスキャン
ネットワークプロトコル	TCP/IP、SMB、認証 SMTP（ログイン、プレーンテキスト、CRAM、NTLM）、DHCP（またはスタティック）、ネットワークドメイン認証
セキュリティ機能	PDF の暗号化、オプションで USB メモリドライブへのスキャン機能の有効化 / 無効化、LDAP によるセキュアログイン、ログイン ID によるアクティビティログイン、IP ポートブロッキング
スキャナー管理（システム管理者向け）	カスタマイズ可能なパスワードによる安全なログイン、複数の Scan Station 500 デバイスの作成や管理機能、管理デバイスのグループ化や分類、ひとつ、複数、またはすべての管理されたデバイスや内蔵ソフトウェアの管理、管理デバイスのステータスの表示、各管理デバイスのログファイルへのリモートアクセスと管理、各管理デバイスの再起動と電源オフ
出力ファイルフォーマット	シングルページ TIFF、マルチページ TIFF、JPEG、PDF、サーチャブル PDF、PDF/A、Microsoft Word、Microsoft Excel、RTF、暗号化 PDF、圧縮 JPEG（オプション）、TIFF、WAV オーディオファイル
コントロールパネル	24.6 cm 、1024× 768 (XGA) TFT LCD タッチスクリーン
オーディオ	注釈メッセージを記録 / 再生用内蔵マイクロフォンとスピーカー
イメージセンサ	デュアルカラー Quadlinear CCD（光学解像度 600 dpi）による両面スキャン読取り 階調 30 bit (10 x 3) カラー出力階調 24 bit (8 x 3) グレースケール出力 256 階調 (8 bit)
出力解像度	75、100、150、200、300、400、600
イメージ処理機能	パーフェクトページスキャン、自動傾き修正、自動枠消し、文字量基準白紙ページ削除、自動方向検出、パンチ穴除去、エッジ埋め、縦縞フィルタ、カラードロップアウトなど
読取り速度（A4 縦送り）	白黒、グレースケール、カラー 200 dpi 時に最大 50 ppm/100 ipm
重送検知	（超音波センサ）
光源	デュアル間接 LED
フィーダ	80 g/m^2 用紙を最大 75 枚
最大書類サイズ	216 x 4,000 mm 解像度によって制限される場合があります
最小書類サイズ	50 x 63.5 mm 連続給紙時：75 x 125 mm
書類の厚さおよび重量	413 g/m^2 用紙および ID カード（最大厚 1.25 mm）
推奨処理枚数	最高 1 日 6000 枚

外形寸法	**高さ**：20.8 cm **幅**：34.9 cm **奥行き**：38.1 cm
重さ	9.97 kg（22 ポンド）
USB メモリ推奨スペック	USB 2.0、最小容量：2 GB 画像 / ファイルを保存する場合の最小容量：2 GB
電力消費	**オフモード時**：< 0.3 W AC **スリープ時 (Energy Star)**：< 5W AC **待機中**：24 W AC **動作時**：< 55W AC
電源要件	AC 100 ～ 240 V（海外対応）、50/60 Hz
動作温度	10°C ～ 35°C (50°F ～ 95°F)
高度	< 2000 メートル
湿度	相対湿度：10 ～ 85%
環境要因	Energy Star 認証スキャナー

システム要件

Kodak Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションを PC にインストールする場合、以下のオペレーティングシステムのいずれかが必要です。

- Windows 7
- Windows 8
- Windows 10

いずれのオペレーティングシステムにも、Microsoft .Net 4.0 Framework が必要です。PC にインストールされていない場合は、自動的にインストールされます。

付録 B　　ネットワークプロトコルをサポートしています

Scan Station 700 シリーズは、標準的な RJ45 コネクタを使用してイーサネットベースの IP ネットワークに直接接続し、以下の環境で独立して動作します。

- Microsoft Windows Server 2003、Server 2008、Server 2012（TCP/IP、MS 共有、SMTP、FTP、印刷）
- MS services for NetWare 上の NetWare 3.x または 4.x（TCP/IP、MS 共有、SMTP、FTP）
- Unix/Linux 環境（SMTP、FTP のみ）

  注：使用するネットワーク環境では、これらすべてのネットワークプロトコルをサポートしていない場合もあります。

Scan Station 700 シリーズは、SMTP と認証済み SMTP プロトコル環境下で、画像ファイルを添付した E メール送信をサポートします。認証済み SMTP では、シンプルパスワード、NTLM、チャレンジレスポンスがサポートされています。使用する SMTP サーバで認証が必要な場合は、Scan Station へ証明書を提供する必要があります。

注：このバージョンでは、Kerberos はサポートしていません。

匿名 FTP (File Transfer Protocol) と、プロキシサポートを含む認証済み FTP もサポートされています。認証済み FTP のいずれか（プロキシあり / なし）を使用する場合は、FTP 設定で FTP サイトにアクセス可能な証明書が必要です。この情報については、ネットワーク管理者に確認してください。

Scan Station 700 シリーズは SMTP と FTP の異なるネットワークで使用できますが、ネットワークプリンタへの印刷には Microsoft プリンタドライバが必要です。また共有ネットワークフォルダへイメージをスキャンする場合は SMB (Server Message Block) ドライブアクセスが必要です。

Microsoft NT ドメイン内で使用する場合、管理者から提供される標準のドメインユーザアカウントを使用して、Scan Station からドメインリソース（共有フォルダおよびプリンタ）へアクセスします。

Microsoft Workgroup 内で使用する場合、ワークグループ PC が共有リソースへのゲストアクセスができるように設定されていれば、Scan Station からワークグループリソース（共有フォルダおよびプリンタ）へログイン証明書なしでアクセスします。

付録 C　　保証 ー米国、カナダ限定

Kodak スキャナーをご購入いただき、ありがとうございます。*Kodak* スキャナーは、お客様に最高レベルのパフォーマンスと信頼性をお届けします。すべての *Kodak* スキャナーは次の限定保証の対象となります。

***Kodak* スキャナーの限定保証**

Kodak Alaris 社は、Kodak Alaris または Kodak Alaris 認定小売チャネルを通じて販売された、*Kodak* スキャナー（部品および消耗品を除く）に次の限定保証を適用します。

Kodak Alaris 社は、販売時から製品に適用される限定保証期間内において、*Kodak* スキャナーの材料および製造上の欠陥がなく、特定の *Kodak* スキャナーに該当するパフォーマンス仕様に準拠することを保証します。

すべての *Kodak* スキャナーには以下の保証除外規定が適用されます。欠陥がある、または製品仕様に準拠していない *Kodak* スキャナーは、Kodak Alaris の判断により、修理、新製品または代替製品と交換いたします。

購入者は、www.kodakalaris.com/go/IMsupport にアクセスする、または *Kodak* スキャナーに同梱されている限定保証の概要のカードを見て、購入した *Kodak* スキャナーに適用される限定保証期間を確認できます。

保証によるサービスを受けるには、購入を証明する書類が必要となります。

保証の除外

Kodak Alaris の限定保証は、災害、事故、不可抗力、輸送などの原因によって、購入後に *Kodak* スキャナーがこうむった物理的損害には適用されません。これには、次の場合が含まれます。(a) Kodak Alaris にスキャナーを送り返す際に、現行の Kodak Alaris の梱包材と輸送のガイドラインにしたがってスキャナーを梱包および輸送しなかったために損害が生じた（発送前に輸送中の損害を防ぐ手段を講じなかった、または、使用前にこれらの手段を取り外さなかった場合を含む）。(b) ユーザーのオペレーティングシステムまたはアプリケーションソフトウェアのインストール、システム統合、プログラミング、または再インストール、製品またはコンポーネントのシステムエンジニアリング、移動や廃棄、データの再構築によって損害が生じた（コネクタ、カバー、ガラス、ピン、シールの破損を含む）。(c) Kodak Alaris、または Kodak Alaris の正規修理店以外によってサービス、変更、または修理が行われた、または、製品の改造、Kodak Alaris 製品の模造コンポーネントや Kodak Alaris 社製以外のコンポーネント、アセンブリ、アクセサリ、モジュールの使用によって損害が生じた。(d) 誤用、妥当な範囲外の製品の扱いやメンテナンス、手荒な扱い、使用者の誤動作、適切な監督やメンテナンスを行わなかった（推奨されている手順や仕様に従わなかった、Kodak Alaris の承認しないクリーニング用品やその他のアクセサリの使用を含む）ことによって損害が生じた。(e) 環境的な条件（過度な高温や、その他の不適切な物理的稼動環境）、腐食、しみ、製品外での電気配線、静電気放電 (ESD) 保護を行わなかったことによって損害が生じた。(f) 製品に対して提供されているファームウェアの更新やリリースをインストールしなかったために損害が生じた。(g) その他の随時追加される除外項目によって損害が生じた。これらの追加項目はオンライン (www.kodakalaris.com/go/IMsupport) で確認可能。

Kodak Alaris では、米国およびカナダ以外の国で購入された製品に対しては、限定保証を提供していません。米国外の流通経路から製品を購入した場合は、購入元によって保証が行われます（該当する場合）。

Kodak Alaris では、サードパーティの製品、コンピュータシステム、またはその他の電子機器の一部として購入された製品に対しては、限定保証を行いません。

これらの製品に対する保証は、OEM (Original Equipment Manufacturer) により、このメーカーの製品やシステムの一部として提供されます。

製品を交換した場合の限定保証の期間は、欠陥のあった元の製品に適用される期間か、30 日のうち、長い方となります。

設置に関する警告と断り書き

Kodak Alaris では、原因のいかんを問わず、この製品の販売、設置、使用、修理、または機能障害に起因する結果的または偶発的な損害について、いかなる責任も負いません。これらの Kodak Alaris が保証責任をもたない損害には、収入や利益の損失、データの損失、ダウンタイムの費用、製品の使用の損失、当製品を置換する製品のコスト、設備やサービス、および顧客によるこれらの損害に対する要求を含み、またこれに限られたものではありません。

この付録の条項と、限定保証の条項間に矛盾がある場合は、限定責任の条項が優先されます。

限定保証によるサービスを受けるには

Kodak スキャナーには、開梱、セットアップ、設置、操作に関する情報が付属しています。ユーザーズガイドを注意して読むことで、製品の適切な設置、使用、メンテナンスに関し、ほとんどの技術的情報が得られます。ただし、ユーザーズガイドを参照してもまだ疑問がおありの場合は、当社の Web サイト（www.kodakalaris.com/go/IMsupport にアクセスしていただくか、以下までお問い合わせください。Kodak Alaris サポートセンター：**(800) 822-1414**

サポートセンターは、休日を除く月曜日から金曜日の午前 8 時から午後 5 時まで営業しています。

お問い合わせになる前に、該当する購入者は *Kodak* スキャナーのモデル番号、パーツ番号、シリアル番号、購入を証明できるものをご用意ください。また、問題について説明できるように、情報を整理しておいてください。

サポートセンターの担当者は、ユーザーが問題を解決できるように、電話でお手伝いします。場合によっては、いくつかの簡単な自己診断テストを実行して、結果のステータスやエラーコードのメッセージを伝えるように求められることがあります。これは、問題が *Kodak* スキャナーにあるかまたは別のコンポーネントにあるのか、問題を電話で解決できるか、サポートセンターでの判断に役立てるためです。サポートセンターが、ハードウェア障害が限定保証や購入されたサービス保守契約の範囲であると判断する場合は、必要に応じて RMA 番号（返品認証番号）が発行されます。その後、サービスのリクエストが発行され、修理か交換が行われます。

梱包と輸送のガイドライン

購入者は、保証が適用される製品を返送する場合、製品が輸送中に損傷しないように、十分な梱包を行ってください。梱包が十分でなかった場合、*Kodak* スキャナー保証が無効になります。製品の保管や輸送のために、元の箱や梱包を保管しておくことをお勧めします。Kodak Alaris では、輸送中の損傷に関連する問題については責任を負いません。購入者は *Kodak* スキャナーのみを返品してください。発送の前に、すべての追加のアイテム（アダプタ、ケーブル、ソフトウェア、マニュアルなど）を取り外して、保管しておいてください。Kodak Alaris はこれらの品目について責任を負わず、修理または交換した *Kodak* スキャナーと一緒に返送されません。すべての製品は、元の梱包、または返品するユニットに対して承認された梱包を使用して、Kodak Alaris に返送してください。購入者は *Kodak* スキャナーを発送する前に、梱包材を取り付けてください。元の梱包がない場合は、Kodak Alaris のサポートセンター（電話：800-822-1414）に、新しい梱包用品のパーツ番号と注文方法を問い合わせてください。

返送の手順

本限定保証の対象となる *Kodak* スキャナーのサービスを受けられる購入者は、(800) 822-1414 に連絡して返品認証番号 (RMA) を取得し、RMA の発行から 10 営業日以内に Kodak Alaris の現行の梱包と輸送のガイドラインに従い、*Kodak* スキャナーをエンドユーザーの送料および保険料負担で RMA が指定する宛先まで発送するものとします。

Kodak Alaris が交換した製品や部品は、Kodak Alaris の所有となります。

顧客の責任

サービスの要求を行うことによって、限定保証の対象となる購入者は、限定保証の条件（断り書きと限定保証の条項を含む）に合意したものとみなされます。サービスを受けるまえに、ユーザーは損傷を受ける、または損失される恐れのあるデータやファイルをすべてバックアップしてください。Kodak Alaris では、失われた、または損傷を受けたデータやファイルに対し、何ら責任を負いません。

保証サービスの説明

Kodak Alaris は限定保証をサポートし、*Kodak* スキャナーの使用および取り扱い（サービス方法）を支援する、様々なサービスプログラムを提供しています。*Kodak* スキャナーは重要な投資です。*Kodak* スキャナーは、競争力を維持するために必要な生産性を発揮します。たとえ一時的であっても、この生産性を失うと、ビジネスに支障が生じる場合があります。ダウンタイムは、修理費だけでなく、時間を失ったという意味でも、非常に高価なものになりえます。これらの問題を避けるために、Kodak Alaris では限定保証の遂行にあたり、製品タイプによって、以下にあげるサービス方法のいずれかを使用します。

選択した *Kodak* スキャナーには限定保証登録カードと限定保証概要カードが付属しています。このカードは、モデルごとに異なります。限定保証の概要カードには、モデル番号と限定保証を含む、重要な保証に関する情報が記載されています。特定の *Kodak* スキャナーに適用されるサービス方法を判断するには、限定保証概要カードを参照してください。

限定保証登録カード、または限定保証の概要カードが見つからない場合、製品に関する情報（最新の保証やサービスプログラムに関する情報や制限を含む）は、ネット上 (www.kodakalaris.com/go/IMsupport) で入手できます。

サービスの遅延を避けるために、限定保証登録カードをできるだけ早く返送してください。限定保証登録カードが見当たらない場合は、ネット上 (www.kodakalaris.com/go/IMsupport) で登録できます。

Kodak Alaris はまた、*Kodak* スキャナーの使用と取り扱いを支援するために購入できるサービスプログラムも提供しています。

Kodak Alaris では、限定保証によってお客様に、品質、パフォーマンス、信頼性、そしてサービスをお届けするべく努力しています。

当社は、製造終了後、最低 5 年間はスペア部品と消耗品を供給いたします。

出張サービス

選択した *Kodak* スキャナーに対して、サポートセンターがハードウェアプログラムを確認した場合、サービスコールが作成され、記録されます。製品がアメリカ合衆国の 48 州、またはアラスカとハワイの一部の地域にあり、技術者がスキャナにアクセスするにあたってセキュリティ上、安全上、または物理的な制限のない場合は、Kodak Alaris の技術者が製品のある場所に派遣されて、修理が行われます。サービスが提供されている地域の詳細については、当社の Web サイト（www.kodakalaris.com/go/IM 出張サービスは、休日を除く、月曜日から金曜日までの現地時間で午前 8 時から午後 5 時の間に実施されています。

AUR（アドバンスユニット交換）

AUR は、業界で提供されているサービスの中で、もっとも簡単で、包括的なものといえるでしょう。万が一製品に欠陥があった場合、特定の *Kodak* スキャナーの該当する購入者に対し、Kodak Alaris は 2 営業日以内に製品を交換します。

AUR では特定の障害または破損のある *Kodak* スキャナーについて、事前に交換を行います。AUR を利用するには、対象となる購入者は RMA 番号を取得し、アドバンス交換合意書に署名し、交換用製品を確保するためのクレジットカードへの課金に了承します。RMA 番号は、交換のための製品を確認しなければならない場合のために、大切に保管してください。対象となる購入者は、交換のための製品の郵送先住所を尋ねられます。また、故障した製品の返品のために、梱包と発送に関する指示がファックスで送信されます。サービスのリクエストが始まり、Kodak Alaris が署名された合意書を受け取ってから 2 営業日以内に、交換用の製品が届けられます。故障した製品は、ユーザーが交換用製品を受け取ってから 10 日以内に Kodak Alaris に届けられる必要があります。この期日を過ぎると、交換用製品の標準価格がユーザーのクレジットカードに課金されます。交換用製品の発送にあたっては、Kodak Alaris が送料を負担し、輸送手段を選択します。Kodak Alaris の指示や、Kodak Alaris が希望する輸送業者以外を使って発送が行われた場合、限定保証は無効になることがあります。

製品を Kodak Alaris に返送する前に、限定保証でカバーされていない、すべてのオプションやアクセサリ（電源コードやマニュアルを含む）を取り外してください。故障した製品の返送には、交換用製品に使われていた箱と梱包を使用してください。故障した製品が、交換用製品に使われていた箱と梱包で返送されなかった場合、限定保証は無効になることがあります。故障した製品が適切に受理されるように、RMA (Return Material Authorization) 番号を箱の外側にはっきりと書いてください。

ディーポサービス

Kodak スキャナーが AUR またはオンサイトサービスの対象外の場合、該当する購入者はディーポ修理サービスを利用できます。対象となる購入者は、最寄の正規ディーポ修理センターに製品を送るように指示されます。修理センターまでの輸送の費用は購入者が負担し、輸送中の破損などについては購入者が責任をもつものとします。製品を修理センターに返送する前に、限定保証でカバーされていない、すべてのオプションやアクセサリ（電源コードやマニュアルを含む）を取り外してください。すべての製品は、元の梱包、または推奨されている箱を使用して、Kodak Alaris に返送してください。*Kodak* スキャナーは、発送前に梱包材を取り付けてください。元の梱包がない場合は、Kodak Alaris のサポートセンター（電話：800-822-1414）に、新しい梱包用品の注文方法を問い合わせてください。*Kodak* スキャナーのサービスを受けられる購入者は、(800) 822-1414 に連絡して返品認証番号（「RMA」）を取得し、RMA の発行から（10 営業日以内に Kodak の現行の梱包と輸送のガイドラインに従い、*Kodak* スキャナーをエンドユーザーの送料および保険料負担で RMA が指定する宛先まで発送するものとします。故障した製品が適切に受理されるように、RMA (Return Material Authorization) 番号を箱の外側にはっきりと書いてください。

製品の受理後、修理センターは製品を 10 営業日以内に修理します。修理された製品は、2 日以内に配送されるエクスプレス便で購入者に返送されます。購入者はこの送料を負担する必要はありません。

重要な制限

資格：アドバンス交換プログラムおよびディーポサービスは米国 50 州の該当する購入者が利用でき、オンサイトサービスは隣接した 48 州、アラスカおよびハワイの特定の領域で Kodak Alaris の認定ディストリビュータから購入した製品に対して利用できます。*Kodak* スキャナーは、購入者が Kodak Alaris のその時点で有効な梱包および発送のガイドラインに従って欠陥のある製品を返送しなかった場合など、製品が Kodak Alaris のその時点で有効な保証除外規定を満たさない場合、保証内のいかなるサービスも受けられません。購入者は、*Kodak* スキャナーを個人またはビジネス目的で購入し、再販目的ではない場合に「該当する購入者」または「エンドユーザー」とみなされます。

消耗品：消耗品は、通常の使用において消費され、必要に応じてエンドユーザーによって交換される品目です。消耗品や備品など、および、ユーザーズガイドでユーザーの責任であると述べられているアイテムは、限定保証の対象とはなりません。

Kodak Alaris が交換した製品や部品は、Kodak Alaris の所有となります。

Kodak Alaris へのお問い合わせ

Kodak スキャナーに関する情報：

Web サイト：www.kodakalaris.com/go/IM

米国内の電話によるサービス、修理、技術サポート

電話によるテクニカルサポートは、休日を除く月曜日から金曜日まで、午前 5 時から午後 5 時まで営業しています。
電話：(800) 822-1414

技術文書と FAQ（24 時間）：

Web サイト：www.kodakalaris.com/go/IM

サービスプログラム情報：

Web サイト：www.kodakalaris.com

電話：(800) 822-1414

Kodak Alaris Inc.
2400 Mount Read Blvd.
Rochester, NY 14615

© 2016 Kodak Alaris Inc.
All rights reserved.
コダックの商標およびトレードドレスはイーストマンコダック社の許可を受けて使用しています。